

港湾審議会第155回計画部会資料

岡山港港湾計画資料(その1)

—— 改 訂 ——

平成7年8月

岡山港港湾管理者

目 次

1. 港湾の沿革と概要	1
1-1 港湾の生成と発展過程の概要	1
1-2 過去における修築工事の概要	2
1-3 過去における港湾計画の概要	10
2. 港湾の現況	25
2-1 概 要	25
2-2 港湾施設の現況	26
2-3 港湾の利用状況	40
2-4 現状における課題	57
3. 立地機構	59
3-1 概 要	59
3-2 地理的条件	59
3-3 自然条件	61
3-4 経済的・社会的条件	74
4. 計画目標決定の資料	83
4-1 港湾計画の基本方針	83
4-2 港湾取扱貨物量の推計	85
4-3 入港船舶隻数の推計	90
4-4 港湾利用者数の推計	91
5. 港湾区域及び臨港地区の範囲の検討	92
5-1 港湾区域	92
5-2 臨港地区	92
6. 施設計画に関する資料	95
6-1 公共ふ頭計画	95
6-2 フェリー及び旅客船ふ頭計画	102
6-3 危険物取扱施設計画	104
6-4 水域施設計画	105
6-5 小型船だまり計画	113
6-6 臨港交通施設計画	124
6-7 港湾環境整備施設計画	129
6-8 廃棄物処理・活用計画	133
6-9 土地造成及び土地利用計画	134
7. その他の計画	140
7-1 プレジャーボート収容計画	140
7-2 大規模地震対策施設計画	144

8. 法線計画	-----	146
9. 資金計画	-----	151
10. 新旧対照図	-----	153
11. 鳥かん図	-----	155
12. 岡山港港湾利用ゾーニング図	-----	157
13. 関係機関との調整	-----	158

1. 港湾の沿革と概要

1-1 港湾の生成と発展過程の概要

岡山市周辺は、瀬戸内海特有の温和な気候にめぐまれ、吉備文化の発祥の地として古代から文化の中心地であった。天正元年には、宇喜多直家が岡山城を築城し、この地を治めて以来、旭川下流の京橋付近は、城下の海運の要所として活況を呈してきた。また、旭川河口左岸の三幡は、明治18年に明治天皇の御上陸された地でもあり、近海航路の発着地として利用された。さらに明治の中頃から昭和にかけて鉄道が次々と開通したことによって、山陰・四国方面に至る海運、陸運の交通の要衝としてますますその重要性が高まった。

昭和9年、内務省指定港湾となり、同13年には、内務省の旭川改修工事にもなつて河岸に物揚場が完成し、貨客定期船および機帆船の発着でにぎわった。一方、旭川河口右岸の福島地区においては、昭和のはじめから埋立による工場地の造成をおこない、昭和11年には工場の操業を開始した。昭和16年には、岡山港修築工事が始まり、防波堤、護岸、船だまり等の施設が完成し、終戦による一時的な港湾工事の中断も、昭和27年には再開され、水深4.0m物揚場の建設に引き続き水深5.5m岸壁、水深6.0m岸壁を整備し、昭和41年に完成した。これにともない本地区には、次々と工場が立地し、岡南工業地帯を形成するに至っている。

また、昭和26年に岡山県が港湾管理者となり、昭和39年には、県南地区新産業都市の指定に伴い、吉井川下流の西大寺港と幸島港及び児島湾入口の小串港を合併して港湾区域を拡大し、同年4月1日をもって重要港湾に指定された。その後昭和43年には、旭川河口左岸の高島地区において新岡山港の建設に着手し、水深4.0m物揚場、水深5.5m岸壁（2,000D/W級5バース）、水深7.5m岸壁（5,000D/W級2バース）の整備が進められた。昭和50年までに第1突堤から第3突堤までが竣工し、昭和62年には、第4突堤を含めてすべて供用を開始している。

近年では港湾空間の高度利用を図るため昭和58年2月に、港を横断する児島湾大橋が完成し、開港である宇野港との交通も容易となり、外貿機能と内貿機能が相互に補完される有利な条件が整った。また、平成4年には岡南大橋の開通により、これまで旭川で分断されていた福島地区と高島地区の一体的利用が図られることとなった。さらに今後は、山陽自動車道、本四架橋等の背後交通網の整備により、中四国における拠点性が高まっていくことが予想され、一層の整備発展が期待されている。

1-2 過去における修築工事の概要

岡山港の過去における修築工事の概要は、表1-2-1のとおりである。

表1-2-1(1) 修築工事の概要

工事名	工事内容	工事期間	工費(千円)	施工主体
改修工事	〔西大寺地区〕 物揚場(-2.0m) 300m	昭和26年～ 27年度	34,201	岡山県
改修工事	〔福島地区〕 岸壁(-6.0m) 21.9m 航路(-6.0m) 147,500m ³	昭和39年度	39,382	〃
改修工事	〔福島地区〕 物揚場(-4.0m) 2.0m 岸壁(-5.5m) 8.0m 岸壁(-6.0m) 73.8m 泊地(-6.0m) 5,500m ³ 道路 21,282m ²	昭和40年度	9,000	〃
改修工事	〔福島地区〕 岸壁(-6.0m) 9.3m 航路(-6.0m) 13,082m ² 泊地(-6.0m) 24,100m ³ 道路 1,772m ²	昭和41年度	60,300	〃
改修工事	〔福島地区〕 道路 792m ²	昭和42年度	7,600	〃
改修工事	〔福島地区〕 航路(-6.0m) 20,600m ³ 〔高島地区〕 物揚場(-4.0m) 377.2m 泊地(-4.0m) 34,180m ³ 泊地(-5.5m) 73,870m ³	昭和43年度	240,000	〃
改修工事	〔福島地区〕 航路(-6.0m) 23,700m ³ 〔高島地区〕 物揚場(-4.0m) 62.6m 物揚場(-1.5m) 73.7m 泊地(-1.5m) 10,400m ³ 泊地(-4.0m) 90,200m ³ 泊地(-5.5m) 35,100m ³	昭和44年度	249,000	〃
改修工事	〔福島地区〕 航路(-6.0m) 92,700m ³ 〔高島地区〕 物揚場(-4.0m) 123.5m 物揚場(-1.5m) 26.3m 泊地(-4.0m) 28,500m ³ 泊地(-5.5m) 93,200m ³	昭和45年度	310,000	〃
改修工事	〔高島地区〕 物揚場(-4.0m) 199.1m 岸壁(-5.5m) 131.4m 泊地(-4.0m) 30,700m ³ 泊地(-5.5m) 27,200m ³ 道路 22,366m ²	昭和46年度	480,000	〃

表 1 - 2 - 1 (2) 修 築 工 事 の 概 要

工事名	工 事 内 容	工事期間	工 費 (千円)	施工主体
改 修 工 事	〔高島地区〕 物揚場 (-4.0m) 42.8m 岸 壁 (-5.5m) 264.7m 岸 壁 (-7.5m) 114.4m 泊 地 (-5.5m) 21,500m ³ 泊 地 (-7.5m) 16,800m ³ 道 路 13,843m ²	昭 和 47 年 度	540,800	岡 山 県
改 修 工 事	〔高島地区〕 物揚場 (-4.0m) 130.4m 岸 壁 (-5.5m) 26.7m 岸 壁 (-7.5m) 9.2m 泊 地 (-4.0m) 3,690m ³ 泊 地 (-5.5m) 152,800m ³ 泊 地 (-7.5m) 329,300m ³ 道 路 23,600m ²	昭 和 48 年 度	520,000	//
改 修 工 事	〔高島地区〕 物揚場 (-1.5m) 67.2m 物揚場 (-4.5m) 15.9m 岸 壁 (-5.5m) 31.6m 岸 壁 (-7.5m) 7.5m 泊 地 (-5.5m) 267,400m ³ 泊 地 (-7.5m) 864,500m ³ 道 路 4,919m ²	昭 和 49 年 度	600,000	//
改 修 工 事	〔高島地区〕 物揚場 (-1.5m) 75.5m 物揚場 (-4.0m) 47.4m 岸 壁 (-5.5m) 8.7m 泊 地 (-4.0m) 18,500m ³ 泊 地 (-5.5m) 253,600m ³ 泊 地 (-7.5m) 143,100m ³ 道 路 550m ²	昭 和 50 年 度	546,000	//
環境整備 工事	〔高島地区〕 緑 地 1,360m ²	昭 和 50 年 度	11,000	//
廃棄物処理 工事	オイルフェンス 960m	昭 和 50 年 度	62,000	//
改 良 工 事	〔九幡地区〕 防波堤 3.3m 〔西米崎地区〕 防波堤 14.8m	昭 和 50 年 度	28,770	//
改 修 工 事	〔高島地区〕 防波堤 25.8m 物揚場 (-4.0m) 68.6m 岸 壁 (-7.5m) 38.0m 泊 地 (-4.0m) 2,480m ³ 泊 地 (-7.5m) 4,270m ³ 航路泊地 (-1.5m) 48,900m ³	昭 和 51 年 度	200,000	//
環境整備 工事	〔高島地区〕 緑 地 9,340m ²	昭 和 51 年 度	71,600	//

表 1-2-1(3) 修築工事の概要

工事名	工 事 内 容	工事期間	工 費 (千円)	施工主体
改 良 工 事	〔九幡地区〕 防波堤 25.8m 防波堤 3.7m 〔西米崎地区〕 防波堤 16.3m	昭 和 51 年 度	36,000	岡 山 県
改 修 工 事	〔高島地区〕 物揚場 (-4.0m) 19.4m 岸 壁 (-7.5m) 80.7m 泊 地 (-4.0m) 9,400m ³ 泊 地 (-7.5m) 171,300m ³	昭 和 52 年 度	400,000	〃
環境整備 工事	〔高島地区〕 緑 地 11,490m ²	昭 和 52 年 度	196,500	〃
改 良 工 事	〔九幡地区〕 防波堤 14.2m 物揚場 (-1.0m) 21.7m 〔西米崎地区〕 防波堤 8.7m 防波堤 (改良) 25.0m 〔高島地区〕 安全対策施設 (照明灯)	昭 和 52 年 度	42,000	〃
改 修 工 事	〔高島地区〕 物揚場 (-4.0m) 13.1m 岸 壁 (-7.5m) 8.0m 泊 地 (-7.5m) 151,490m ³	昭 和 53 年 度	200,000	〃
環境整備 工事	〔高島地区〕 緑 地 8,550m ²	昭 和 53 年 度	150,000	〃
改 良 工 事	〔九幡地区〕 物揚場 (-1.0m) 8.3m 船揚場 10m 〔西米崎地区〕 防波堤 25.0m 〔正義地区〕 栈 橋 (-1.0m) 81.1m 〔高島地区〕 安全対策施設 (照明灯, 防舷材, 車止)	昭 和 53 年 度	74,400	〃
改 修 工 事	〔高島地区〕 物揚場 (-4.0m) 2.2m 岸 壁 (-7.5m) 3.3m 泊 地 (-7.5m) 237,000m ³ 道 路 1,044m ²	昭 和 54 年 度	240,000	〃
環境整備 工事	〔高島地区〕 緑 地	昭 和 54 年 度	66,900	〃
改 良 工 事	〔九幡地区〕 防波堤 (改良) 52.6m 〔正義地区〕 栈 橋 (-1.0m) 78.9m 〔相引地区〕 防波堤 17.0m 〔鉾立地区〕 物揚場 (階段) (-1.0m) 22.7m	昭 和 54 年 度	60,000	〃

表1-2-1(4) 修築工事の概要

工事名	工 事 内 容	工事期間	工 費 (千円)	施工主体
改 修 工 事	〔高島地区〕 航 路 (-7.5m) 6,900㎡ 橋 梁 0.5m	昭 和 55 年 度	200,000	岡 山 県
環境整備 工事	〔高島地区〕 緑 地 2,038㎡	昭 和 55 年 度	34,220	//
改 良 工 事	〔九幡地区〕 防波堤 (改良) 122.8m 〔相引地区〕 防波堤 35.1m 〔鉾立地区〕 物揚場 (階段)(-1.0m) 14.2m 泊 地 (-1.0m) 2,238㎡	昭 和 55 年 度	92,100	//
改 修 工 事	〔高島地区〕 橋 梁 0.5m 物揚場 (-2.5m) 61.1m 物揚場 (-4.0m) 5.1m 〔福島地区〕 防波堤 4.5m	昭 和 56 年 度	300,000	//
環境整備 工事	〔高島地区〕 緑 地 2,021㎡	昭 和 56 年 度	36,000	//
改 良 工 事	〔九幡地区〕 防波堤 (改良) 63.5m 物揚場 (階段)(-1.0m) 5.3m 〔相引地区〕 防波堤 27.9m 〔向小串地区〕 防波堤 36.5m 泊 地 (-1.0m) 4,050㎡	昭 和 56 年 度	109,800	//
改 修 工 事	〔高島地区〕 橋 梁 0.12m 物揚場 (-1.5m) 109.1m 物揚場 (-2.5m) 26.5m 物揚場 (-4.0m) 4.0m 道 路 1,795㎡ 〔福島地区〕 防波堤 3.3m	昭 和 57 年 度	363,000	//
環境整備 工事	〔高島地区〕 緑 地 1,173㎡	昭 和 57 年 度	24,000	//
改 良 工 事	〔九幡地区〕 防波堤 (改良) 32.8m 物揚場 (-1.0m) 38.8m 泊 地 (-1.0m) 1,700㎡ 〔相引地区〕 物揚場 (-1.0m) 6.3m 〔向小串地区〕 防波堤 66.9m	昭 和 57 年 度	131,400	//

表 1 - 2 - 1 (5) 修 築 工 事 の 概 要

工事名	工 事 内 容	工事期間	工 費 (千円)	施工主体
改 修 工 事	〔高島地区〕 航 路 (-7.5m) 1,182m ³ 物揚場 (-1.5m) 30.9m 物揚場 (-2.5m) 12.4m 物揚場 (-4.0m) 1.8m 道 路 2,832m ² 〔福島地区〕 防波堤 93.0m 航 路 (-1.0m) 4,100m ³ 物揚場 (-1.0m) 50.0m 泊 地 (-1.0m) 3,800m ³	昭 和 58年度	300,000	岡 山 県
環境整備 工事	〔高島地区〕 緑 地 1,478m ²	昭 和 58年度	25,400	//
改 良 工 事	〔九幡地区〕 防波堤 (改良) 17.9m 物揚場 (-1.0m) 44.3m 泊 地 (-1.0m) 1,730m ³ 道 路 120m ² 〔相引地区〕 物揚場 (-1.0m) 13.8m 航路泊地 (-1.0m) 5,750m ³ 〔向小串地区〕 防波堤 11.4m	昭 和 58年度	114,000	//
改 修 工 事	〔高島地区〕 航 路 (-7.5m) 99,278m ³ 道 路 (6.5~13×403m) 4,054m ² 〔福島地区〕 防波堤 69.2m	昭 和 59年度	300,000	//
環境整備 工事	〔高島地区〕 緑 地 123m ²	昭 和 59年度	35,000	//
改 良 工 事	〔九幡地区〕 防波堤 (改良) 16.8m 物揚場 (-1.0m) 32.6m 道 路 (3×10.6m) 31.9m 〔相引地区〕 物揚場 (-1.0m) 24.3m 〔向小串地区〕 防波堤 3.8m	昭 和 59年度	60,000	//
改 修 工 事	〔高島地区〕 航 路 (-7.5m) 175,565m ³	昭 和 60年度	292,500	//
環境整備 工事	〔九幡地区〕 緑 地 106m ²	昭 和 60年度	15,000	//
改 良 工 事	〔九幡地区〕 防波堤 14.4m 物揚場 (-1.0m) 49.5m 道 路 (3×18.4m) 55.1m ² 護 岸 82.3m 〔相引地区〕 物揚場 22.1m 〔向小串地区〕 防波堤 1.4m 物揚場 (-1.0m) 15.3m	昭 和 60年度	84,300	//

表 1 - 2 - 1 (6) 修 築 工 事 の 概 要

工事名	工 事 内 容	工事期間	工 費 (千円)	施工主体
改 修 工 事	〔高島地区〕 航 路 (-7.5m) 107,411 ^m 〔幸島地区〕 航 路 (-1.0m) 25,200 ^m 防砂堤 48.0m 防砂堤 65.6m 物揚場 (-1.0m) 8.6m 船揚場 0.3m 泊 地 (-1.0m) 6,900 ^m	昭 和 61 年 度	360,000	岡 山 県
環境整備 工事	〔高島地区〕 緑 地 659 ^m	昭 和 61 年 度	24,000	//
改 良 工 事	〔九幡地区〕 防波堤 (改良) 11.8m 護 岸 52.2m 〔相引地区〕 物揚場 (-1.0m) 15.6m 〔升田地区〕 物揚場 (-1.0m) 4.3m 〔鉾立地区〕 物揚場 (-1.0m) 4.4m	昭 和 61 年 度	76,500	//
改 修 工 事	〔高島地区〕 航 路 (-7.5m) 90,847 ^m 泊 地 (-1.5m) 720 ^m 浮棧橋 0.02基 けい船杭 (-4.0m) 0.05 ^m -ス 〔幸島地区〕 防波堤 37.1m 防砂堤 15.7m 物揚場 (-1.0m) 32.1m 船揚場 1.5m	昭 和 62 年 度	250,000	//
環境整備 工事	〔高島地区〕 緑 地 1,734 ^m	昭 和 62 年 度	52,000	//
改 良 工 事	〔九幡地区〕 防波堤 (改良) 17.7m 護 岸 25.6m 〔相引地区〕 物揚場 41.3m 〔鉾立地区〕 物揚場 (-1.0m) 35.6m 泊 地 (-1.0m) 1,270 ^m 〔向小串地区〕 物揚場 (改良)(-1.0m) 24.5m	昭 和 62 年 度	106,800	//
改 修 工 事	〔高島地区〕 航 路 (-7.5m) 71,163 ^m 浮棧橋 0.56基 道 路 (6.5×182.8m) 1,188.2 ^m 〔幸島地区〕 防砂堤 18.3m 防波堤 4.9m 物揚場 (-1.0m) 41.7m 船揚場 2.9m	昭 和 63 年 度	250,000	//
環境整備 工事	〔高島地区〕 緑 地 701 ^m	昭 和 63 年 度	50,000	//

表 1 - 2 - 1 (7) 修 築 工 事 の 概 要

工事名	工 事 内 容	工事期間	工 費 (千円)	施工主体
改 良 工 事	〔九幡地区〕 防波堤 (改良) 24.1m 護 岸 28.3m 〔相引地区〕 防波堤 5.2m 物揚場 (-1.0m) 14.0m 航路泊地 (-1.0m) 3,600m ² 〔升田地区〕 物揚場 (-1.0m) 22.9m 〔向小串地区〕 物揚場 (改良) (-1.0m) 13.6m	昭 和 6 3 年 度	114,600	岡 山 県
改 修 工 事	〔高島地区〕 航 路 (-7.5m) 6,537m ³ 泊 地 (-1.5m) 3,024m ³ 泊 地 (-4.0m) 896m ³ 泊 地 (-7.5m) 203,263m ³ 浮棧橋 0.42基 けい船杭 (-4.0m) 0.95ハース 道 路 (6.5×27.2m) 〔幸島地区〕 物揚場 (-1.0m) 7.6m 船揚場 0.3m	平 成 元 年 度	400,000	〃
環境整備 工事	〔高島地区〕 緑 地 645m ²	平 成 元 年 度	50,000	〃
改 良 工 事	〔九幡地区〕 防波堤 (改良) 55.7m 護 岸 9.8m 〔相引地区〕 防波堤 24.8m 航路泊地 (-1.0m) 5,442m ³ 〔升田地区〕 物揚場 (-1.0m) 19.8m 〔向小串地区〕 物揚場 (改良) (-1.0m) 16.6m	平 成 元 年 度	88,800	〃
改 修 工 事	〔高島地区〕 航 路 (-7.5m) 50,437m ³ 泊 地 (-7.5m) 290,546m ³	平 成 2 年 度	500,000	〃
環境整備 工事	〔高島地区〕 緑 地 5,076m ²	平 成 2 年 度	44,000	〃
改 良 工 事	〔九幡地区〕 防波堤 (改良) 55.7m 護 岸 31.8m 〔相引地区〕 防波堤 (改良) 17.8m 〔東米崎地区〕 防波堤 (改良) 60.0m	平 成 2 年 度	75,000	〃

表1-2-1(8) 修築工事の概要

工事名	工 事 内 容	工事期間	工 費 (千円)	施工主体
改修工事	〔高島地区〕 航路 (-7.5m) 117,600m ³ 泊地 (-7.5m) 112,800m ³	平成3年度	460,000	岡山県
改良工事	〔高島地区〕 昇降施設 5基 〔相引地区〕 防波堤 (改良) 13.6m 〔東米崎地区〕 防波堤 (改良) 38.0m	平成3年度	72,000	〃
改修工事	〔高島地区〕 航路 (-7.5m) 162,490m ³ 泊地 (-7.5m) 178,360m ³ 〔福島地区〕 物揚場 (-4.0m改良) 69.2m	平成4年度	450,000	〃
改良工事	〔相引地区〕 防波堤 (改良) 26.1m 〔西米崎地区〕 防波堤 17.4m	平成4年度	72,000	〃
改修工事	〔高島地区〕 航路 (-7.5m) 187,820m ³ 泊地 (-7.5m) 63,450m ³ 〔福島地区〕 物揚場 (-4.0m改良) 219.0m	平成5年度	510,000	〃
改良工事	〔西米崎地区〕 防波堤 58.5m	平成5年度	75,000	〃

1-3 過去における港湾計画の概要

本港の過去における港湾計画の概要は、表1-3-1、図1-3-1～図1-3-11のとおりである。

表1-3-1(1) 過去における港湾計画の概要

計画年月	計画名	計画内容	備考
昭和39年7月	港湾審議会 第22回計画部会 (新規)	1. 公共ふ頭計画 福島地区 3,000D/W級 水深 6m 岸壁 1π-ス 延長 105m 高島地区 15,000D/W級 水深 10m 岸壁 1π-ス 延長 185m 5,000D/W級 水深 7.5m 岸壁 2π-ス 延長 260m 2,000D/W級 水深 5.5m 岸壁 18π-ス 延長 1,620m 小型船対象 水深 4m 物揚場 延長 1,170m 2. 臨海工業用地造成計画 福島地区 10ha (石油配分基地) 横樋九幡地区 180ha (工業用地) 幸西地区 52ha (工業用地) 3. 航路及び泊地計画 3-1. 航路 高島地区 岡山航路 150,000D/W級 水深 10m 幅員 250m 福島地区 福島航路 3,000D/W級 水深 6m 幅員 120m 3-2. 泊地 福島地区 水深 6m 面積 36ha 高島地区 水深 4～10m 面積 86ha	図1-3-1
昭和46年9月	軽易な変更	1. 公共ふ頭計画(変更) 高島地区 5,000D/W級 水深 7.5m 岸壁 1π-ス 延長 130m 2,000D/W級 水深 5.5m 岸壁 5π-ス 延長 450m 小型船対象 水深 4m 物揚場 延長 1,420m 既定計画 5,000D/W級 水深 7.5m 岸壁 2π-ス 延長 260m 2,000D/W級 水深 5.5m 岸壁 11π-ス 延長 990m 小型船対象 水深 4m 物揚場 延長 1,170m	

表 1-3-1(2) 過去における港湾計画の概要

計 画 年 月	計 画 名	計 画 内 容	備 考
昭和51年 6 月	港 湾 審 議 会 第74回計画部会 (改 訂)	1. 公共ふ頭計画 福島地区 2,000D/W級 水深5.5m 岸壁 3ハース 延長270m 小型船対象 水深 4 m 物揚場 延長180m ふ頭用地 5 ha { 荷捌施設用地 2 ha } 	

表 1 - 3 - 1 (3) 過去における港湾計画の概要

計 画 年 月	計 画 名	計 画 内 容	備 考						
昭和52年 3 月	港湾審議会 第77回計画部会 (一部変更)	1. 小型船だまり計画 (追加) 九幡地区 物揚場 水深 1 m 延長30m 西米崎地区 防波堤 延長25m 2. 航路計画 (変更) 福島地区 福島航路 3,000D/W級 水深 6 m 幅員120~220m 〔既定計画〕 福島航路 3,000D/W級 水深 6 m 幅員120m 3. 臨港交通施設計画 (追加) 高島地区 <table><tr><td>橋 梁</td><td>クリアランス</td><td>対象船型</td></tr><tr><td>児島湾大橋 (仮称)</td><td>H.W.O.S.T,+30m</td><td>3,000D/W</td></tr></table>	橋 梁	クリアランス	対象船型	児島湾大橋 (仮称)	H.W.O.S.T,+30m	3,000D/W	図 1 - 3 - 3
橋 梁	クリアランス	対象船型							
児島湾大橋 (仮称)	H.W.O.S.T,+30m	3,000D/W							
昭和53年 8 月	港湾審議会 第83回計画部会 (一部変更)	1. 小型船だまり計画 (追加) 九幡地区 泊 地 水深0.5m 面積 1 ha 船揚場 延長10m 西大寺地区 泊 地 水深 1 m 面積 1 ha 棧 橋 水深 1 m 延長140m	図 1 - 3 - 4						
昭和54年11月	港湾審議会 第88回計画部会 (一部変更)	1. 小型船だまり計画 (追加) 相引地区 物 揚 場 水深 1 m 延長93m 波 除 堤 延長110m 泊 地 水深 1 m 面積 1 ha ふ頭用地 面積 1 ha 鉾立地区 物 揚 場 水深 1 m 延長113m 泊 地 水深 1 m 面積 1 ha ふ頭用地 面積 1 ha	図 1 - 3 - 5						

表 1 - 3 - 1 (4) 過去における港湾計画の概要

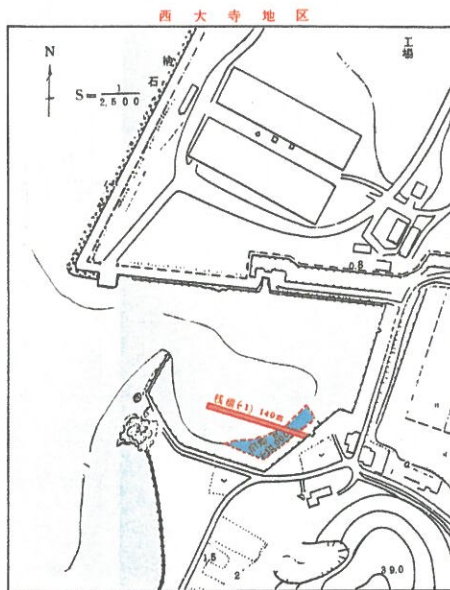
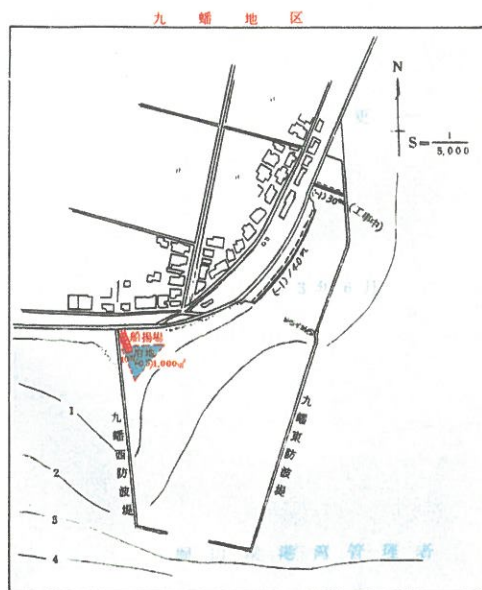
計 画 年 月	計 画 名	計 画 内 容	備 考																
昭和55年 8 月	軽易な変更	1. 公共ふ頭計画 (変更) 高島地区 小型船対象 水深 4 m 物揚場 延長 1,505m ふ頭用地 6 ha { 荷捌施設用地 2ha 保管施設用地 4ha } 既定計画 小型船対象 水深 4 m 物揚場 延長 1,550m ふ頭用地 6 ha { 荷捌施設用地 2ha 保管施設用地 4ha } 2. 小型船だまり計画 (追加) 高島地区 泊 地 水深 1.5~2.5m 面積 1 ha 物揚場 水深 1.5m 延長 140m 水深 2.5m 延長 100m 向小串地区 泊 地 水深 1 m 面積 1 ha 波除堤 延長 120m 物揚場 水深 1 m 延長 70m 3. 土地造成及び土地利用計画 (変更) (単位:ha) <table border="1"> <tr> <th>地 区 名</th><th>ふ頭用地</th><th>緑 地</th><th>合 計</th></tr> <tr> <td>高島地区</td><td>6</td><td>4</td><td>10</td></tr> </table> 既定計画 (単位:ha) <table border="1"> <tr> <th>地 区 名</th><th>ふ頭用地</th><th>緑 地</th><th>合 計</th></tr> <tr> <td>高島地区</td><td>6</td><td>4</td><td>10</td></tr> </table>	地 区 名	ふ頭用地	緑 地	合 計	高島地区	6	4	10	地 区 名	ふ頭用地	緑 地	合 計	高島地区	6	4	10	図 1 - 3 - 6
地 区 名	ふ頭用地	緑 地	合 計																
高島地区	6	4	10																
地 区 名	ふ頭用地	緑 地	合 計																
高島地区	6	4	10																
昭和56年12月	軽易な変更	1. 小型船だまり計画 (追加) 福島地区 航 路 水深 1 m 幅員 15m 泊 地 水深 1 m 面積 1 ha 防 波 堤 延長 150m 物 揚 場 水深 1 m 延長 50m ふ頭用地 1 ha 九幡地区 泊 地 水深 1 m 面積 1 ha 船 揚 場 水深 1 m 延長 170m ふ頭用地 1 ha	図 1 - 3 - 7																

表 1-3-1(5) 過去における港湾計画の概要

計 画 年 月	計 画 名	計 画 内 容	備 考																								
昭和61年3月	軽易な変更	1. フェリー及び旅客船ふ頭計画（追加） 高島地区 700G/T級 水深4m トルフィン1バース(公共) 小型船対象 水深1.5m 浮桟橋1基(公共) ふ頭用地 1ha（旅客施設用地） 2. 水域施設計画（追加） 高島地区 泊地 水深1.5～4m 面積1ha 3. 小型船だまり計画（追加） 升田地区 泊 地 水深1m 面積1ha 物 揚 場 水深1m 延長47m 防 波 堤 延長90m ふ頭用地 1ha 幸島地区 航 路 水深1m 幅員20m 泊 地 水深1m 面積1ha 物 揚 場 水深1m 延長90m 船 揚 場 延長5m 防 波 堤 延長90m 防 砂 堤 延長80m ふ頭用地 面積1ha 4. 土地造成及び土地利用計画（変更・追加） (単位:ha) <table><tr><td>地 区 名</td><td>ふ頭用地</td><td>合 計</td></tr><tr><td>高島地区</td><td>1(1)</td><td>1(1)</td></tr><tr><td>升田地区</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>幸島地区</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1(1)</td><td>1(1)</td></tr></table> (既定計画 (単位:ha)) <table><tr><td>地 区 名</td><td>緑 地</td><td>合 計</td></tr><tr><td>高島地区</td><td>1(1)</td><td>1(1)</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1(1)</td><td>1(1)</td></tr></table> 注1) ()は土地造成を伴わない土地利用計画 で内数である。 注2) 端数処理のため、内訳の和は必ずしも合 計にならない。	地 区 名	ふ頭用地	合 計	高島地区	1(1)	1(1)	升田地区	1	1	幸島地区	1	1	合 計	1(1)	1(1)	地 区 名	緑 地	合 計	高島地区	1(1)	1(1)	合 計	1(1)	1(1)	図1-3-8
地 区 名	ふ頭用地	合 計																									
高島地区	1(1)	1(1)																									
升田地区	1	1																									
幸島地区	1	1																									
合 計	1(1)	1(1)																									
地 区 名	緑 地	合 計																									
高島地区	1(1)	1(1)																									
合 計	1(1)	1(1)																									

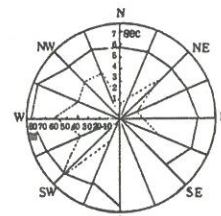
表 1-3-1(6) 過去における港湾計画の概要

計 画 年 月	計 画 名	計 画 内 容	備 考														
昭和63年 1 月	軽易な変更	1. 土地利用計画（変更） (単位:ha) <table><tr><td>地 区 名</td><td>港湾関連用地</td><td>合 計</td></tr><tr><td>高島地区</td><td>3</td><td>3</td></tr></table> 既定計画 <table><tr><td>地 区 名</td><td>ふ頭用地</td><td>緑 地</td><td>合 計</td></tr><tr><td>高島地区</td><td>2</td><td>1</td><td>3</td></tr></table>	地 区 名	港湾関連用地	合 計	高島地区	3	3	地 区 名	ふ頭用地	緑 地	合 計	高島地区	2	1	3	図 1 - 3 - 9
地 区 名	港湾関連用地	合 計															
高島地区	3	3															
地 区 名	ふ頭用地	緑 地	合 計														
高島地区	2	1	3														
平成 5 年 2 月	軽易な変更	1. 小型船だまり計画（追加） 東米崎地区 泊 地 水深1.5m 面積 1 ha 防 波 堤 延長50m 物 揚 場 水深1.5m 延長70m 船 揚 場 延長 5 m ふ頭用地 1 ha 西米崎地区 泊 地 水深1.5m 面積 1 ha 防 波 堤 延長90m 物 揚 場 水深1.5m 延長40m 船 揚 場 延長 5 m ふ頭用地 1 ha	図 1 - 3 - 1 0														
平成 7 年 3 月	軽易な変更	1. 小型船だまり計画（追加） 小串地区 航 路 水深 2 m 幅員30m 泊 地 水深 2 m 面積 1 ha 水深1.5m 面積 1 ha 防 波 堤 延長140m 物 揚 場 水深 2 m 延長60m 水深1.5m 延長95m 船 揚 場 延長 5 m ふ頭用地 1 ha	図 1 - 3 - 1 1														



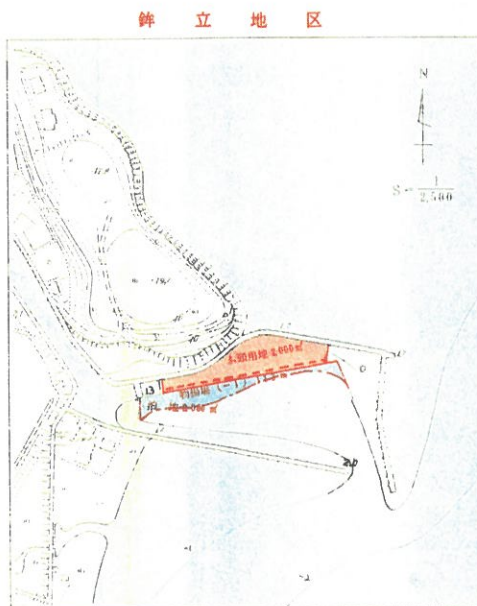
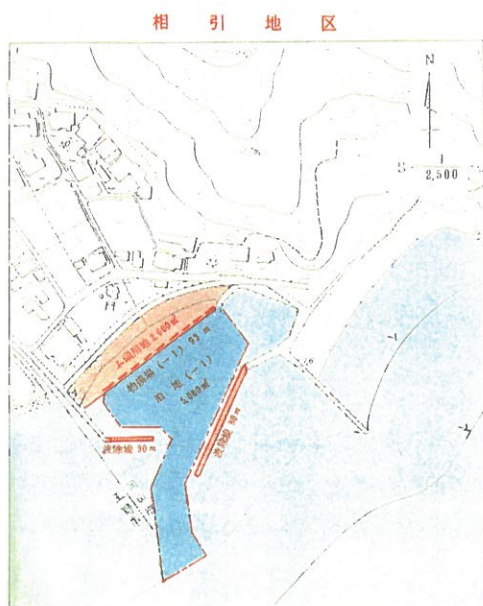
凡	例
---	物揚場 (既設)
---	物揚場 (計画)
---	棧橋 (計画)
---	波除堤 (計画)

風 向 ・ 風 速 図



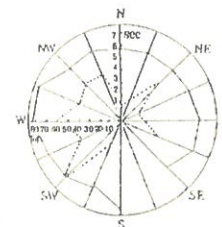
風 向 (回)
風 速 (m/sec)
風速 5.0 m/sec 以上
自昭和47年1月1日
至昭和49年12月31日
日最大10分間平均風速
岡山气象台観測

図 1 - 3 - 4 昭和53年8月 港湾計画図
(港湾審議会第83回計画部会・一部変更)



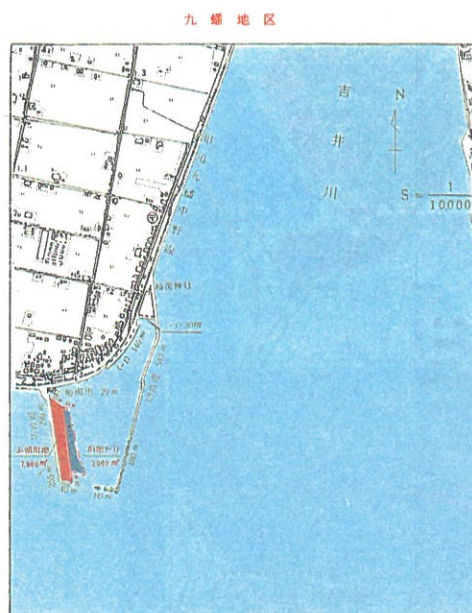
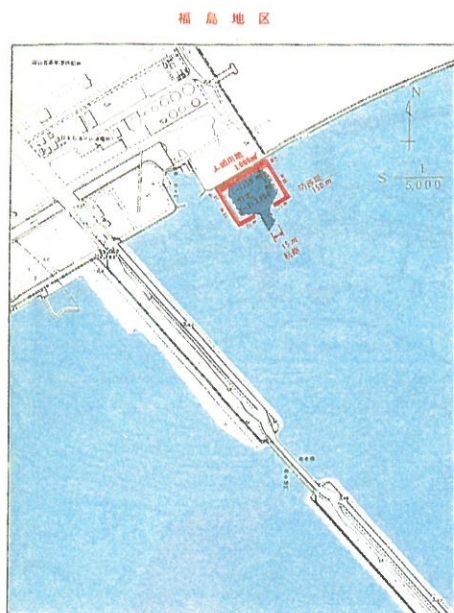
凡	例
---	物揚場 (既設)
---	物揚場 (計画)
---	波除堤 (既設)
---	波除堤 (計画)
---	波 深 (計画)

風 向 ・ 風 速 図



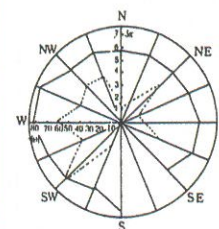
風 向 (回)
風 速 (m/sec)
風速 5.0 m/sec 以上
自昭和47年1月1日
至昭和49年12月31日
日最大10分間平均風速
岡山气象台観測

図 1 - 3 - 5 昭和54年11月 港湾計画図
(港湾審議会第88回計画部会・一部変更)



凡 例	
-----	物揚場(既設)
-----	物揚場(計画)
-----	防波堤(既設)
-----	防波堤(計画)
-----	泊地(計画)
-----	航路(計画)

風向・風速図



風向……(向) 風速50m/sec以上
 風速——(m/sec)
 自昭和47年1月1日
 至昭和49年12月31日
 日最大10分間平均風速
 岡山気象台観測

図1-3-7 昭和56年12月 港湾計画図(輕易な変更)

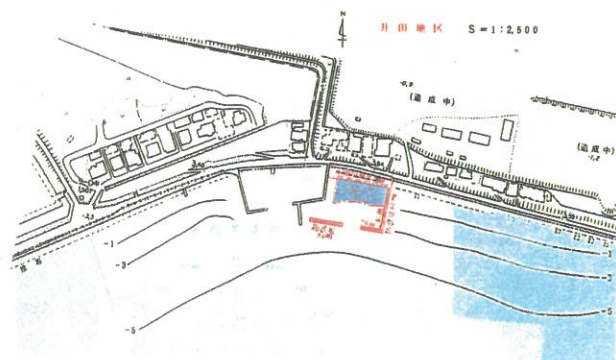
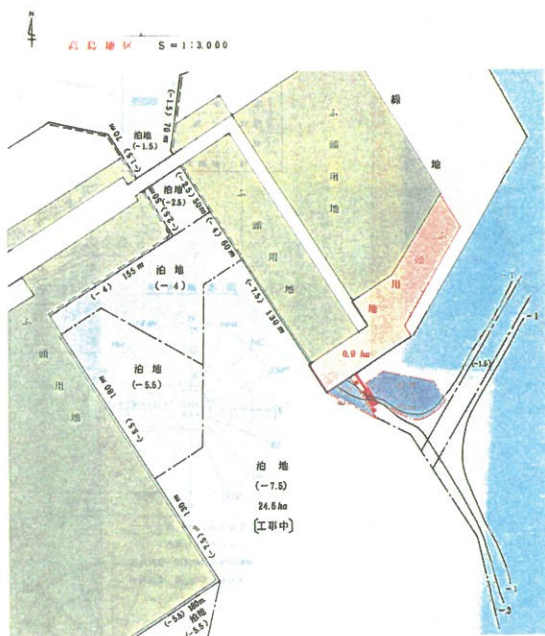
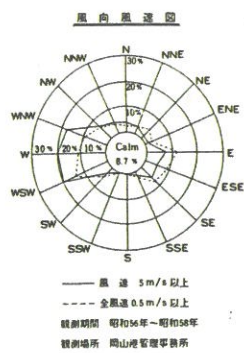


図 1 - 3 - 8 昭和61年3月 港湾計画図（輕易な変更）

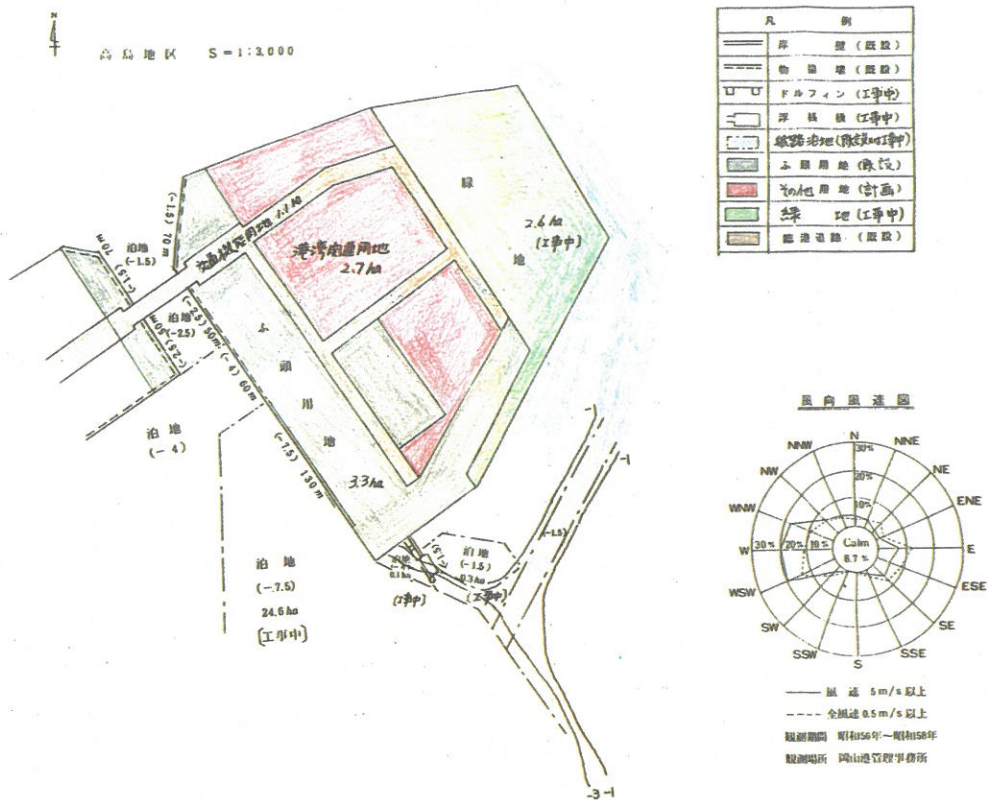


図 1 - 3 - 9 昭和63年1月 港湾計画図 (輕易な変更)

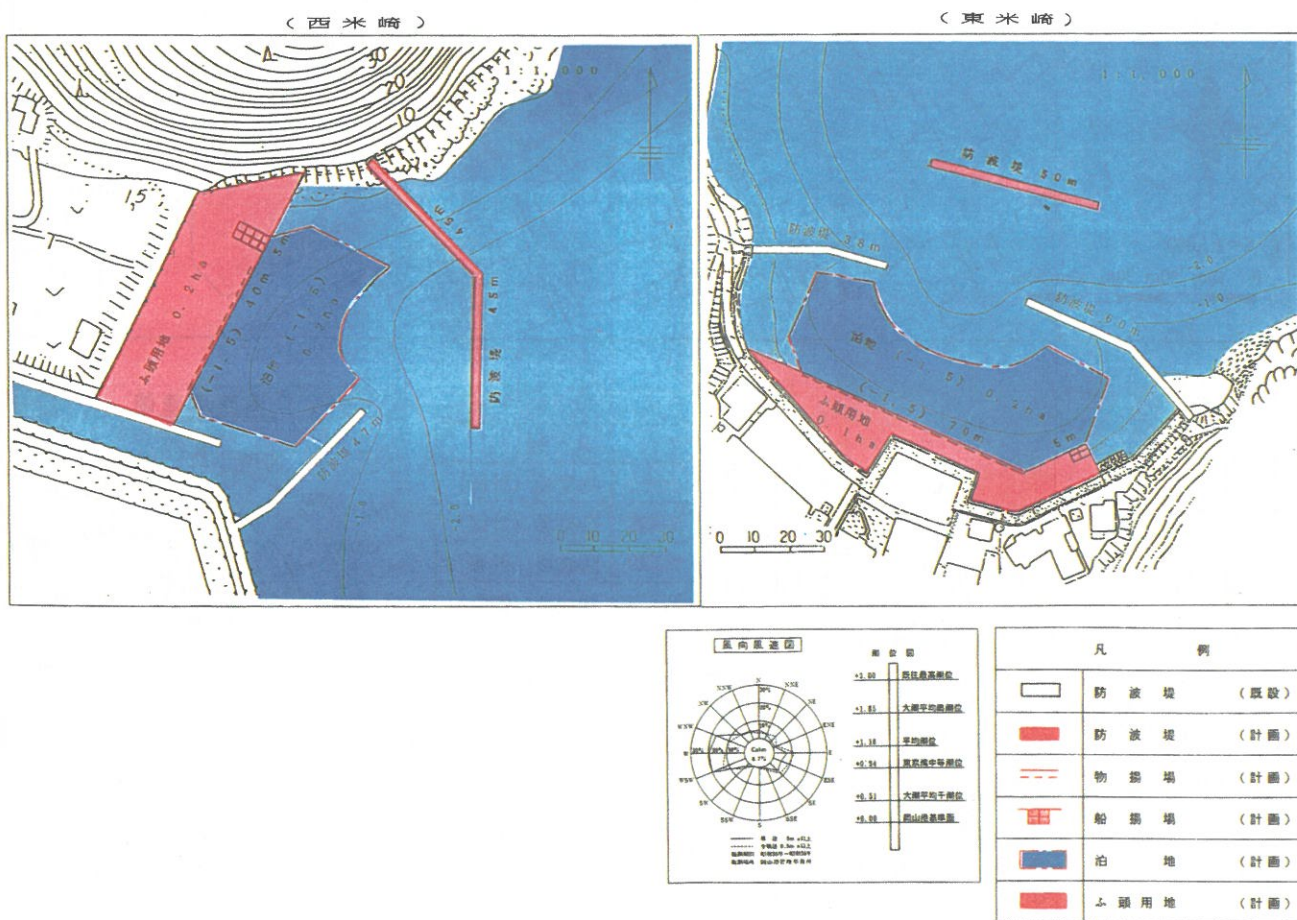
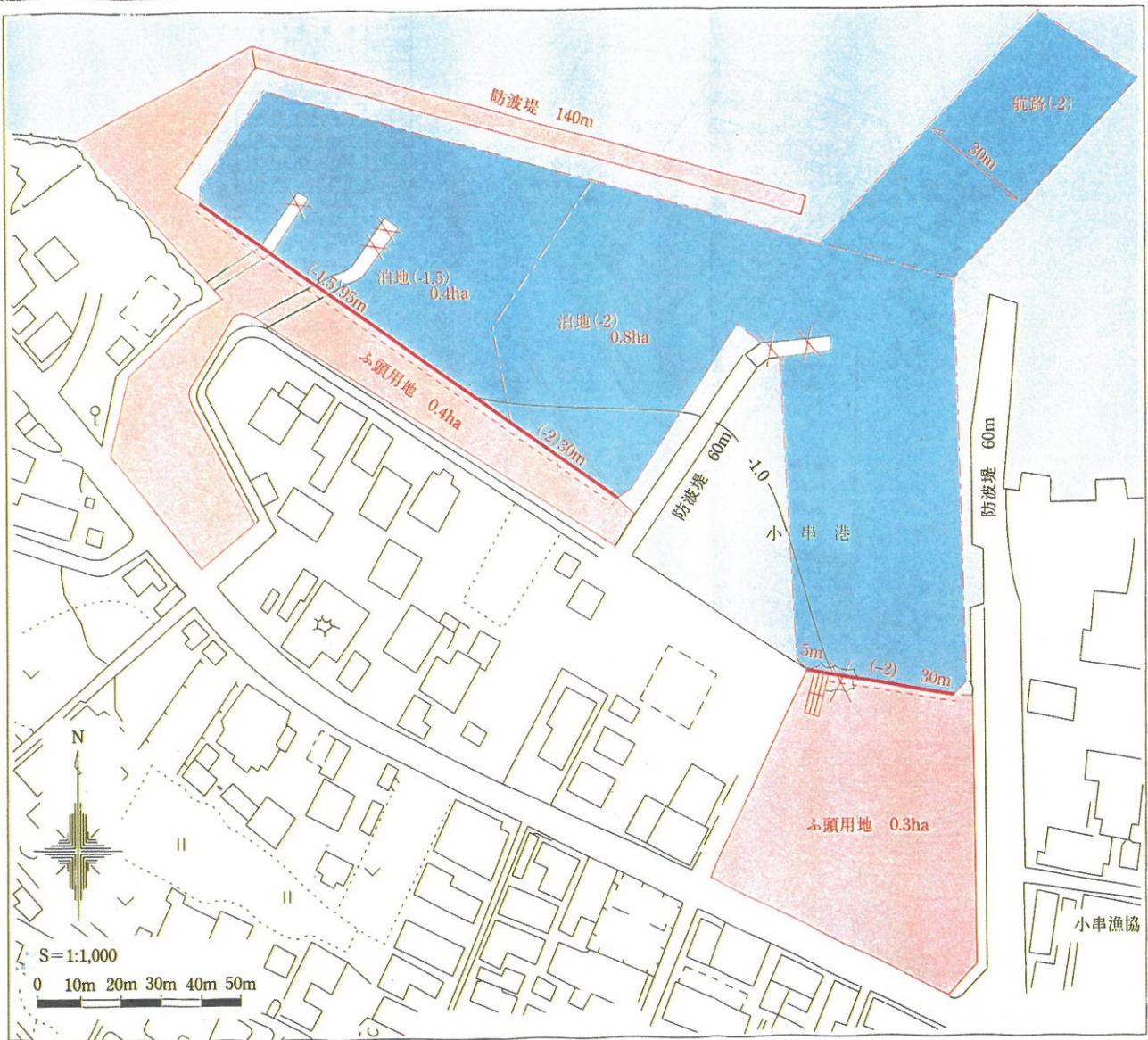


図 1 - 3 - 10 平成5年2月 港湾計画図 (輕易な変更)



凡 例	
	物置場 (計画)
	船揚場 (計画)
	防波堤 (計画)
	防波堤 (既設)
	防波堤撤去 (計画)
	ふ頭用地 (計画)
	航路・泊地 (計画)

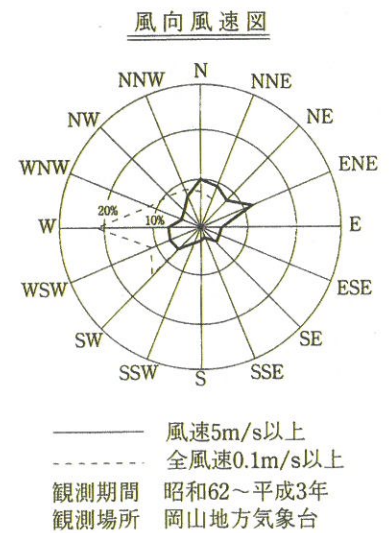


図 1 - 3 - 11 平成7年3月 港湾計画図 (輕易な変更)

2. 港湾の現況

2-1 概要

岡山港は、東西約 8 km, 南北約 1.5 km と東西に長い児島湾のほぼ全域を港湾区域とする重要港湾で、内貿の流通拠点港湾として、また、小豆島航路ターミナル基地として重要な役割を果たしている。

港湾取扱貨物量は、平成 5 年において、移出 398 千トン（フェリー 1,109 千トン）、移入 2,512 千トン（フェリー 1,053 千トン）で、主な取扱貨物は、移出では、その他非金属鉱物、化学薬品、輸送機械、移入では、石油製品、砂・砂利・石材等、化学薬品となっている。

入港船舶隻数は、平成 5 年において 13,694 隻（5,084 千総トン）である。

2-2 港湾施設の現況 (平成6年3月現在)

本港における港湾施設の現況は次のとおりである。

(1) 外郭施設

表 2-2-1(1) 外 郭 施 設

地区名	名 称	延 長 (m)	構 造
福 島	福島東防波堤	40	混成 (コンクリート, 捨石, 粗石)
	福島西防波堤	470	// (//)
	第2号水門防波堤	170	// (コンクリート, 鋼管杭)
高 島	高島神社防波堤	35	直立 (練石積, 天端コンクリート)
	高島同和防波堤	27	// (練石積)
	五バン5号防波堤	64	混成 (捨石, コンクリート)
	五バン6号防波堤	71	// (//)
	高島東離岸堤	10	直立 (//)
	高島東防波堤	30	// (//)
	三幡防波堤	179	混成 (//)
小 串	和田1号防波堤	33	直立 (粗石, 天端コンクリート)
	和田2号防波堤	43	混成 (粗石, 捨石, 天端コンクリート)
	大浦1号防波堤	81	// (コンクリート, 捨石)
	大浦2号防波堤	14	直立 (粗石)
	東小串1号防波堤	10	// (粗石, 天端コンクリート)
	東小串2号防波堤	190	傾斜 (捨石)
	向小串1号防波堤	230	// (//)
	向小串2号防波堤	33	直立 (粗石, コンクリート)
	向小串3号防波堤	10	// (粗石)
	西原防波堤	97	直立 (天端コンクリート, 石積)
	西米崎1号防波堤	38	混成 (石積, 捨石, 天端コンクリート)
	西米崎2号防波堤	47	// (コンクリート, 鋼管ぐい, 捨石)
	西米崎3号防波堤	12	// (天端コンクリート, 捨石)
	西米崎4号防波堤	5	直立 (石積)
	西米崎5号防波堤	39	// (コンクリート, 石積)

(資料：岡山港港湾台帳)

表 2 - 2 - 1 (2) 外 郭 施 設

地区名	名 称	延 長 (m)	構 造
小 串	西米崎 6 号防波堤	96	混成 (コンクリート, 鋼管杭, 捨石)
	西米崎 7 号離岸堤	30	直立 (鋼管, コンクリート)
	相引 1 号防波堤	77	混成 (天端コンクリート, 捨石)
	相引 2 号防波堤	94	// (コンクリート, 捨石)
	相引 3 号防波堤	19	直立 (天端コンクリート, 石積)
	相引 4 号防波堤	71	// (//)
	鉾立 1 号防波堤	190	混成 (石積, 捨石, コンクリート)
	鉾立 2 号防波堤	188	直立 (石積, 天端コンクリート)
	東米崎 1 号防波堤	38	混成 (天端コンクリート, 石積, 捨石)
	東米崎 2 号防波堤	54	// (石積, 捨石)
	東米崎 3 号防波堤	6	直立 (天端コンクリート, 石積)
西大寺	外波崎防波堤	21	混成 (粗石, 捨石)
	西幸西 1 号防波堤	35	// (コンクリート, 捨石)
	西幸西 2 号防波堤	107	混成 (粗石, 天端コンクリート)
	九蟠東 1 号防波堤	651	// (コンクリート, 捨石)
	九蟠東 2 号防波堤	40	傾斜 (捨石)
	九蟠西防波堤	295	// (コンクリート, 捨石)
	正儀新防波堤	13	// (//)
	西幸西突堤	54	混成 (ブロック, コンクリート, 捨石)
	西浦幸島防波堤	85	混成 (コンクリート, 捨石)
	西幸西防波堤	20	// (//)
	横樋 1 号防波堤	69	直立 (石積, コンクリート)
	横樋 2 号防波堤	67	// (//)
	戒町 1 号防波堤	20	// (捨石)
	戒町 2 号防波堤	24	混成 (コンクリート, 捨石)
	八蟠 1 号防波堤	53	// (//)
	八蟠 2 号防波堤	39	// (//)
	帝国化工防波堤	102	// (コンクリート, 石積, 捨石)
	正儀防波堤	7	直立 (石積)
	防波堤	30	// (捨石)

(資料：岡山港港湾台帳)

(2) 水域施設

表 2 - 2 - 2 航 路

名 称	水 深 (m)	延 長 (m)	幅 員 (m)
あさひ川航路	-1.5~-9.0	7,040	50~ 70
福島航路	-6.0~-8.0	2,780	100~120
福島船だまり航路	-1.0	165	20
高島航路	-4.0~-5.5	950	80
小串港航路	-4.0~-14	1,900	350~400
西大寺航路	-2.0~-4.0	5,260	30~150

(資料：岡山港港湾台帳)

表 2 - 2 - 3 (1) 泊地および船だまり

地区名	名 称	水 深 (m)	面 積 (m ²)
旭 川	京橋船だまり	-2.7	63,050
福 島	岡山港泊地	-4.0~-7.0	244,100
	福島 1 号泊地	-5.5	27,700
	福島 2 号泊地	-6.0	55,300
	福島船だまり	-1.0	2,500
	倉敷レイヨン船だまり	-2.0	279,000
高 島	高島泊地	-1.5~-5.5	160,250
	高島西船だまり	-1.5	7,280
	高島東船だまり	-1.5	7,500

(資料：岡山港港湾台帳)

表 2 - 2 - 3 (2) 泊地および船だまり

地区名	名 称	水 深 (m)	面 積 (m ²)
小 串	1 号泊地	+0.5	760
	2 号泊地	+0.8 ~ -2.0	7,500
	3 号泊地	+1.0	1,600
	4 号泊地	+0.3	1,000
西大寺	羽島泊地	+0.5	2,000
	新波止泊地	+0.7	1,300
	幸西泊地	-2.0	3,000
	乙子泊地	+0.4	7,600
	西大寺泊地	-2.0	36,200
	九バン泊地	+0.7 ~ -2.0	67,300
	幸島泊地	±0.0 ~ -4.0	15,600

(資料：岡山港港湾台帳)

(3) けい留施設

表 2-2-4 けい留施設総括表

けい留施設			大 型 船				小 型 船	備 考
			水 深					
			合 計	-7.5m 以上	-6.0m以上 -7.5m未満	-4.5m以上 -6.0m未満		
けい 船 岸	公共	バース数	9	2	1	6	5,657.8	
		延長(m)	925	260	105	560		
	専用	バース数	3		2	1	1,211.0	
		延長(m)	104.5		88.5	16		
	計	バース数	12	2	3	7	6,868.8	
		延長(m)	1029.5	260	193.5	576		
けい 船 杭	公共	基 数					1	
浮 棧 橋	公共	基 数					4	
	専用	基 数					6	
	計	基 数					10	

(資料：岡山港港湾台帳)

表 2-2-5 大型船公共けい留施設

地区名	施設名	水深 (m)	延長 (m)	バース数
福 島	福島-6.0m岸壁	-6.0	105.0	1
	福島-5.5m岸壁	-5.5	90.0	1
高 島	高島-5.5m岸壁	-5.5	470.0	5
	高島-7.5m岸壁	-7.5	260.0	2

(資料：岡山港港湾台帳)

表 2-2-6(1) 小型船公共けい留施設

地区名	施設名	水深 (m)	延長 (m)
旭 川	京橋けい船岸	-3.0	570.0
	平井けい船護岸	± 0	56.0
	浜中けい船岸	-0.5	60.0
	宮道けい船岸	-0.3	40.0
	江崎けい船岸	-1.2	40.0
福 島	福島-4.0m物揚場	-4.0	360.4
	福島浮棧橋	-3.0	2 基
	福島No.2-4.0m物揚場	-4.0	45.0
	福島-1.0m物揚場	-1.0	64.4
高 島	江並 1 号けい船岸	-1.8	40.0
	江並 2 号けい船岸	-1.0	60.0
	高島-4.0m物揚場	-4.0	1505.0
	高島-1.5m物揚場	-1.5	100.0 166.0
	高島 1 号けい船岸	-1.0	134.0
	高島東-1.5m物揚場	-1.5	120.0
	高島-2.5m物揚場	-2.5	100.0
	高島浮棧橋	-4.0	2 基
	高島けい船杭	-4.0	1 基
小 串	小串物揚場	-2.5	60.0 (30.0×2)
	2 号けい船護岸	-0.5	17.0

(資料：岡山港港湾台帳)

表 2 - 2 - 6 (2) 小型船公共けい留施設

地区名	施 設 名	水 深 (m)	延 長 (m)
小 串	3号けい船護岸	-0.5	15.0
	東米崎けい船岸	+0.7	24.0
	大浦けい船護岸	+0.5	174.0
	和田けい船護岸	+0.8	173.0
	宮浦けい船岸	-0.5	29.0
	宮浦けい船護岸	+0.5	126.0
	飽浦けい船岸	+0.5	20.0
	鉾立けい船岸		40.0
	相引物揚場	-1.0	93.0
	向小串物揚場	-1.0	70.0
西大寺	正儀-1.0m栈橋	-1.0	140.0 (70.0×2)
	西幸西2号けい船護岸	+0.5	10.0
	西幸西3号けい船護岸	+0.8	20.0
	西大寺けい船岸	-2.0	712.0
	九蟠けい船護岸	±0.0	160.0
	西幸西1号けい船護岸	±0.0	7.0
	九蟠-1.0m物揚場	-1.0	140.0
	九蟠2号-1.0m物揚場	-1.0	30.0
	升田物揚場	-1.0	47.0
	幸島物揚場	-1.0	90.0

(資料：岡山港港湾台帳)

表 2 - 2 - 7 大型船専用けい留施設

地区名	施 設 名	水 深 (m)	延 長 (m)	バース数
福 島	同和鉦業栈橋	-6.5	75.0	1
	同和鉦業1号けい船岸	-6.0	13.5 (4.5×3)	1
	同和鉦業2号けい船岸	-5.5	16.0 (10.0, 3.0×2)	1

(資料：岡山港港湾台帳)

表 2 - 2 - 8 小型船専用けい留施設

地区名	施 設 名	水 深 (m)	延 長 (m)
旭 川	岡山ガスけい船岸	-0.8	40.0
	岡山製紙けい船護岸	-0.3	143.0
福 島	丸善石油けい船岸	-4.0	23.0
	漁協棧橋	±0.0	42.0 (21.0×2)
	四日市油槽けい船岸	-1.8	39.0
	三井製糖棧橋	-3.5	30.0
	出光石油けい船岸	-2.0	45.0
	セネリ石油けい船岸	-2.0	20.0
	日本石油けい船岸	-2.0	8.0
	両備運輸浮棧橋	-4.0	2 基
	飽浦渡けい船岸	-1.0	1 基
	岡山市新中央卸売市場 浮棧橋	-2.0	2 基
	倉敷レーヨンけい船岸	-2.2	200.0
	日本セメントドルフィン	-4.1	6.0
	岡山港駅けい船護岸	-1.8	83.0
高 島	高島同和けい船岸	-0.7	20.0
	高島同和けい船護岸	-0.5	40.0
小 串	長尾ソーダ棧橋	-3.0	20.0 (10.0×2)
	小串漁協浮棧橋	-0.5	
	品川浮棧橋	-2.0	1 基
西大寺	帝国化工 5 号棧橋	-1.6	35.0
	No. 2 棧橋帝化液体	-1.6	11.0
	No. 2 棧橋帝化固体	-1.6	20.0
	木津川製線棧橋	-4.0	13.0
	西浦幸島けい船岸	-3.0	29.0 (25.0 , 4.0)
	エクスランけい船岸	-3.5	120.0
	帝国化工-4.0m岸壁	-4.0	224.0

(資料：岡山港港湾台帳)

(4) 荷捌・保管施設

表 2 - 2 - 9 上 屋

地区名	名 称	管理者	棟数	面積 (㎡)	構 造	主要取扱貨物
福 島	福島 A 棟	港湾管理者	1	1,200	鉄骨スレート 平屋	染料, 塗料他
	福島 B 棟	//	1	1,000	//	原糖
	福島 C 棟	//	1	1,000	//	砂糖, 非鉄金 属
高 島	高島 1 号上屋	//	1	2,250	鉄筋コンクリート 平屋	紙・パルプ
計			4	5,450		

(資料：岡山港港湾台帳)

表 2 - 2 - 10 野 積 場

地区名	名 称	管理者	面 積 (㎡)	構 造	主要取扱 貨物
旭 川	京橋野積場 (花畑野積場含む)	港湾管理者	5,784	コンクリート	石・砂利・ 土石
	七日市野積場	藤原木材(株)	1,000		木材
	浜野野積場	岡山製紙(株)	6,000		薬
福 島	福島野積場	港湾管理者	21,246	コンクリート	コークス, 砂・砂利
高 島	高島野積場	//	76,246	//	砂・砂利, スクラップ
小 串	小串野積場	岡 山 市	600		雑貨
西大寺	西大寺野積場	港湾管理者	5,463		雑貨
計			116,339		

(資料：岡山港港湾台帳)

表 2 - 2 - 11 倉 庫

地 区	名 称	管 理 者	棟数	面積 (㎡)	構 造	主要取扱貨物
福 島	海岸通倉庫	倉敷レーヨン (株)	1	3,880	コンクリート 平屋	その他の原料
	//	//	1	900	木造 平屋	//
	//	//	5	4,860	コンクリート 平屋	製 品
	//	//	2	2,221	鉄骨スレート 軽量型鋼平屋	//
	//	//	2	649	木造 平屋	//
	築港通倉庫	岡山臨港鉄道 (株)	2	2,889	鉄筋 平屋 コンクリート	一般雑貨
	//	//	1	800	鉄筋 鉄板葺 平屋	肥料・農薬
	//	//	1	805		//
西大寺	西大寺倉庫	西大寺農協 組合	2	947	コンクリート	政府米
計			17	17,951		

(資料：岡山港港湾台帳)

表 2 - 2 - 12 貯 木 場

地 区	名 称	管 理 者	箇所数	面積 (㎡)	種 別
福 島	海岸通り地先	山陰木材防腐(株)	1	41,468	陸上貯木

(資料：岡山港港湾台帳)

表 2 - 2 - 13(1) 貯 油 施 設

地 区	名 称	管理者	面 積 等	構 造	主要取扱貨物
旭 川	船頭町貯蔵所	(株)横山石油	14kℓ , 6kℓ	地下タンク	ガソリン, 軽油
	七日市貯蔵所	//	6基 375kℓ	鉄製タンク	重 油
	//	//	2基 150kℓ	//	燈 油
	浜野貯蔵所	岡山製紙(株)	3基 580kℓ	//	重 油
	江並貯油所	中国精油	13基	//	ガソリン, 軽油, 重油

(資料：岡山港港湾台帳)

表 2 - 2 - 13(2) 貯 油 施 設

地 区	名 称	管 理 者	面 積 等	構 造	主要取扱貨物
福 島	岡山油槽所	出光興産(株)	2基 350k ℓ	鉄製タンク	ガソリン
	//	//	3基 265k ℓ	//	燈 油
	//	//	1基 200k ℓ	//	軽 油
	//	//	3基 400k ℓ	//	重 油
	//	共同石油(株)	8基 1,300k ℓ	//	石 油
	//	丸善石油(株)	3基 750k ℓ	//	ガソリン
	//	//	4基 1,500k ℓ	//	石 油
	//	//	7基 1,400k ℓ	//	重 油
	築港貯蔵所	三井製糖	2基 500k ℓ	//	重 油
	海岸通貯蔵所	ゼネラル 石油(株)	2基 600k ℓ	//	石 油
	//	//	3基 600k ℓ	//	燈 油
	//	//	4基 200k ℓ	//	重 油
	//	//	1基 3,000k ℓ	//	ガソリン
	築港貯蔵所	ゼネラル 石油(株)	5基 220k ℓ	//	重 油
	//	//	2基 250k ℓ	//	燈 油
	//	//	2基 970k ℓ	//	ガソリン
	岡山油槽所	四日市 油槽(株)	4基 1,140k ℓ	//	ガソリン
	//	//	5基 1,130k ℓ	//	重 油
	//	//	3基 900k ℓ	//	燈 油
	//	//	4基 520k ℓ	//	軽油, 潤滑油
	//	日本石油(株)	9基	//	ガソリン, 重油, 軽油

(資料：岡山港港湾台帳)

表 2 - 2 - 14 貯 炭 場

地 区	名 称	管 理 者	面 積 (㎡)	主要取扱貨物
西大寺	エクスラン貯炭場	日本エクスラン(株)	5,119	石 炭

(資料：岡山港港湾台帳)

表 2 - 2 - 15 危 険 物 置 場

地 区	名 称	管 理 者	面積等	構 造	主要取扱貨物
旭 川	網浜貯蔵所	岡山ガス(株)	8基 35,500 m ³	鉄製タンク	都市ガス 粗製ガソリン
	//	//	1棟	屋内 鉄筋コンクリート	ガソリン 軽油, 重油
	//	//	3基	地下 鉄筋コンクリート	コールタール
福 島	海岸通貯蔵所	倉敷レーヨン (株)	3基 320.5t	鉄製タンク	濃硫酸
	//	//	2基 24kℓ	//	二酸化炭素
	//	//	4基 722t	//	トリオール
	//	同和鉱業(株)	6基 5,400t	//	濃硫酸
	//	山陰木材 防腐(株)	3基 450kℓ	//	クレオソート
	//	ゼネラル 石油(株)	1棟 20kℓ	//	機械油
	//	//	265m ²	屋外 コンクリート	不 明
	岡山油槽所	出光興産(株)	1棟 29kℓ	屋内垂鉛引 鉄板	ガソリン 軽油, 重油
	//	丸善石油(株)	30kℓ	屋内鉄骨垂鉛 引鉄板	ガソリン 石油
	築港貯蔵所	ゼネラル石油	480m ²	屋外 コンクリート	不 明
	築港工場	岡山ガス(株)	3基	鉄製タンク	都市ガス
小 串	宮浦貯蔵所	長尾ソーダ	15基	//	カセイソーダ
西大寺	金岡貯蔵所	日本エクスラ ン工業(株)	14基	//	A・N液
	//	//	1基	鉄骨, トタン	//
	//	//		屋内鉄筋 コンクリート葺	石 油

(資料: 岡山港港湾台帳)

(5) 臨港交通施設

表 2 - 2 - 16 臨 港 道 路

地 区	名 称	管理者	延 長 (m)	幅 員 (m)
福 島	岡山臨港道路	港湾管理者	850.0	20.0
	//	//	128.0	14.0
	//	//	64.0	12.0
	//	//	461.0	9.5~10.0
	//	//	380.0	10.0
高 島	高島臨港道路	//	2,480.7	12.5~27.5
計			4,363.7	

(資料：岡山港港湾台帳)

(6) その他施設

① 船客待合所

表 2 - 2 - 17 船 客 待 合 所

地区名	名 称	管理者	棟数	面積 (m ²)	構造形式
高 島	両備運輸 フェリーターミナル	両備運輸	1	130	軽量鉄骨

(資料：岡山港港湾台帳)

② 船舶役務施設

表 2 - 2 - 18 船 舶 給 水 施 設

地区名	名 称	管理者	供給能力 (m ³ /h)	数 量
福 島	福島給水	港湾管理者	20	5

(資料：岡山港港湾台帳)

③ 船舶給油施設

表 2 - 2 - 19 船 舶 給 油 施 設

地区名	名 称	管理者	供給能力 (t /h)
福 島	海岸通給油	出光興産(株)	7

(資料：岡山港港湾台帳)

④ 福利厚生施設

表 2 - 2 - 20 福 利 厚 生 施 設

地区名	名 称	管 理 者	棟数	面積 (㎡)	構造形式
高 島	岡山港湾福祉センター	岡山港埠頭開発(株)	2	340	鉄骨

(資料：岡山港港湾台帳)

⑤ 港湾環境整備施設

表 2 - 2 - 21 港 湾 環 境 整 備 施 設

種 類	地 区	名 称	面 積 (㎡)	管理者名
緑 地	高 島	植込み	11,400	港湾管理者
		通 路	1,500	//
		張 芝	13,600	//
広 場	高 島	ソフトボール球場	8,400	//

(資料：岡山港港湾台帳)

2-3 港湾の利用状況

(1) 港湾取扱貨物量の推移

本港における港湾取扱貨物量の推移は、表2-3-1及び図2-3-1に示すとおりである。また、最近5ヶ年の品目別港湾取扱貨物量の実績は、表2-3-2のとおりである。

表2-3-1 港湾取扱貨物量の推移

(単位：千トン)

区 分		S 59年	S 60年	S 61年	S 62年	S 63年	H 元年	H 2 年	H 3 年	H 4 年	H 5 年
合 計	計	5,137	5,447	5,267	5,299	5,270	5,621	5,523	5,791	5,680	5,072
	移 出	1,374	1,527	1,505	1,702	1,543	1,682	1,677	1,774	1,621	1,507
	移 入	3,763	3,919	3,762	3,598	3,726	3,939	3,846	4,017	4,059	3,565
内 貨 物 買 フエリー	計	3,633	3,647	3,446	3,361	3,367	3,387	3,174	3,415	3,418	2,910
	移出	620	611	586	723	585	557	500	587	483	398
	移入	3,013	3,036	2,860	2,638	2,781	2,831	2,674	2,828	2,935	2,512
	計	1,504	1,800	1,821	1,938	1,903	2,233	2,348	2,376	2,262	2,162
	移出	754	917	919	978	958	1,125	1,176	1,187	1,138	1,109
	移入	751	884	902	960	945	1,108	1,172	1,189	1,124	1,053

注) 端数処理の為、内訳の和は必ずしも合計とはならない。

(資料：港湾統計)

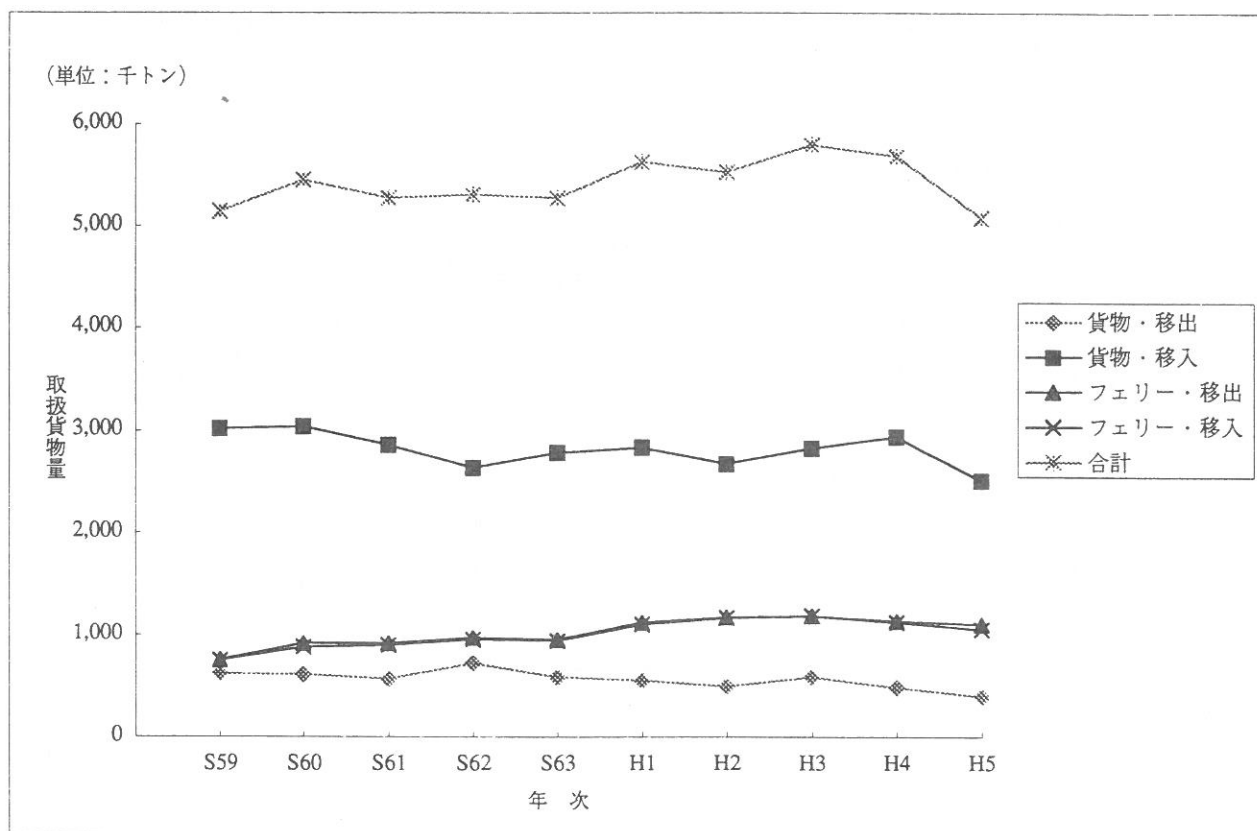


図2-3-1 港湾取扱貨物量の推移図

表 2 - 3 - 2 品目別港湾取扱貨物量の推移（公専別）

（単位：千トン）

			平成元年			平成2年			平成3年			平成4年			平成5年			
品目	品 種	公	内 貿			内 貿			内 貿			内 貿			内 貿			
		専	計	出	入	計	出	入	計	出	入	計	出	入	計	出	入	
合 計			計	5,621	1,682	3,939	5,523	1,677	3,846	5,791	1,774	4,017	5,680	1,621	4,059	5,072	1,507	3,565
			公	3,593	1,229	2,365	3,546	1,245	2,301	3,510	1,242	2,268	3,340	1,165	2,175	3,116	1,151	1,965
			専	2,028	453	1,574	1,977	432	1,545	2,281	532	1,749	2,340	456	1,884	1,956	356	1,600
農 水 産 品	米穀類	公	68	5	63	64	0	64	59	1	58	69	0	68	59		59	
		専																
	水産品	公	0		0													
		専																
	その他	公				0	0											
		専																
林 産 品			公	28	23	5	34	20	14	34	18	16	25	12	14	28	10	18
			専	19		19												
鉱 産 品	石 炭	公	8		8	7		7	7		7	6		6	8		8	
		専	20		20	21		21	16		16	38		38	53		53	
	砂・砂利	公	886	26	861	722		722	655		655	661		661	547	1	546	
		専							3	3								
	原 油	公																
		専																
	その他	公	19	3	16	16	3	13	19	3	16	16	1	15	26	6	19	
		専	581	238	343	531	255	276	617	310	306	601	238	363	399	185	214	
金工 属 業 機 械品	金 属 類	公	144	1	144	181	8	173	206	0	205	164	0	164	143	1	142	
		専	27		27	36		36	27		27	28		28	26		26	
	その他	公	69	18	52	25	17	9	15	15	0	15	11	3	17	15	2	
		専																
化 学 工 業 品	石油類	公	1		1							1		1	3		3	
		専	706	6	700	729	1	728	814		814	850	1	849	806		806	
	セメント	公																
		専	97		97	125		125	249	12	238	224		224	134		134	
	その他	公	33	7	26	24	2	21	20	2	18	17	0	17	19	1	19	
		専	568	200	367	534	176	358	555	207	348	599	217	382	537	171	367	
軽工業品			公	89	7	82	118	13	105	120	16	104	103	3	101	104	9	95
			専	0		0												
雑工業品			公															
			専															
特 殊 品			公	13	13		4	4										
			専	9	9													
分類不能			公	0	0													
			専															
フェリー			公	2,233	1,125	1,108	2,348	1,176	1,172	2,376	1,187	1,189	2,262	1,138	1,124	2,162	1,109	1,053
			専															

注）端数処理のため、内訳の和は必ずしも合計とはならない。

（資料：岡山県港湾課）

(2) 港湾貨物流動

平成5年の移出入別港湾貨物流動の方面構成は、表2-3-3～表2-3-4に示すとおりである。

移出は、フェリーを除くとその他鉱産品，その他化学工業品が主であり、移出先は近畿，九州，四国を中心として西日本が主となっている。

移入はフェリーを除くと石油類，砂・砂利，その他化学工業品が主であり、移入先は山陽，近畿，九州を中心として西日本が主となっている。

表 2 - 3 - 3 内貿貨物の方面別流動表 (平成 5 年 移出)

(単位：千トン)

品 種	方 面	合 計	北海道	東 北	関 東	東 海	北 陸	近 畿	山 陽				山 陰	四 国	九 州	沖 縄	その他
									計	岡 山	広 島	山 口					
合計(7x)-含む)		1,507	2		25	1		135	58	15	4	39	1	1,188	93	3	
合計(7x)-除く)		398	2		25	1		135	58	15	4	39	1	79	93	3	
農 産 品																	
米 穀 類																	
水 産 品																	
そ の 他																	
林 産 品		10						1						9			
石 炭																	
鉄 産 品		1													1		
砂・砂利																	
原 油																	
そ の 他		192	1		17			49	1	1			1	37	84	3	
金 属 類		1							0	0	0				0		
金 属 機 械 工 業 品		15			7	1		1	2	0	1	0		2	2		
そ の 他																	
石 油 類																	
化 学 工 業 品																	
セメント																	
そ の 他		171			1			79	55	14	3	39		31	5		
軽 工 業 品		9	1					6							1		
織 工 業 品																	
特 殊 品																	
分 類 不 能																	
フ ェ リ ー		1,109												1,109			

注) 端数処理の為、内訳の和は必ずしも合計とはならない。

(資料：港湾統計)

表 2-3-4 内貿貨物の方面別流動表 (平成5年 移入)

(単位：千トン)

方面 品 種	合 計	北海道	東 北	関 東	東 海	北 陸	近 畿	山 陽				山 陰	四 国	九 州	沖 縄	その他
								計	岡 山	広 島	山口					
合計(フェリ-含む)	3,565	5	1	45	36	1	491	727	442	170	115		1,377	332	7	545
合計(フェリ-除く)	2,512	5	1	45	36	1	491	727	442	170	115		324	332	7	545
農 産 品																
米 穀 類	59	1					48	2	2				5	3		
水 産 品																
そ の 他																
林 産 品	18		1					18		18						
石 炭	61							1			1		13	47		
砂・砂利	546													2		545
原 油																
そ の 他	233	4		20	10		100	81	79		2		1	10	7	
金 属 類	168			16	13		38	5	0		5		42	56		
そ の 他	2						1	1	0	0			0	0		
化 学 工 業 品																
石 油 類	809						259	324	218	20	86		183	43		
セメント	134												4	130		
そ の 他	385			9	10		45	215	62	132	22		75	31		
軽 工 業 品	95				3			81	81					11		
縫 工 業 品																
特 殊 品																
分 類 不 能																
フ ェ リ ー	1,053												1,053			

注) 端数処理の為、内訳の和は必ずしも合計とはならない。

(資料：港湾統計)

(3) 入港船舶隻数及び総トン数

本港における入港船舶隻数及び総トン数の推移は、表 2-3-5 及び図 2-3-2, 図 2-3-3 に示すとおりである。

また、平成 5 年の船種別入港船舶隻数は、表 2-3-6 に示すとおりである。

表 2 - 3 - 5 トン階別入港船舶隻数及び総トン数の推移

(単位: 隻千トン)

船型 年次	合 計		10,000総トン 以上		6,000総トン以上 10,000総トン未満		3,000総トン以上 6,000総トン未満		1,000総トン以上 3,000総トン未満		500総トン以上 1,000総トン未満		100総トン以上 500総トン未満		50総トン以上 100総トン未満	
	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数
昭和59年	18,133	5,100					2	7	26	38	2,725	1,718	10,900	3,055	4,480	281
昭和60年	17,455	5,295					3	11	27	39	4,281	2,710	9,069	2,267	4,075	268
昭和61年	15,316	5,061							25	39	3,999	2,574	8,981	2,309	2,311	139
昭和62年	15,654	5,168			1	6	17	67	68	125	3,806	2,416	9,036	2,409	2,726	146
昭和63年	15,033	5,418					35	149	53	114	5,032	3,184	7,289	1,813	2,624	158
平成元年	14,852	5,608			7	45	15	52	67	157	5,334	3,512	6,994	1,691	2,435	151
平成2年	14,433	5,502					2	6	52	132	5,574	3,600	6,552	1,617	2,253	147
平成3年	15,175	5,643					1	3	58	143	5,633	3,638	7,019	1,700	2,464	159
平成4年	14,857	5,579					1	3	43	103	5,587	3,623	6,815	1,693	2,411	157
平成5年	13,694	5,084							25	43	5,228	3,399	6,034	1,488	2,407	154

注) 端数処理の為、内訳の和は必ずしも合計とはならない。

(資料: 港湾統計)

表 2 - 3 - 6 船種別トン階別入港船舶隻数及び総トン数 (平成5年)

(単位: 隻千トン)

船種	合 計		10,000総トン 以上		6,000総トン以上 10,000総トン未満		3,000総トン以上 6,000総トン未満		1,000総トン以上 3,000総トン未満		500総トン以上 1,000総トン未満		100総トン以上 500総トン未満		50総トン以上 100総トン未満	
	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数
合計	13,694	5,084							25	43	5,228	3,399	6,034	1,488	2,407	154
外航船																
内 計	13,694	5,084							25	43	5,228	3,399	6,034	1,488	2,407	154
商 船	8,625	1,795							25	43	159	111	6,034	1,488	2,407	154
自 航 船	5,069	3,289									5,069	3,289				

注) 端数処理の為、内訳の和は必ずしも合計とはならない。

(資料: 港湾統計)

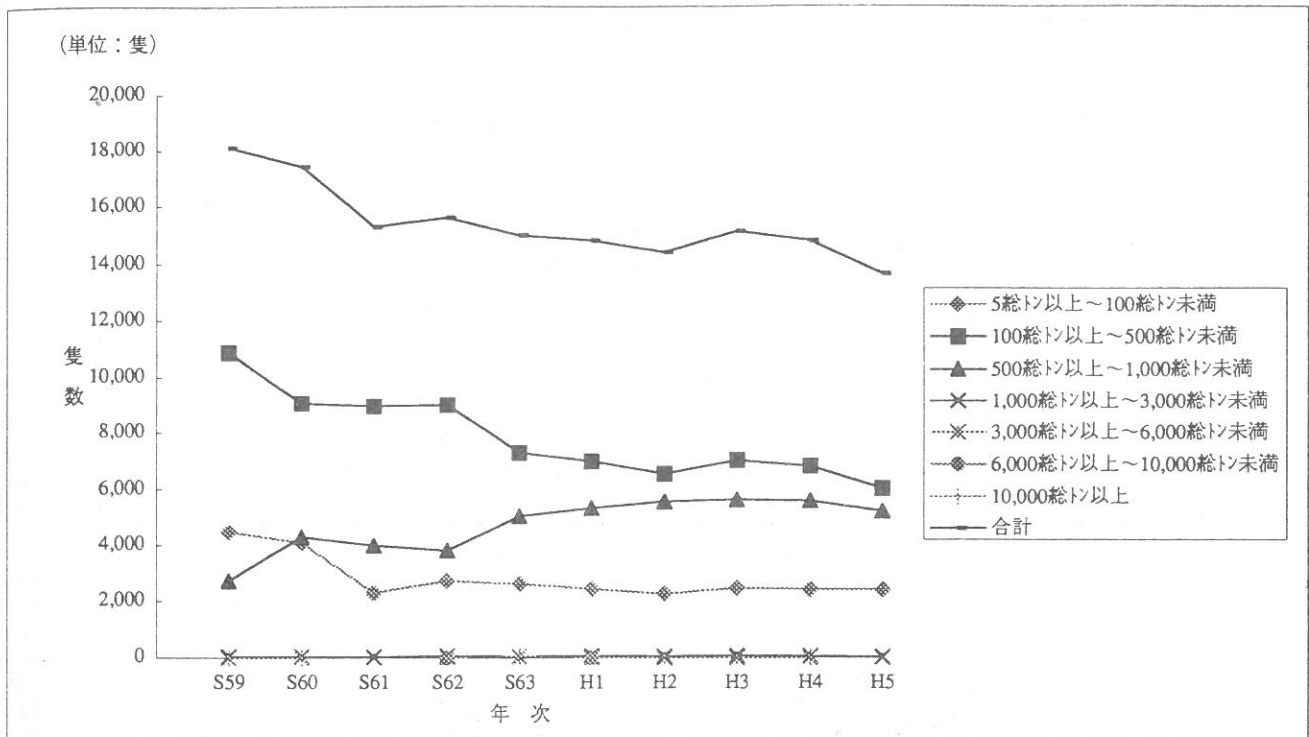


図 2 - 3 - 2 入港船舶隻数の推移

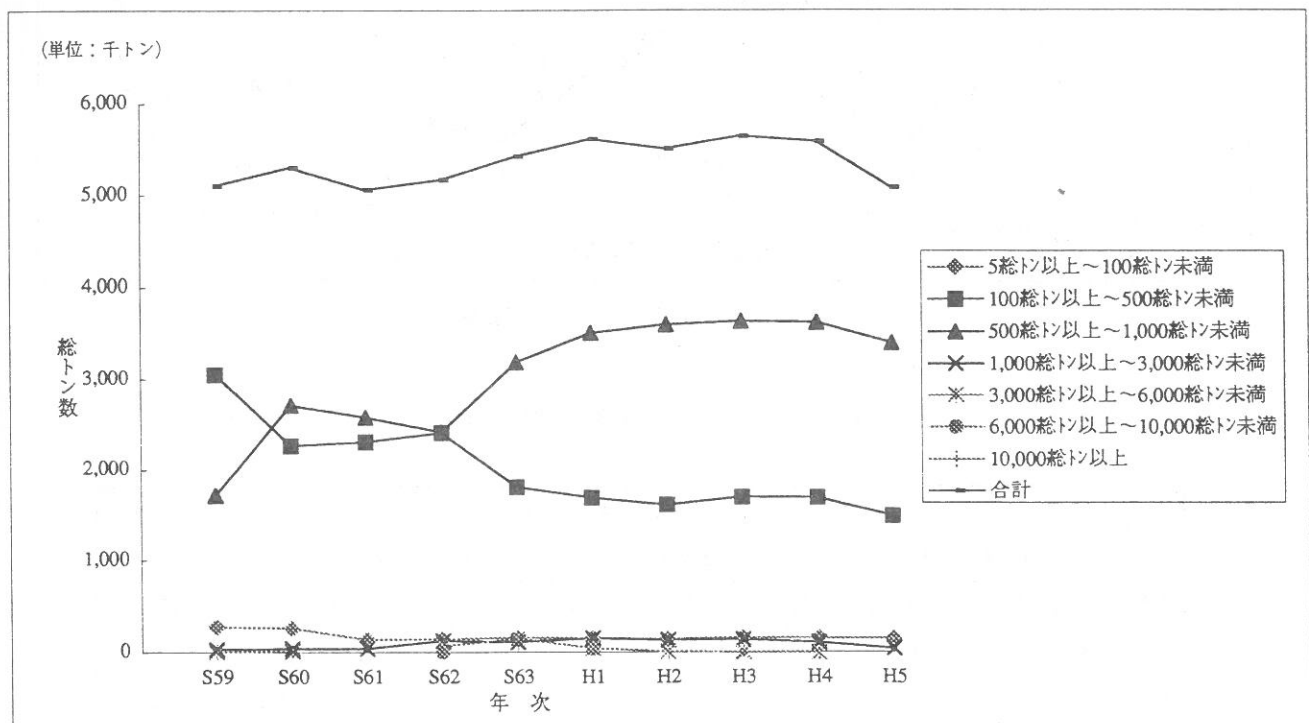


図 2 - 3 - 3 入港船舶総トン数の推移

(4) 定期航路

本港の定期航路の概要は、表 2-3-7 及び図 2-3-4 に示すとおりであり、また、乗降人員の推移は、表 2-3-8 に示すとおりである。

表 2-3-7 定期航路の概要（平成 5 年）

	航路名	就航船舶		年間入港船舶		就航最大船	年間乗降人員（人）		取扱貨物量 （千ト）	備 考
		隻数	総トン数	隻 数	総トン数	総トン数	乗 込	上 陸		
フェリー	岡山-土庄	4	2,582.9	5,069	3,288,721	690.0	166,724	166,462	出 1,109 入 1,053	2 社
旅 客	岡山-土庄	2	129.95	2,200	177,695	65.0	34,182	37,331	—	1 社

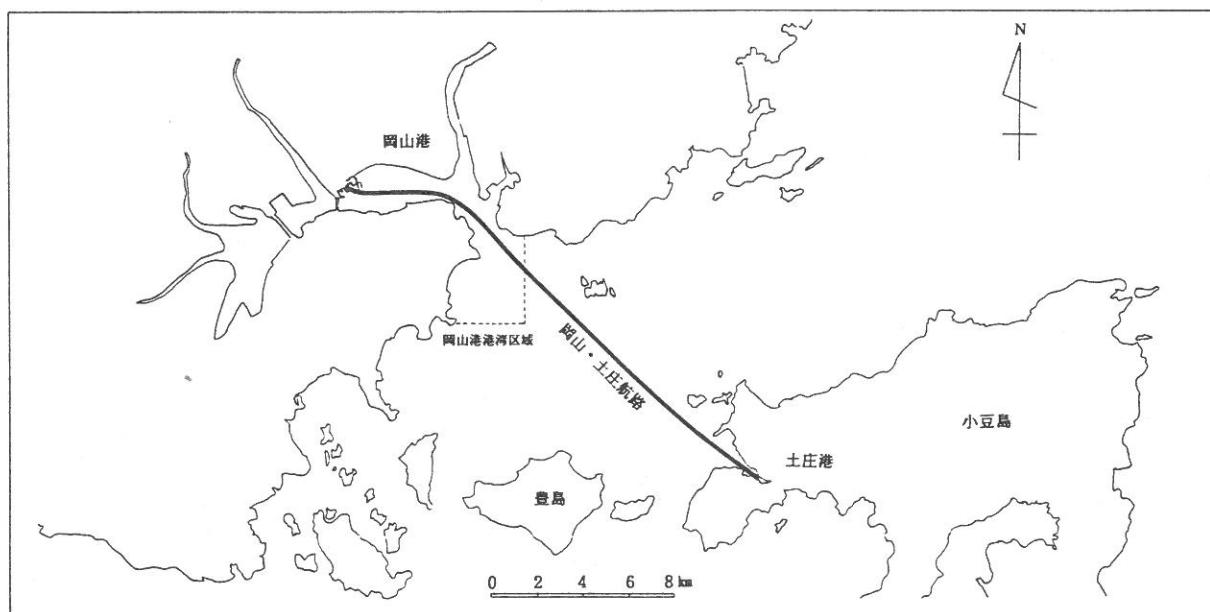


図 2-3-4 定期航路図

表 2-3-8 乗降人員の推移

(単位：人)

	乗 込 客 数			上 陸 客 数			合 計		
	旅客船	フェリー	計	旅客船	フェリー	計	旅客船	フェリー	計
昭和 59 年	56,400	202,884	259,284	65,132	199,321	264,453	121,532	402,205	523,737
昭和 60 年	52,635	185,597	238,232	60,790	179,608	240,398	113,425	365,205	478,630
昭和 61 年	36,565	203,910	240,475	45,624	197,205	242,829	82,189	401,115	483,304
昭和 62 年	74,380	195,702	270,082	80,083	189,899	269,982	154,463	385,601	540,064
昭和 63 年	57,605	190,426	248,031	66,627	188,022	254,649	124,463	378,448	502,680
平成 元年	50,297	192,088	242,385	56,746	197,145	253,891	107,043	389,233	496,276
平成 2 年	74,846	185,595	260,441	63,014	191,113	254,127	137,860	376,708	514,568
平成 3 年	48,717	183,775	232,492	49,269	181,581	230,850	97,986	365,356	463,342
平成 4 年	40,760	176,628	217,388	41,074	180,235	221,305	81,834	356,863	438,697
平成 5 年	34,182	166,724	200,906	37,331	166,462	203,793	71,513	333,186	404,699

(5) けい留施設の利用状況

本港における平成3年のけい留施設の利用状況は、表2-3-9及び図2-3-5のとおりである。

表2-3-9(1) けい留施設別利用状況(平成3年)

公 専 別	地 区 別	施 設 名	水 深 (m)	延 長 (m)	バ ー ス 数	利用実績 (千ト)			主 要 取 扱 品 目	
						合 計	出 入 別	内 貿		
公 共	福 島	福島-6.0m岸壁	-6.0	105	1	135	出	9	輸送機械, 砂糖	
							入	126	砂糖, 鉄鋼	
		-5.5m 福島-4.0m岸壁	-5.5 -4.0	360 90	5	509	出	34	原木, 紙・パルプ	
							入	474	砂・砂利・石材等, 鉄鋼	
	高 島	高島-7.5m岸壁	-7.5	260	2	106	出	-		
							入	106	鉄鋼	
		高島-5.5m岸壁 (3突)	-5.5	470	5	46	出	12	輸送機械, 原木	
							入	34	鉄鋼, 原木	
		高島-4.0m物揚場 (1突)	-4.0	540		158	出	-		
							入	158	砂・砂利・石材等	
		江並1号けい船岸	-1.8	40		4	出	-		
							入	4	原木	
	高 島	高島-1.5m物揚場	-1.5	100		0	出	-		
							入	0	その他窯業品	
		西 大 寺	西大寺けい船岸	-2.0	712		178	出	-	
								入	178	砂・砂利・石材等
公 共 け い 留 施 設 計						1,135	出	55		
							入	1,080		
専 用	旭 川	中国精油				10	出	-		
							入	10	重油, 石油製品	
		岡山ガスけい船岸	-0.8	40		0	出	-		
							入	0	石油製品	
	福 島	丸善石油 丸善けい船岸	-4.0	23		47	出	-		
							入	47	石油製品, 重油	
		ゼネラル石油 けい船岸	-2.0	20		242	出	-		
							入	242	石油製品, 重油	
		日本石油 けい船岸	-2.0	8		254	出	-		
							入	254	石油製品, 重油	
		三井製糖棧橋	-3.5	30		9	出	-		
							入	9	重油	
	島	四日市油槽 けい船岸	-1.8	39		44	出	-		
							入	44	石油製品, 重油	
		同和鉱業棧橋	-6.5	75	1	541	出	306	化学薬品, 鉄鉱石	
							入	235	鉄鉱石	

表 2-3-9(2) けい留施設別利用状況 (平成 3 年)

公 専 別	地 区 別	施 設 名	水 深 (m)	延 長 (m)	バ ー ス 数	利用実績 (千ト)			主 要 取 扱 品 目		
						合 計	出 入 別	内 質			
専 用	福 島	倉敷レーヨン けい船岸	-2.2	200		218	出	19	化学薬品		
							入	198	コークス, 化学薬品		
		岡山港けい船岸	-1.8	83		46	出	-			
							入	46	重油, 石油製品		
	高 島	日本セメント ドルファン	-4.1	6	1	172	出	12	セメント		
							入	161	セメント		
	小 串	新日鉄化学栈橋		17		77	出	-			
							入	77	セメント		
専 用	西 大 寺	帝国化工 -4.0m岸壁	-4.0	224	5	273	出	101	その他非金属鉱物, 化学薬品		
							入	172	その他金属鉱, 化学薬品,		
		帝国化工 5 号栈橋	-1.6	35		126	出	91	その他非金属鉱物		
							入	35	重油		
		木津川製線栈橋	-4.0	13		27	出	-			
							入	27	鉄鋼		
		エクスラン けい船岸	-3.5	120		129	出	3	その他窯業品		
							入	126	石油製品, 化学薬品		
		専 用 け い 留 施 設 計						2,281	出	532	
									入	1,749	
		合 計						3,415	出	587	
									入	2,828	

注) 端数処理の為、内訳の和は必ずしも合計とはならない。

(資料: 岡山県資料)

(単位:千トン)

水深 (m)	-2.2	延長 (m)	200
品 目	内	出	入
石 油	59	-	59
その他化学工業品	158	19	139
合 計	218	19	198

(単位:千トン)

水深 (m)	-6.5	延長 (m)	75
品 目	内	出	入
その他化学工業品	379	147	232
その他化学工業品	162	159	3
合 計	541	306	235

(単位:千トン)

水深 (m)	-5	延長 (m)	105
品 目	内	出	入
金 属	23	-	23
その他金属製品	5	5	0
軽 工 業 品	101	2	99
合 計	135	9	126

(単位:千トン)

水深 (m)	-1.8	延長 (m)	39.0
品 目	内	出	入
石 油	44	-	44
合 計	44	-	44

(単位:千トン)

水深 (m)	-1.8	延長 (m)	83
品 目	内	出	入
石 油	46	-	46
合 計	46	-	46

(単位:千トン)

水深 (m)	-2.0	延長 (m)	20.0
品 目	内	出	入
石 油	242	-	242
合 計	242	-	242

(単位:千トン)

水深 (m)	-4	延長 (m)	23
品 目	内	出	入
石 油	47	-	47
合 計	47	-	47

(単位:千トン)

水深 (m)	-2.0	延長 (m)	3.0
品 目	内	出	入
石 油	254	-	254
合 計	254	-	254

(単位:千トン)

水深 (m)	-3.5	延長 (m)	30.0
品 目	内	出	入
石 油	9	-	9
合 計	9	-	9

(単位:千トン)

水深 (m)	-4 (-5.5)	延長 (m)	360.90
品 目	内	出	入
米 穀	59	1	58
林 産 品	16	16	-
石 油	7	-	7
砂 子	319	-	319
その他化学工業品	19	3	16
金 属	59	-	59
その他化学工業品	14	0	14
軽 工 業 品	14	14	-
合 計	509	34	474

凡 例	公 用
-----	-----



図 2 - 3 - 5 (1) 係留施設別利用状況図 (平成 3 年)

N

(単位:キトン)

4 突堤高島 (-7.5) 岸壁			
水深 (m)	延長 (m)	内	入
-7.5	250	出	入
品	目	合計	入
金	鋼	105	105
その他化学工業品	0	0	0
計	105	0	0

(単位:キトン)

中 西 製 油 残 堀			
水深 (m)	延長 (m)	内	入
品	目	合計	入
石	油	10	10
計	10	0	10

(単位:キトン)

江 登 1 号 け い 船 岸			
水深 (m)	延長 (m)	内	入
-1.8	40	出	入
品	目	合計	入
林	産	4	4
計	4	0	4

(単位:キトン)

日 本 セ ナ ン ト ド ル フ ァ イ ン			
水深 (m)	延長 (m)	内	入
-4.1	6	出	入
品	目	合計	入
セ	ナ	172	12
計	172	12	161

(単位:キトン)

高 島 フ ェ リ ー 残 堀			
水深 (m)	延長 (m)	内	入
-1.5	25	出	入
品	目	合計	入
フ	エ	2,376	1,187
計	2,376	1,187	1,189

(単位:キトン)

3 突 高 島 (-5.5) 岸壁			
水深 (m)	延長 (m)	内	入
-5.5	470	出	入
品	目	合計	入
林	産	13	12
金	鋼	14	0
その他化学工業品	9	9	0
計	36	21	12

(単位:キトン)

高 島 (-4.0) 岸壁			
水深 (m)	延長 (m)	内	入
-4.0	1,050	出	入
品	目	合計	入
砂	利	158	158
計	158	0	158

(単位:キトン)

反 尾 ソ ー ダ 残 堀			
水深 (m)	延長 (m)	内	入
-3.0	110.0×2	出	入
品	目	合計	入
その他化学工業品	66	66	66
計	66	0	66

(単位:キトン)

高 島 (-1.5) 物 置 場			
水深 (m)	延長 (m)	内	入
-1.5	100	出	入
品	目	合計	入
その他化学工業品	0	0	0
計	0	0	0

(単位:キトン)

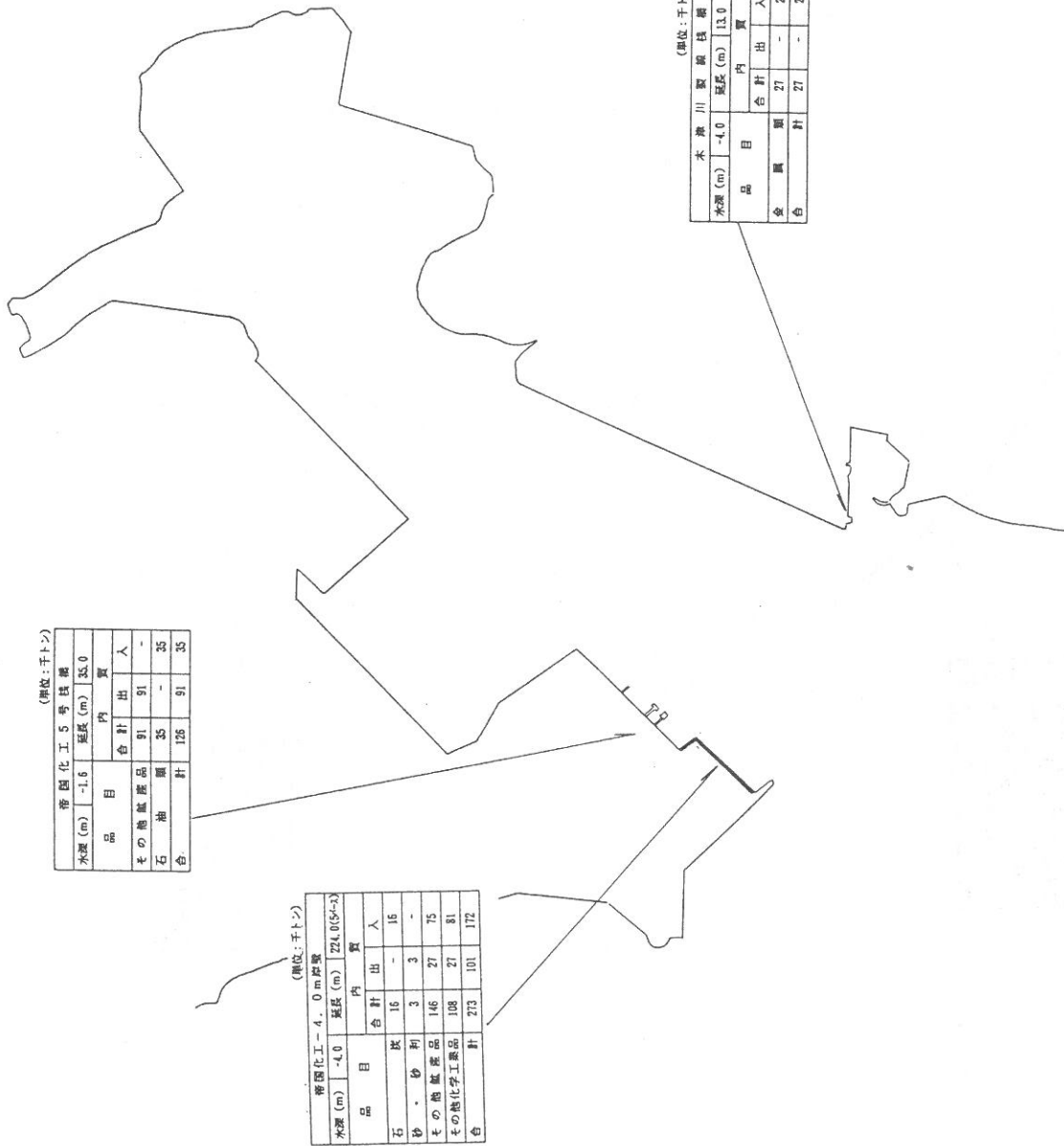
新 日 興 化 学 残 堀			
水深 (m)	延長 (m)	内	入
品	目	合計	入
セ	ナ	77	77
計	77	0	77

例

凡	公	用



図 2 - 3 - 5 (2) 係留施設別利用状況図 (平成 3 年)



凡 例	例
	公 共
	専 用



図 2 - 3 - 5 (3) 係留施設別利用状況図 (平成 3 年)

N

西大寺地区

(単位:キトン)

西大寺 (-2) けい船岸			
水深 (m)	-2	延長 (m)	712
品目	内 容		
	合 計	出	入
砂	178	-	178
色	計	178	-
		178	178

(単位:キトン)

エクスラン けい船岸			
水深 (m)	-3.5	延長 (m)	120.0
品目	内 容		
	合 計	出	入
石油類	67	-	67
その他化学工業品	52	3	59
色	計	129	3
		129	126

凡	西
	公
	共
	用

0 500m

図 2 - 3 - 5 (4) 係留施設別利用状況図 (平成 3 年)

(6) プレジャーボートの状況

岡山港港湾区域内におけるプレジャーボートの保管・放置状況は、図2-3-6に示すとおりである。港内におけるプレジャーボート隻数は、平成4年において1,956隻であり、このうち675隻については高島地区公共ふ頭や旭川、吉井川などに放置されている。

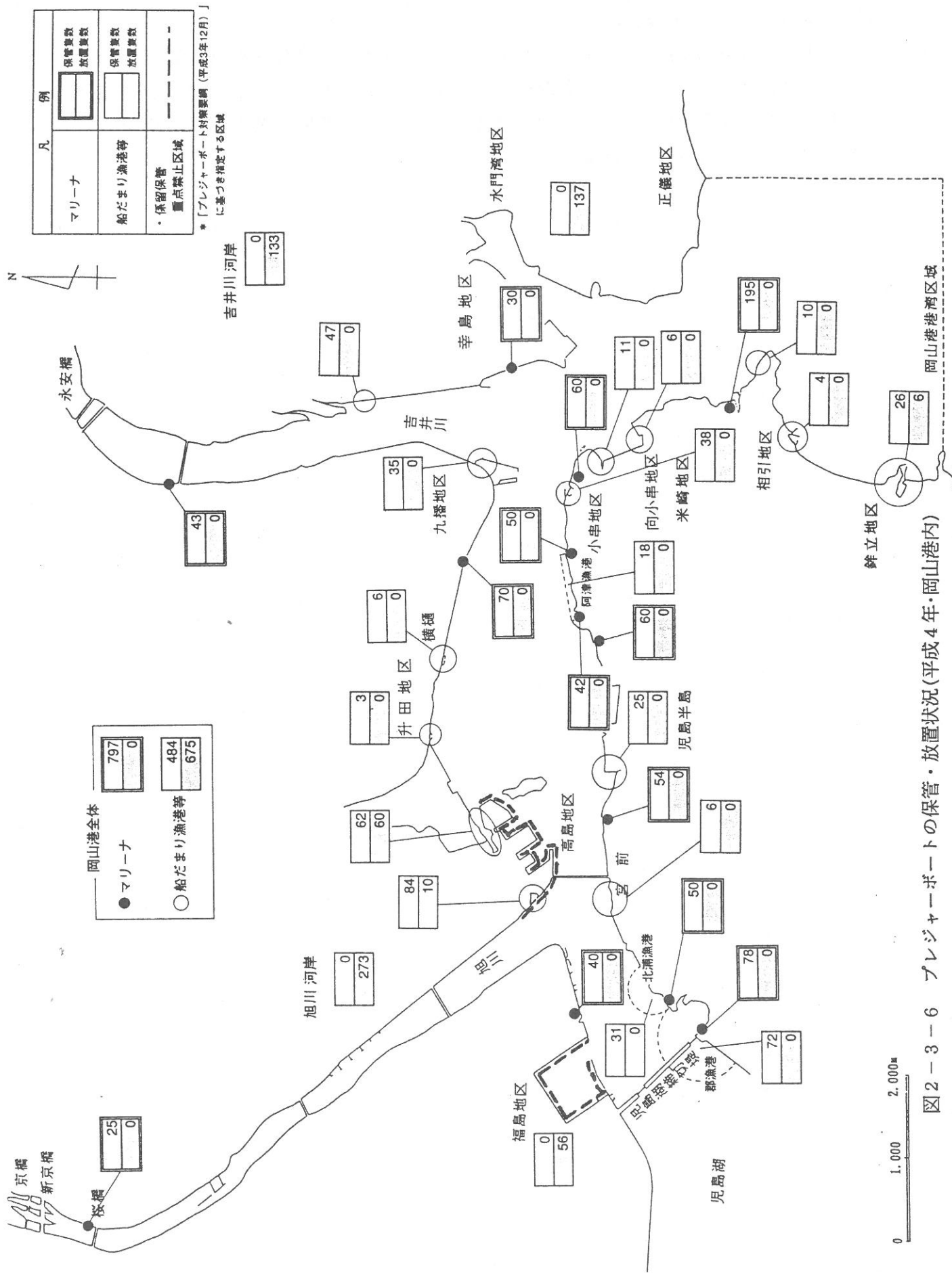


図2-3-6 プレジャーボートの保管・放置状況(平成4年・岡山港内)

2-4 現状における課題

岡山港は、昭和51年6月港湾審議会第74回計画部会の議を経て決定された港湾計画に基づき、本港の背後地域が瀬戸内圏における経済社会の中心としての役割を果たすべく、内貿の流通機能の強化を目標に港湾整備を推進してきた。

しかしながら、本港を取りまく近年の社会経済情勢の変化及び広域交通網の整備による地域構造の変化に伴い、本港においても、より効率性、安全性、快適性の高い港湾空間の整備が要請されている。

本港における主要な課題は、次のとおりである。

(1) 物流機能の高度化

岡山港の背後地域である県東部地域は、人口集積が高く県都である岡山市を擁しているが、大型岸壁の不足等の要因によりかなりの生産・消費物資輸送を他港や他の輸送機関に依存している状況にある。

近年、背後交通網の整備が飛躍的に進展しており、このような交通条件の整備を背景として、また、物流の低コスト化・環境負荷の軽減等への関心の高まりから、背後企業からは内貿ユニットロードターミナル機能の導入が望まれており、地域産業の振興や他港、他輸送機関の負荷軽減のためにも、物流機能の強化・高度化を推進する必要がある。

(2) 快適で人々に親しまれる水辺空間の創出

岡山港では、高度経済成長を支えた臨海工業地帯の形成により、港湾空間は産業や物流機能に特化し、人々の生活と離れた存在となっている。

このため、人々が港へ自由に、安全に、かつ快適に行き来でき、海や港の本来有する魅力を十分活かした空間を確保することや、岡山の海の玄関口としてふさわしい水辺空間を創出することが求められている。

(3) 自然環境の保全と創造

干潟や自然の砂浜海岸等、生態系を含めた良好な自然型海岸線の保全を図るとともに、親水性豊かな、自然と親しめる快適空間の創出が求められている。

(4) プレジャーボート活動の適正化

岡山県は、国内有数のプレジャーボート活動の適地である瀬戸内海に面しており、今後も海洋性レクリエーションの活動の場として、また、交流の場として更に発展していくことが期待されている。

このため、プレジャーボート活動の適正化を図るため、けい留施設の確保を図る等、「プレジャーボート対策要綱（平成3年12月施行）」を更に推し進めていくことが求められている。

(5) 災害時における海上輸送ルートの確保

災害時における被災者の避難及び応急対策に必要な要員、物資等の迅速確実な輸送を確保するため、陸路による交通が途絶した場合の海上輸送の確保並びにこれに対応した港湾施設の整備が要請されている。

3 . 立 地 機 構

3 - 1 概 要

岡山港は、岡山県三大河川の旭川、吉井川の河口港で児島半島北側の児島湾に位置している。背後都市の岡山市は、瀬戸内海特有の温和な気候に恵まれ、吉備文化の発祥地として古くから文化の中心地として栄えてきた。

本港は、内貿中心の流通拠点港として、山陰・四国方面へ至る海運、陸運の交通の要衝として発展し、海上輸送の活発化、船舶の急増と大型化に対応した港湾施設の整備を行ない現在に至っている。

昭和58年の児島湾大橋の完成による宇野港との外貿・内貿の相互補完機能の充実、昭和63年の本州四国連絡橋、新岡山空港の完成、平成4年の岡南大橋の開通、さらには、山陽自動車道、中国横断自動車道の供用による交通体系の一層の充実により、岡山県の海の玄関として新たな港湾空間の創出が期待されている。

3 - 2 地理的条件

(1) 位 置

岡山港は、瀬戸内海中央部、児島半島北側の児島湾に位置し、東は大阪より79海里、西は北九州より189海里的航程にあり、南は23海里で高松と相対し、北は中国山地を経て鳥取県と相対している。陸上交通ではJR山陽新幹線、山陽本線、津山線、吉備線、瀬戸大橋線が、また、主要幹線道路として国道2号、国道30号、国道53号、国道180号、山陽自動車道があり主要都市と通じている。

(2) 他の港湾との関係

岡山港と関係の深い各港との海上距離は、表 3-2-1 に示すとおりである。また、瀬戸内海地域の重要港湾位置図は図 3-2-1 のとおりである。

表 3-2-1 岡山港との海上距離

(単位：海里)

港 名	海上距離	摘 要	港 名	海上距離	摘 要
土 庄	14	地方港湾	大 阪	82	特定重要港湾
宇 野	14	重要港湾	堺泉北	86	特定重要港湾
水 島	29	重要港湾	佐 伯	180	重要港湾
坂 出	31	重要港湾	苅 田	192	重要港湾
福 山	43	重要港湾	北九州	204	特定重要港湾

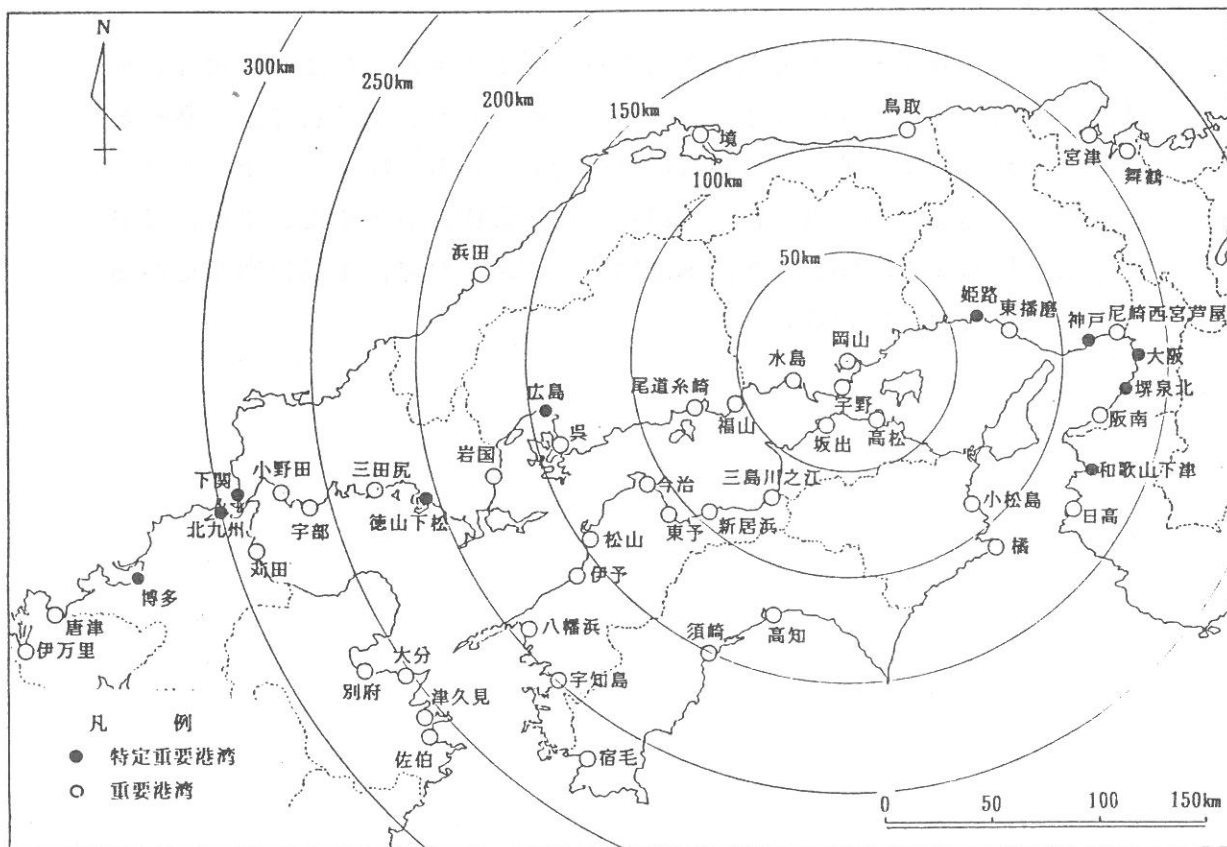


図 3-2-1 瀬戸内海地域の重要港湾位置図

3-3 自然条件

(1) 地 勢

本地域は、瀬戸内海の中央部児島半島の北部に位置し、岡山市中央を貫流する旭川河口に広がる岡山平野を中心に北部は標高 400m 級の山々（中国山地）が連なっている。

水系は、東から吉井川、旭川、笹ヶ瀬川、市境に倉敷川等がある。

（図 3-3-1 参照）

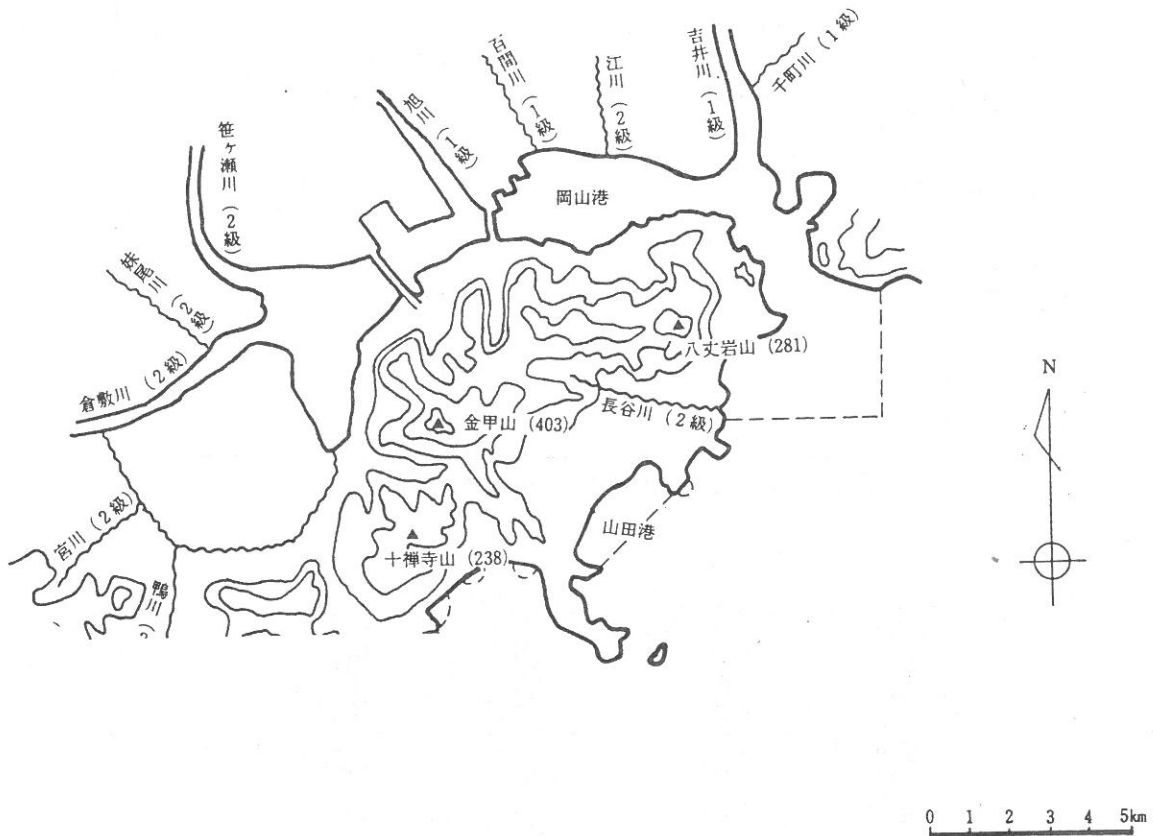


図 3-3-1 地 勢 図

(2) 地 質

岡山港における土質は、図3-3-2のとおりである。福島地区は、表層が土で、中間部は砂と粘土の互層、粘土を経て礫層に達している。高島地区前面は、表層が砂まじりシルト層で、中間部は粘土層からなる軟弱層を形成し、-20.0m前後で支持層に達している。

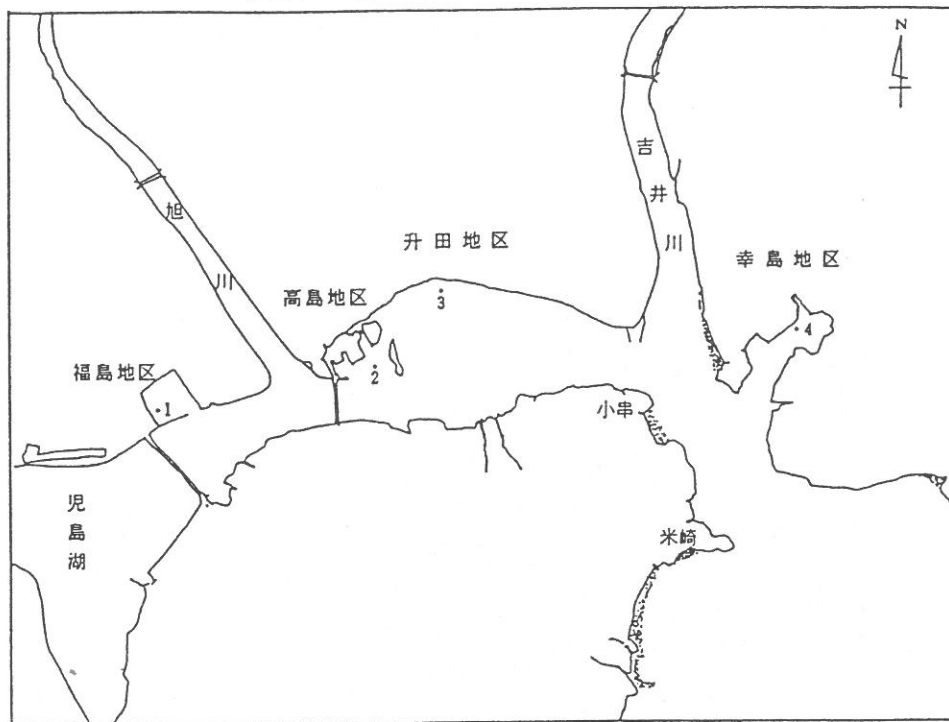


図3-3-2 ボーリング調査位置図

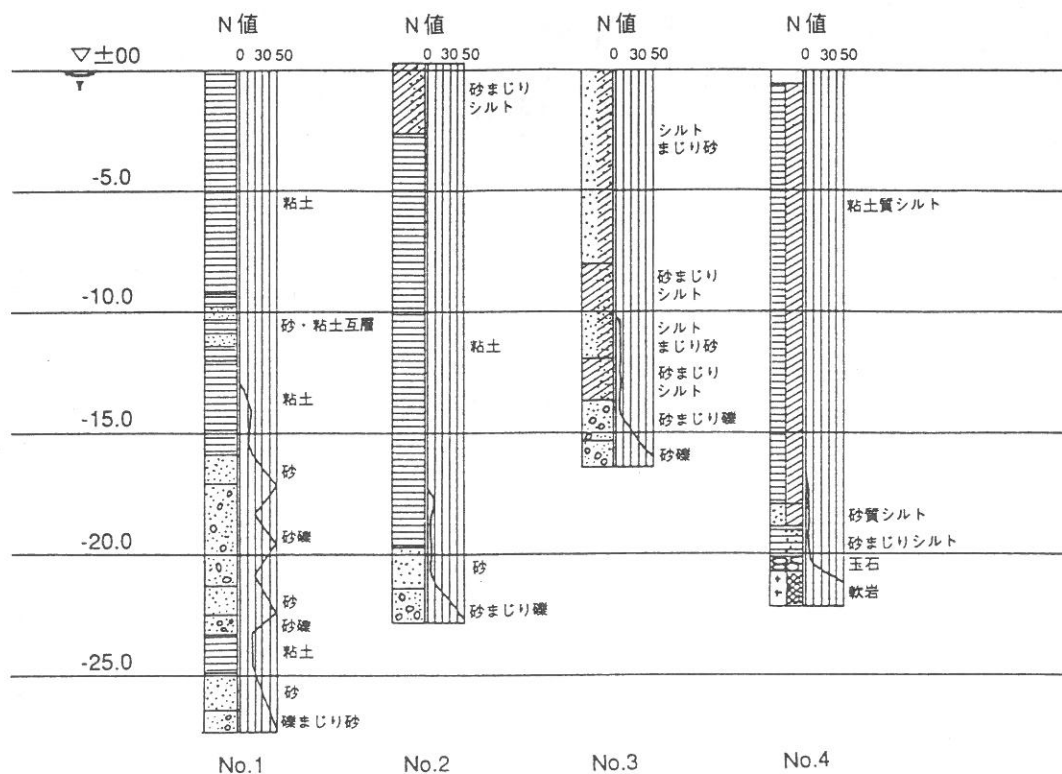


図3-3-3 ボーリング柱状図

(3) 気 象

① 気 候

本地域は、年間を通じて気温格差が少なく、平均気温は16.0度（5カ年平均）で、日照時間については年間1,930.2時間（5カ年平均）と多い。

また、降水量は年間1,274.6mm（5カ年平均）と少なく、典型的な瀬戸内の多照寡雨型気候である。



図 3 - 3 - 4 観測位置図

表 3 - 3 - 1 気象の概要

項目 月	気 温 (°C)			降 水 量 (mm)	日 照 時 間 (h)	天 気 日 数 (日)			
	平均	最高	最低			不 照	雪	霜	雷
1 月	5.6	9.6	1.9	41.1	136.5	4.2	4.8	0.8	0.2
2 月	5.8	9.9	1.9	59.2	130.5	4.6	5.6	0.0	0.0
3 月	9.0	13.3	4.7	124.6	151.0	6.0	1.4	0.6	0.2
4 月	14.5	19.5	9.4	105.5	193.4	4.0	0.0	0.4	0.8
5 月	18.4	23.2	13.9	140.1	181.8	5.2	0.0	0.6	1.6
6 月	23.0	27.4	19.2	207.7	154.6	5.4	0.0	0.0	1.6
7 月	26.9	31.2	23.5	144.6	161.0	2.6	0.0	0.0	4.0
8 月	27.7	31.7	24.2	129.5	185.5	2.0	0.0	0.2	1.8
9 月	24.2	28.1	20.8	172.0	146.1	5.8	0.0	0.6	1.8
10 月	17.4	21.9	13.5	68.3	166.1	3.8	0.0	0.6	0.2
11 月	12.1	16.8	7.7	59.5	168.8	2.2	0.0	1.6	0.6
12 月	7.5	11.9	3.4	22.5	154.8	1.8	1.2	2.8	0.2
年 間	16.0	20.4	12.0	1,274.6	1,930.2	47.6	13.0	8.2	13.0

注) 昭和63年～平成4年の5ケ年の平均である。 (資料:岡山地方気象台)

② 風 況

風況については、年間を通じて穏やかな日が多く、昭和62年から平成3年の5年間の観測では、風速5.0m/sec未満の出現率が全体の94.9%を占め、風速10.0m/sec以上の出現率は0.1%となっている。

風向別では、ENE, N方向が卓越している。また、風速10.0m/sec以上の風については、NNW方向が卓越しており、秋期から冬期にかけて出現頻度が高い。(表3-3-2, 3及び図3-3-5, 6参照)

最大風速について過去40年間の記録をみると、最大の風速は昭和29年の台風15号による22.4m/sec(風向SW)を記録しているが、最近10カ年では、最大風速は19.5m/secであり、あまり強風はみられない。

(表3-3-3参照)

表 3 - 3 - 2 (1) 風向風速階級別出現頻度表 (昭和62年~平成3年)

単位：回 (測得率 99.8%)																											
風向 風速 (m/sec)		N	N	N	E	E	E	E	S	S	S	S	S	S	W	W	W	W	N	N	N	N	C	A	L	M	合 計
C A L M																									445	445	
0.1～4.9		1,380	1,276	1,139	1,621	661	592	590	244	337	492	863	1,001	913	619	663	1,004		663	1,004			(3.1)			(3.1)	
		(9.5)	(8.7)	(7.8)	(11.1)	(4.5)	(4.1)	(4.0)	(1.7)	(2.3)	(3.4)	(5.9)	(6.9)	(6.3)	(4.2)	(4.5)	(6.9)		(4.5)	(6.9)						(91.8)	
5.0～9.9		51	32	3	7	4	32	5		6	15	113	79	172	86	69	60		86	60						734	
		(0.3)	(0.2)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.2)	(0.0)		(0.0)	(0.1)	(0.8)	(0.5)	(1.2)	(0.5)	(0.5)	(0.4)		(0.5)	(0.4)						(5.0)	
10.0～14.9		1		1		1				1					1	1	3		1	3						9	
		(0.0)		(0.0)		(0.0)				(0.0)					(0.0)	(0.0)	(0.0)		(0.0)	(0.0)						(0.1)	
15.0以上																											
合 計		1,432	1,308	1,142	1,628	666	624	595	244	344	507	976	1,080	1,085	706	733	1,067		733	1,067				445	445	14,583	
		(9.8)	(9.0)	(7.8)	(11.2)	(4.6)	(4.3)	(4.1)	(1.7)	(2.4)	(3.5)	(6.7)	(7.4)	(7.4)	(4.8)	(5.0)	(7.3)		(5.0)	(7.3)			(3.1)	(3.1)		(100.0)	

岡山地方気象台 (1日 8回観測)

注) () 内は出現率(%)を示す。

表 3-3-2 (2) 風向風速階級別出現頻度表 (昭和62年~平成3年)

季 別	風 向		N	N N E	N E	E N E	E	E S E	S E	S E	S E	S W	S W	W S W	W	W N W	N W	N N W	C A L M	合 計
	風速 (m/sec)	CALM																		
春 (3.4.5月) 測得率 (100.0%)	0.1～4.9	302 (8.2)	275 (7.5)	286 (7.8)	483 (13.1)	192 (5.2)	170 (4.6)	171 (4.6)	68 (1.8)	86 (2.3)	129 (3.5)	227 (6.2)	259 (7.0)	175 (4.8)	127 (3.5)	168 (4.6)	251 (6.8)		104 (2.8)	3,369 (91.6)
	5.0～9.9	23 (0.6)	10 (0.3)		3 (0.1)	2 (0.1)	3 (0.1)	1 (0.0)		2 (0.1)	9 (0.2)	53 (1.4)	14 (0.4)	16 (0.4)	23 (0.6)	20 (0.5)	26 (0.7)			205 (5.6)
	10.0～14.9																1 (0.0)		1 (0.0)	
	15.0以上																			
	合 計	325 (8.8)	285 (7.7)	286 (7.8)	486 (13.2)	194 (5.3)	173 (4.7)	172 (4.7)	68 (1.8)	88 (2.4)	138 (3.8)	280 (7.6)	273 (7.4)	191 (5.2)	150 (4.1)	188 (5.1)	278 (7.6)	104 (2.8)	82 (2.2)	3,679 (100.0)
夏 (6.7.8月) 測得率 (99.6%)	CALM																		82 (2.2)	82 (2.2)
	0.1～4.9	275 (7.5)	269 (7.3)	269 (7.3)	558 (15.2)	286 (7.8)	262 (7.1)	249 (6.8)	85 (2.3)	104 (2.8)	159 (4.3)	283 (7.7)	213 (5.8)	132 (3.6)	67 (1.8)	85 (2.3)	190 (5.2)		3,486 (95.1)	96 (2.6)
	5.0～9.9	2 (0.1)	4 (0.1)	1 (0.0)	4 (0.1)	2 (0.1)	27 (0.7)	2 (0.1)		3 (0.1)	4 (0.1)	30 (0.8)	7 (0.2)	3 (0.1)	4 (0.1)	1 (0.0)	2 (0.1)		1 (0.0)	1 (0.0)
	10.0～14.9			1 (0.0)																
	15.0以上																			
秋 (9.10.11月) 測得率 (100.0%)	合 計	277 (7.6)	273 (7.4)	271 (7.4)	562 (15.3)	288 (7.9)	289 (7.9)	251 (6.8)	85 (2.3)	107 (2.9)	163 (4.4)	313 (8.5)	220 (6.0)	135 (3.7)	71 (1.9)	86 (2.3)	192 (5.2)	82 (2.2)	111 (3.1)	3,665 (100.0)
	CALM																		111 (3.1)	111 (3.1)
	0.1～4.9	482 (13.2)	437 (12.0)	351 (9.6)	345 (9.5)	122 (9.3)	106 (2.9)	109 (3.0)	61 (1.7)	79 (2.2)	109 (3.0)	133 (3.7)	177 (4.9)	211 (5.8)	163 (4.5)	189 (5.2)	303 (8.3)		3,377 (92.8)	146 (4.0)
	5.0～9.9	21 (0.6)	16 (0.4)	1 (0.0)		2 (0.1)	2 (0.1)	1 (0.0)		1 (0.0)	1 (0.0)	14 (0.4)	14 (0.4)	34 (0.9)	11 (0.3)	18 (0.5)	12 (0.3)		5 (0.1)	5 (0.1)
	10.0～14.9	1 (0.0)				1 (0.0)				1 (0.0)						2 (0.1)				
冬 (12.1.2月) 測得率 (99.8%)	15.0以上																			
	合 計	504 (13.8)	453 (12.4)	352 (9.7)	345 (9.5)	123 (3.4)	108 (3.0)	110 (3.0)	61 (1.7)	81 (2.2)	110 (3.0)	147 (4.0)	191 (5.2)	245 (6.7)	174 (4.8)	207 (5.7)	317 (8.7)	111 (3.1)	148 (4.1)	3,639 (100.0)
	CALM																		148 (4.1)	148 (4.1)
	0.1～4.9	321 (8.9)	295 (8.2)	233 (6.5)	235 (6.5)	61 (1.7)	54 (1.5)	61 (1.7)	30 (0.8)	68 (1.9)	95 (2.6)	220 (6.1)	352 (9.8)	395 (11.0)	262 (7.3)	221 (5.1)	260 (7.2)		3,163 (87.9)	287 (8.0)
	5.0～9.9	5 (0.1)	2 (0.1)	1 (0.0)				1 (0.0)			1 (0.0)	16 (0.4)	44 (1.2)	119 (3.3)	48 (1.3)	30 (0.8)	20 (0.6)		2 (0.1)	2 (0.1)
測得率 (99.8%)	10.0～14.9														1 (0.0)	1 (0.0)				
	15.0以上																			
測得率 (99.8%)	合 計	326 (9.1)	297 (8.3)	234 (6.5)	235 (6.5)	61 (1.7)	54 (1.5)	62 (1.7)	30 (0.8)	68 (1.9)	96 (2.7)	236 (6.6)	396 (11.7)	514 (14.3)	311 (8.6)	252 (7.0)	280 (7.8)	148 (4.1)	3,600 (100.0)	3,600 (100.0)

岡山地方気象台 (1日 8回観測)

注) () 内は出現率 (%) を示す。

注) () 内は出現率 (%) を示す。

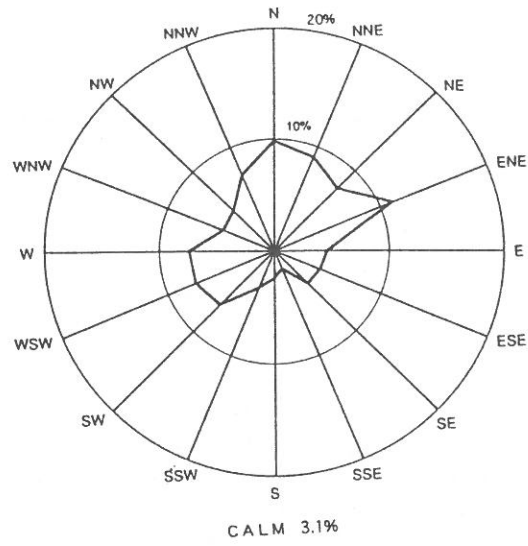
表 3-3-3 風向別最大風速表

観測地 (岡山) 単位: m/sec

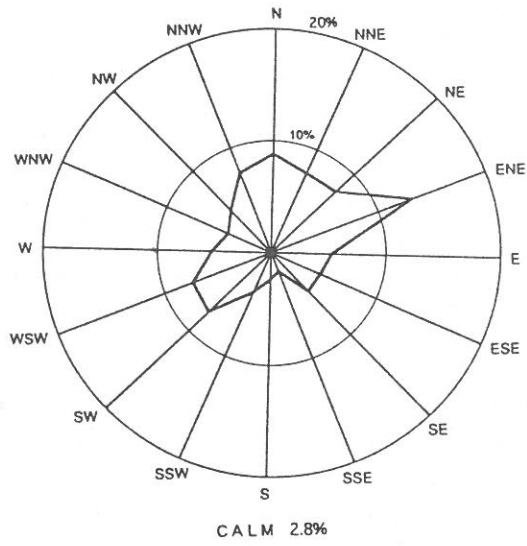
	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW
昭和57年 観測日	7.5 10/9	7.2 9/19	8.1 9/24	6.0 9/4	13.5 8/27	12.0 11/19	3.5 11/28	2.3 11/14	4.9 12/3	6.5 12/27	11.8 11/30	9.5 12/23	11.4 10/24	6.6 1/27	8.8 12/30	7.4 3/31
昭和58年 観測日	8.4 9/7	4.6 4/6	4.9 6/30	7.4 8/16	7.4 2/5	9.1 1/13	4.6 4/12	3.8 8/10	5.3 5/26	6.4 4/27	13.0 2/18	13.9 3/17	12.0 11/18	12.8 12/11	10.5 3/7	9.4 3/13
昭和59年 観測日	8.4 11/20	5.5 12/6	4.1 10/11	5.2 8/13	6.6 7/29	9.8 6/16	7.4 8/21	4.2 5/12	5.6 5/8	5.3 5/24	11.1 3/2	10.3 1/3	11.1 3/17	10.3 2/6	9.9 2/29	10.6 4/19
昭和60年 観測日	7.1 6/30	—	5.2 8/6	6.0 3/17	7.2 2/9	7.6 8/9	5.0 3/25	4.1 4/26	5.5 5/12	6.1 1/15	11.7 7/8	11.4 10/6	11.1 2/21	8.8 1/29	8.9 11/11	8.0 9/13
昭和61年 観測日	8.5 10/22	6.0 10/17	4.8 2/10	7.3 8/18	6.5 5/29	7.9 8/28	4.5 6/11	3.4 7/10	7.7 9/21	6.9 2/7	9.9 5/15	9.4 1/6	9.2 1/8	8.6 1/9	11.8 4/6	9.4 2/15
昭和62年 観測日	12.9 10/17	9.4 10/16	4.2 3/17	5.8 6/1	5.7 6/24	7.0 8/30	4.8 5/10	5.2 3/27	5.7 3/16	6.3 2/23	7.7 2/28	9.1 8/31	10.2 2/26	10.8 12/30	10.4 5/3	9.0 2/4
昭和63年 観測日	7.1 10/28	5.4 12/22	4.0 7/13	5.9 8/10	6.3 6/2	10.0 4/18	4.3 6/15	3.4 9/1	6.0 8/16	5.9 4/30	8.9 4/5	9.2 12/16	11.4 2/6	9.4 1/21	10.9 5/23	11.1 5/12
平成元年 観測日	8.8 10/23	8.9 9/20	10.1 8/27	7.0 7/31	6.3 8/26	10.3 7/28	7.5 7/26	4.9 8/8	7.1 5/2	7.0 5/15	12.9 4/16	8.4 3/7	9.3 1/27	8.4 11/1	10.5 3/17	9.4 1/28
平成2年 観測日	15.3 9/19	8.7 3/25	5.3 9/30	5.7 5/7	5.5 8/9	8.6 6/8	10.0 8/22	4.3 5/29	6.5 8/15	5.6 8/10	10.5 4/8	10.7 12/26	10.4 11/10	12.7 12/11	9.8 3/7	10.9 3/12
平成3年 観測日	8.6 10/12	8.3 5/3	5.3 11/5	5.7 4/7	6.3 8/19	7.4 7/29	7.3 5/6	4.0 3/26	5.7 8/10	10.0 9/14	19.5 9/27	7.1 1/10	9.3 1/12	11.2 12/28	10.0 6/27	10.2 2/16

(資料: 岡山気象観測所)

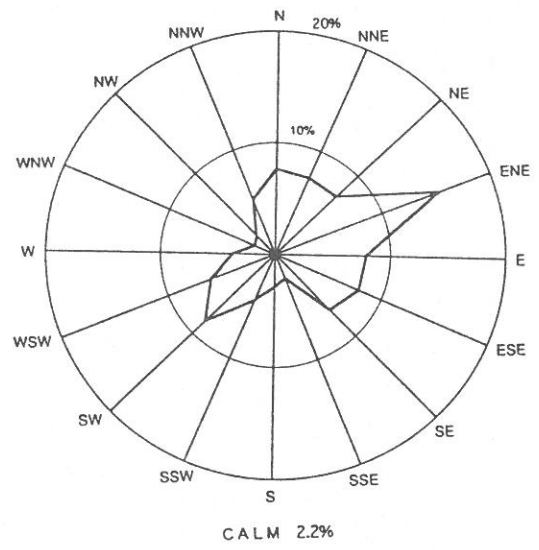
通 年



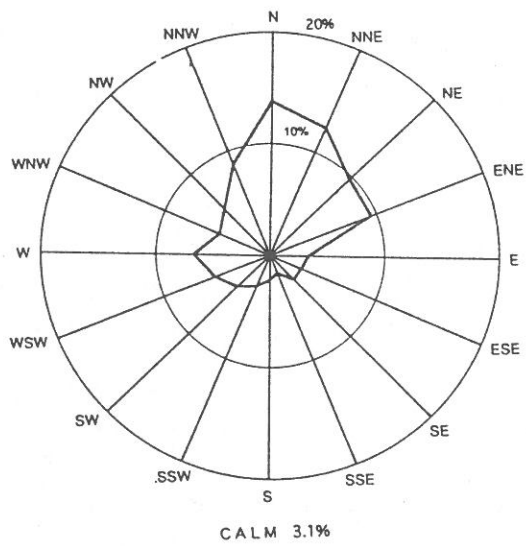
春



夏



秋



冬

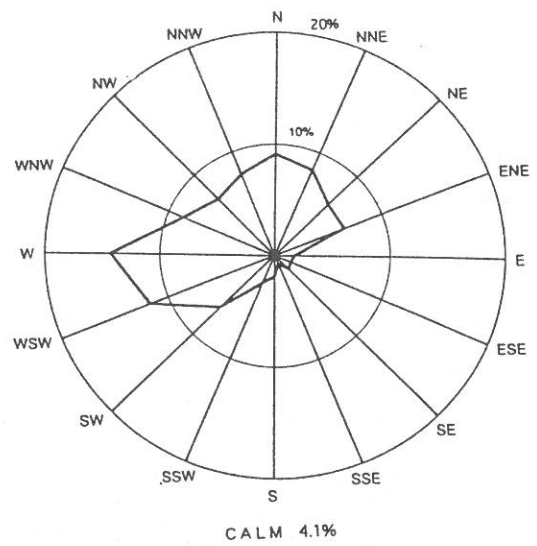
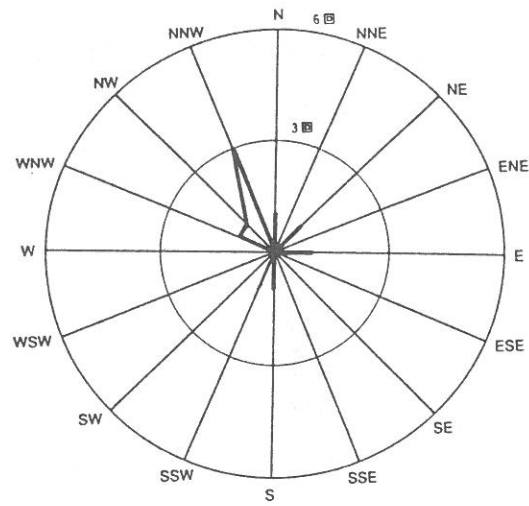
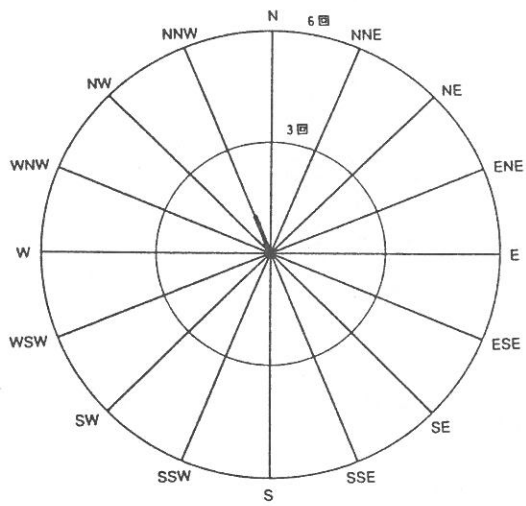


图 3 - 3 - 5 风 配 图

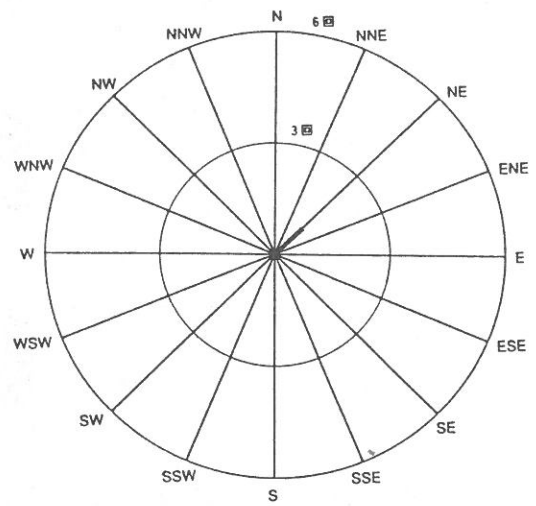
通 年



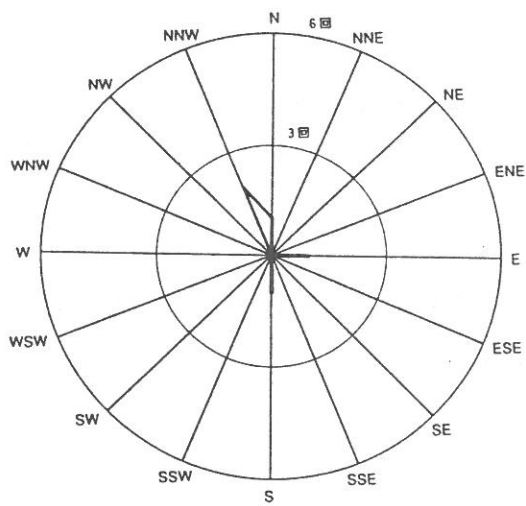
春



夏



秋



冬

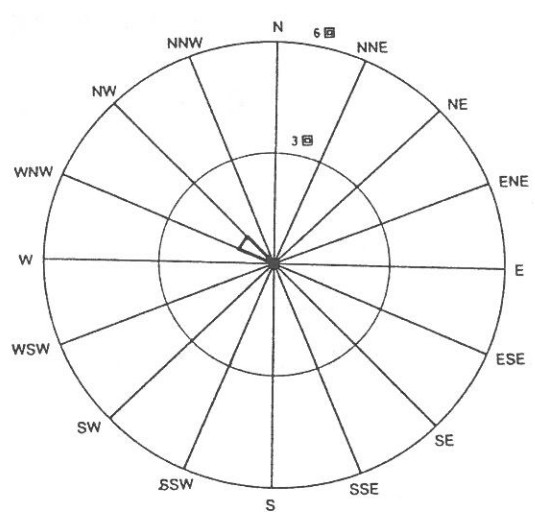
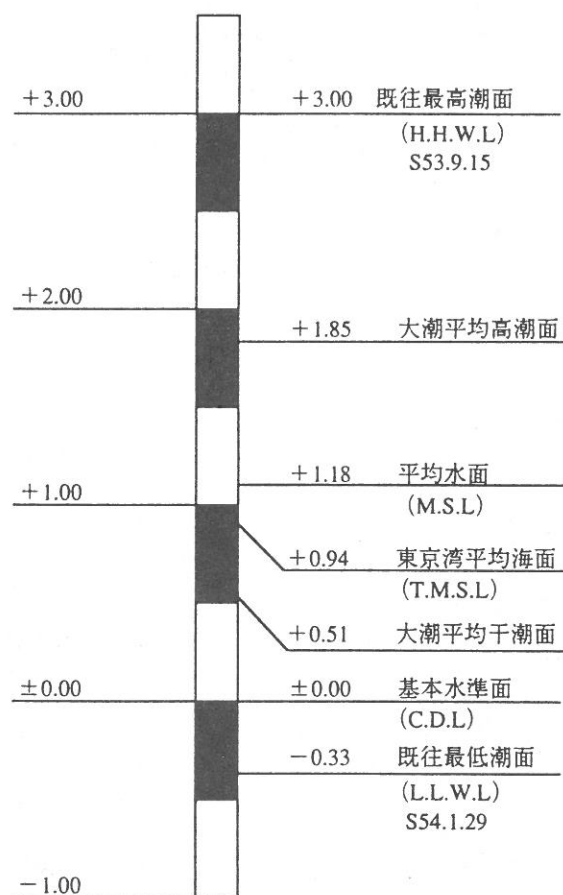


図 3 - 3 - 6 風配図 (風速10.0m/s 以上)

(4) 潮 位

本港における潮位は、図 3 - 3 - 7 に示すとおりである。また、検潮所位置を図 3 - 3 - 4 に示す。



観測期間：昭和25年～昭和61年

観測場所：岡山港管理事務所

図 3 - 3 - 7 岡山港潮位図 (単位 : m)

(5) 潮 流

本港の流況については、図 3 - 3 - 8 ～ 図 3 - 3 - 10 に示すとおりである。(調査期間：平成 4 年 2 月 4 日～ 2 月 19 日)

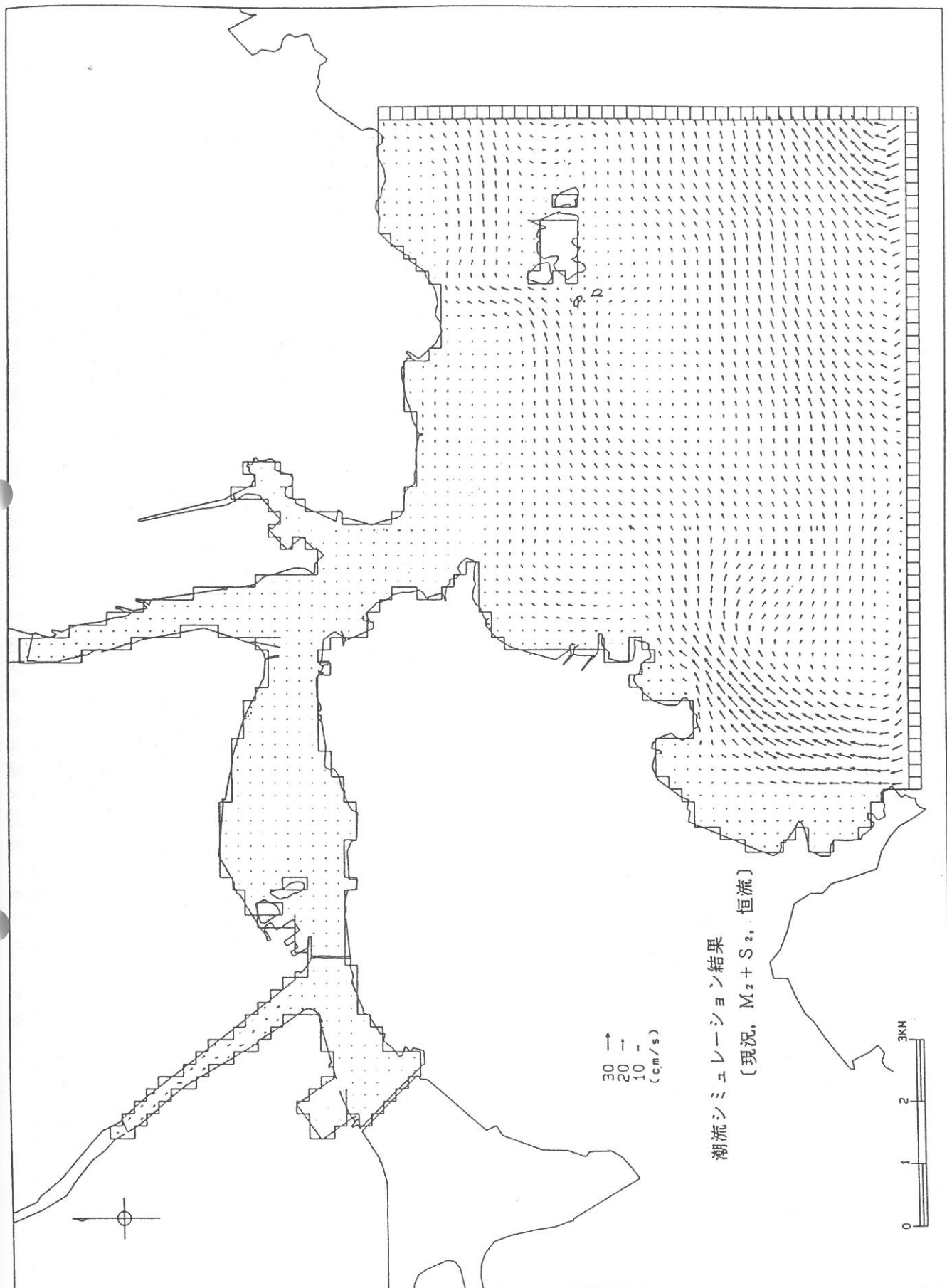


図 3 - 3 - 8 恒 流 図

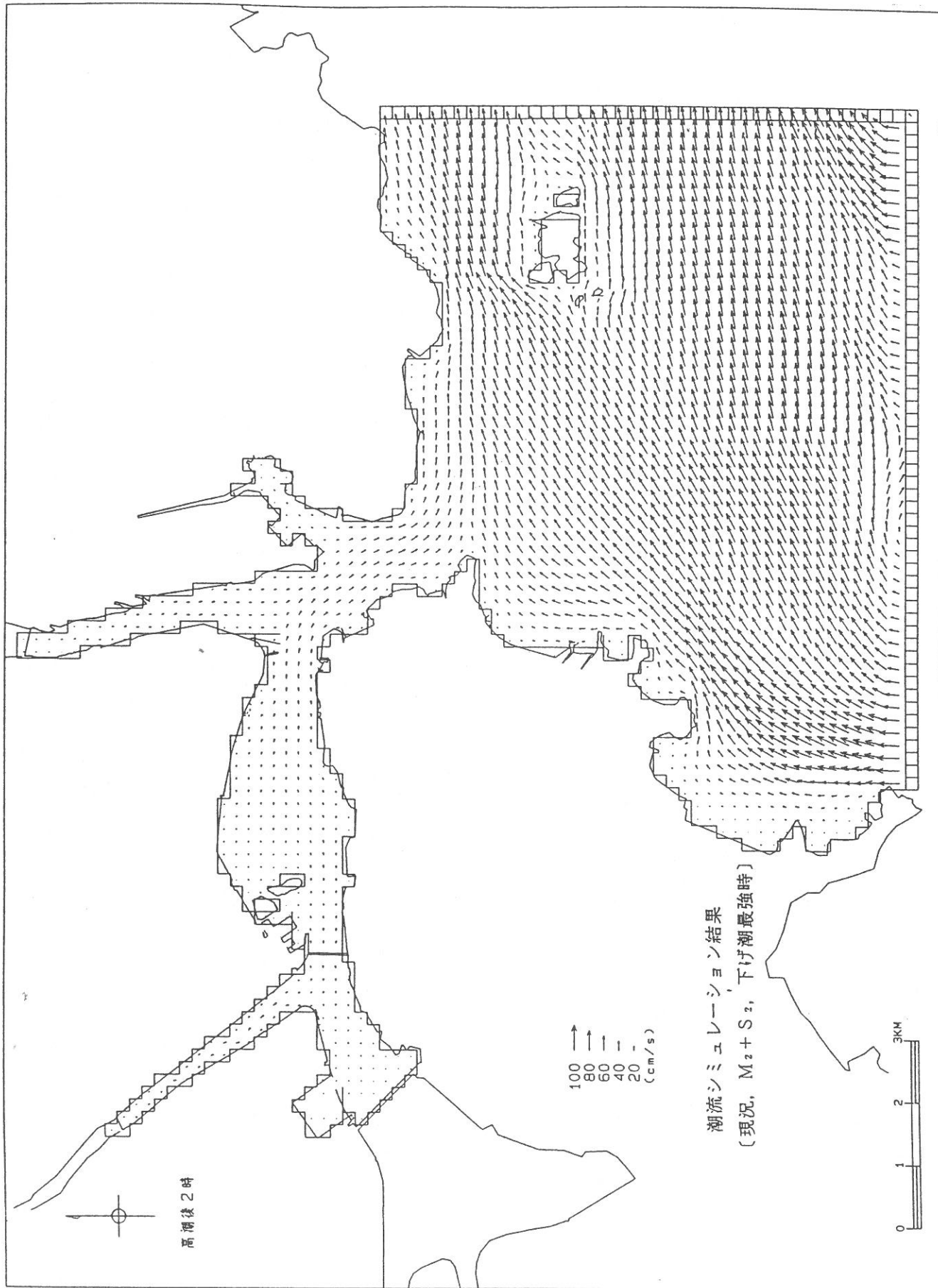


図 3 - 3 - 9 平均大潮期の潮流図（下げ潮最強時：高潮後2時）

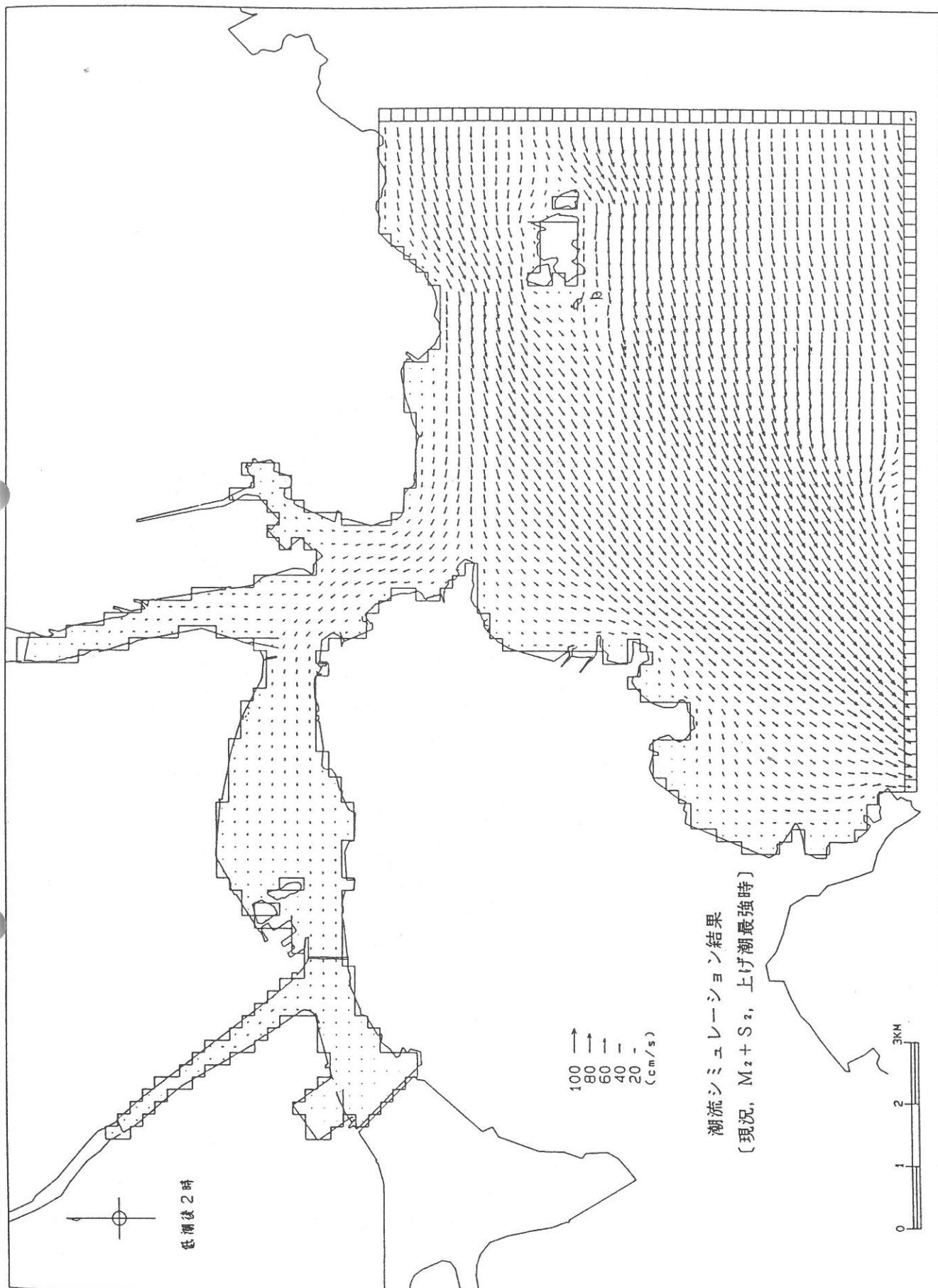


図 3 - 3 - 10 平均大潮期の流況図（上げ潮最強時：低潮後 2 時）

(1) 背 後 卷

港湾貨物の背後流動についてみると、大半が岡山市から発生集中しており、搬出については68%を、搬入についても39%を占めているが、さらに岡山県東部を中心に貨物が搬出入されている。

従って、本港の背後圏は、第一次背後圏を岡山市とし、第二次背後圏を
図 3-4-1 に示す岡山県東部地域とする。

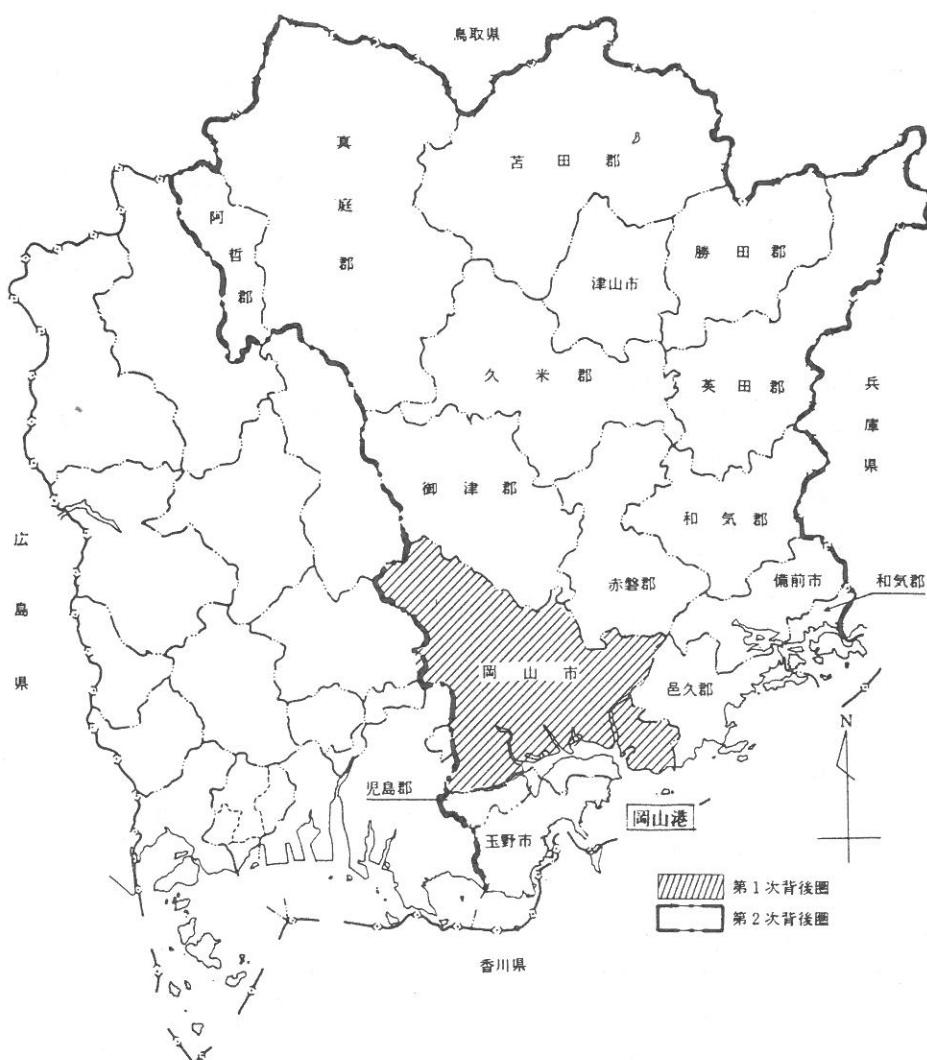
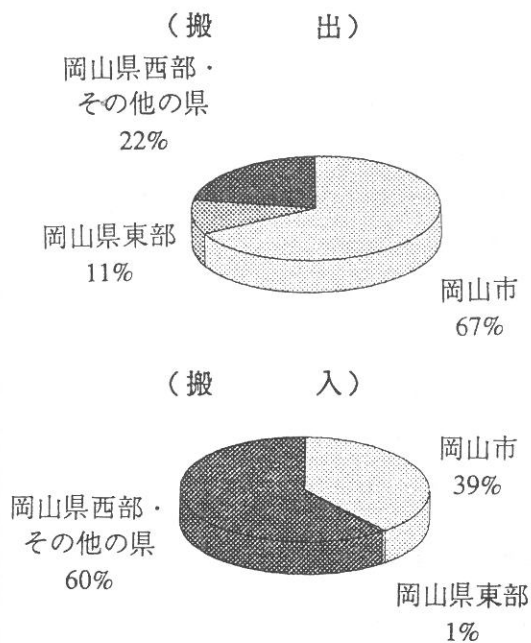


圖 3-4-1 背 後 卷 圖



岡山市－鉄鉱石、石油製品、砂・砂利、石材等
岡山県東部－石油製品、重油、鉄鋼
(岡山市除く)

岡山県西部・その他の県－石油製品、
鉄鋼、
染料・塗料・
合成樹脂

岡山市－化学薬品、鉄鉱石、
染料・塗料・合成樹脂

岡山県東部－米・米穀・豆
(岡山市除く)

岡山県西部・その他の県－石油製品、
重油、
染料・塗料・
合成樹脂

図 3 - 4 - 2 港湾貨物の背後流動

(2) 人 口

背後圏内の人口については、表 3 - 4 - 1 に示すとおりである。

第 1 次背後圏である岡山市、第 2 次背後圏である岡山県東部ともに昭和 50 年以降、人口の増加率は下降傾向となっている。平成 2 年の人口は、岡山市で約 59 万人、第 2 次背後圏で約 113 万人となっている。

表 3 - 4 - 1 背後圏内の人口

(単位: 千人 千戸)

背後圏	年次	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	増 加 率 (%)		
						55/50	60/55	2/60
第1次背後圏 (岡山市)	人 口	513	546	572	594	6.4	4.8	3.8
	世帯数	164	178	191	207	8.5	7.3	8.4
第2次背後圏 (岡山県東部)	人 口	1,046	1,088	1,121	1,134	4.0	3.0	1.2
	世帯数	315	334	350	368	6.0	4.8	5.1
岡 山 県	人 口	1,814	1,871	1,917	1,926	3.1	2.5	4.7
	世帯数	538	560	582	608	4.1	3.9	4.5

(資料: 国勢調査)

(3) 産業別就業人口

背後圏内の就業人口については、表 3-4-2 に示すとおりである。

第 1 次背後圏・第 2 次背後圏ともに昭和 50 年以降、第 1 次産業は減少傾向、第 2 次産業は微増傾向、第 3 次産業は増加傾向になっている。

とくに両背後圏とも第 3 次産業の占める割合は年々増加し、平成 2 年では第 1 次背後圏で約 68%、第 2 次背後圏では約 58% を占めるに至っている。

また、岡山市内の主要企業の概要は、表 3-4-3 及び図 3-4-3 に示すとおりである。

表 3-4-2 背後圏内の就業人口

(単位:人、%)

年次 背後圏		昭和 50 年		昭和 55 年		昭和 60 年		平成 2 年	
		就業人口	構成比	就業人口	構成比	就業人口	構成比	就業人口	構成比
第 1 次 背後圏 (岡山市)	計	246,818	100.0	258,462	100.0	269,024	100.0	283,585	100.0
	第 1 次 産 業	23,705	9.6	19,296	7.5	16,941	6.3	13,177	4.6
	第 2 次 産 業	72,549	29.4	72,721	28.1	72,956	27.1	78,370	27.6
	第 3 次 産 業	150,564	61.0	166,445	64.4	179,127	66.6	192,038	67.8
第 2 次 背後圏 (岡山県 東部)	計	524,314	100.0	536,730	100.0	544,891	100.0	552,939	100.0
	第 1 次 産 業	91,933	17.5	72,929	13.6	65,848	12.1	52,076	9.4
	第 2 次 産 業	169,422	32.3	173,991	32.4	174,164	32.0	179,635	32.5
	第 3 次 産 業	262,959	50.2	289,810	54.0	304,879	55.9	321,228	58.1
岡 山 県	計	909,428	100.0	924,097	100.0	936,402	100.0	552,939	100.0
	第 1 次 産 業	152,419	16.8	121,988	13.2	109,366	11.7	52,076	9.4
	第 2 次 産 業	336,950	37.1	338,168	36.6	340,234	36.3	179,635	32.5
	第 3 次 産 業	420,059	46.2	463,941	50.2	486,802	51.9	321,228	58.1

表 3 - 4 - 3 岡山市内の主要立地企業

No.	工 場 名	所 在 地	製 品 名
1	同和鉄粉工業(株)	岡山市築港栄町7	鉄粉
2	同和鉱業(株)岡山工場	岡山市海岸通1-3-1	硫酸, 高品位酸化鉄
3	ナカシマプロペラ(株)	岡山市上道北方688-1	船用プロペラ
4	オーエム産業(株)	岡山市野田3-18-48	電気めっき
5	小橋工業(株)	岡山市中畦684	農業用機器部品
6	(株)滝澤鐵工所	岡山市撫川983	N C 旋盤
7	(株)ニッカリ西大寺工業	岡山市西大寺川口465-1	刈払機
8	藤原醸機産業(株)	岡山市榑津621-1	醸造用機械 一般産業用機械
9	オムロン岡山(株)	岡山市海吉2075	工業用タイマ, プラスチック, 成形部品
10	日本モレックス(株)岡山工場	岡山市九幡1119-2	コネクタ
11	松下電器産業(株)ビデオ・ビーム事業部 岡山工場	岡山市東平島1360	V T R
12	(資) 浅越機械製作所	岡山市妹尾216	糸引リシダ, 花造織機
13	西大寺産業(株)	岡山市西大寺浜910	自動車車体部品 電算機付属部品
14	オージー技研(株)	岡山市海吉1835-7	医療機器
15	岡山製紙(株)	岡山市浜野1-4-34	中芯原紙, 美粧段ボール
16	(株)クラレ岡山工場	岡山市海岸通1-2-1	ビニロン長繊維, 短繊維, 合成皮革
17	テイカ(株)岡山工場	岡山市西幸西1072	酸化チタン
18	日本エクスラン工業(株)西大寺工場	岡山市金岡東町3-3-1	アクリル繊維
19	林原(株)岡山第二工場	岡山市今保西梶ヶ野578	マルトース, 触媒
20	内山工業(株)	岡山市江並338	ゴム型物
21	セイレイ工業(株)本社工場	岡山市江並428	工業用ゴム 製品, コルシート
22	東海ゴム工業(株)岡山工場	岡山市西大寺川口下野田440	防振ゴム
23	日進ゴム(株)	岡山市高柳東町13-46	ゴム底布靴, 防振ゴム
24	大建工業(株)岡山工場	岡山市海岸通2-5-8	鉱物繊維板, 軟質繊維板
25	カネボウ綿糸(株)西大寺工場	岡山市西大寺南1-2-1	純綿糸, ホップリン・フロート
26	倉敷紡績(株)岡山工場	岡山市中井町2-5-17	純綿糸, 綿丸編ニット生地
27	ボブソン(株)アパレル開発センター	岡山市昭和町7-3	レディースハット, ニットハット
28	山下産業(株)	岡山市西大寺中野本町2-2	ジュニアカッターシャツ
29	オハヨー乳業(株)	岡山市神下565	アイスクリーム, 清涼飲料
30	(株)永谷園本舗岡山工場	岡山市九幡1119-3	お茶漬のり
31	日清製粉(株)岡山工場	岡山市下石井1-3-16	小麦粉
32	林原(株)岡山第一工場	岡山市天瀬南町7-7	水あめ, 麦芽糖
33	三井製糖(株)岡山工場	岡山市築港元町13-5	精製糖
34	日本たばこ産業(株)岡山工場	岡山市下石井2-10-2	紙巻たばこ
35	協同精版印刷(株)	岡山市青江936-1	平版印刷物
36	(株)山陽新聞社新聞製作センター	岡山市新屋敷町1-1-18	日刊新聞紙
37	シンコー印刷(株)	岡山市島田本町2-7-16	平版印刷物
38	中国セキスイ工業(株)	岡山市古都宿189	ルームユニット

(資料: 岡山市)

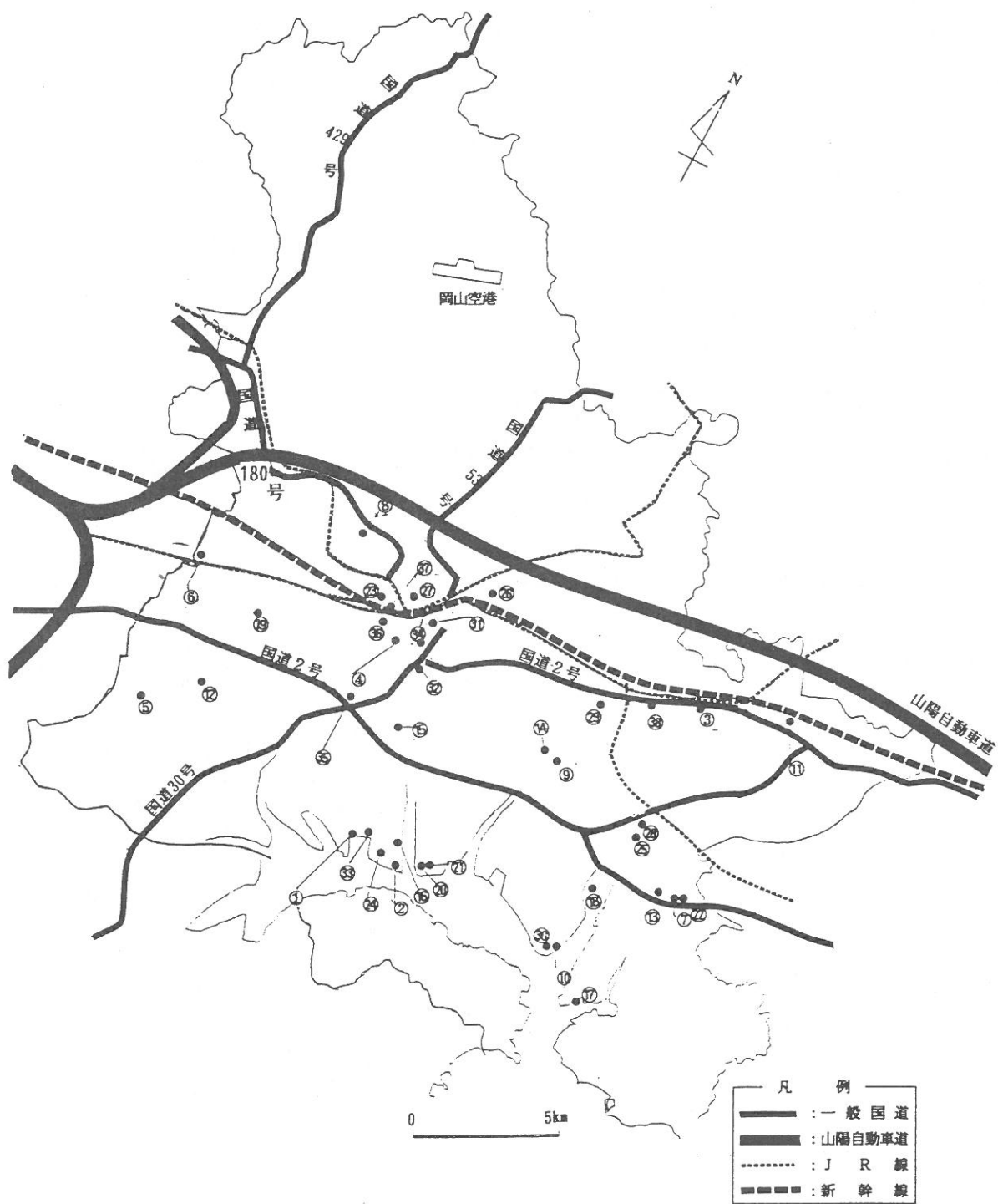


図 3 - 4 - 3 岡山市内主要立地企業位置図

(4) 工業出荷額

工業出荷額（４人以上の事務所）については、表３－４－４に示すとおりであり、第１次背後圏である岡山市の出荷額は平成４年で10,818億である。

また、第２次背後圏である岡山県東部の出荷額は、26,018億円であり、第１次背後圏の約2.4倍である。

表３－４－４ 背後圏内工業出荷額年次推移

(単位:億円)

年 次 \ 背後圏	第１次背後圏 (岡山市)	第２次背後圏 (岡山県東部)
昭和58年	7,845	17,829
昭和59年	8,803	20,162
昭和60年	9,941	21,452
昭和61年	9,492	21,415
昭和62年	9,754	21,423
昭和63年	10,230	22,402
平成元年	9,963	23,056
平成２年	10,701	24,840
平成３年	11,633	25,395
平成４年	10,818	26,018

(資料：工業統計)

(5) 交通

① 鉄道

本港の背後地域には、図3-4-4に示すように、市内中心部を山陽新幹線、山陽本線が東西に走っており、この他に岡山駅から赤穂線、津山線、吉備線と四国方面へ昭和63年4月に開通した瀬戸大橋線が走っている。

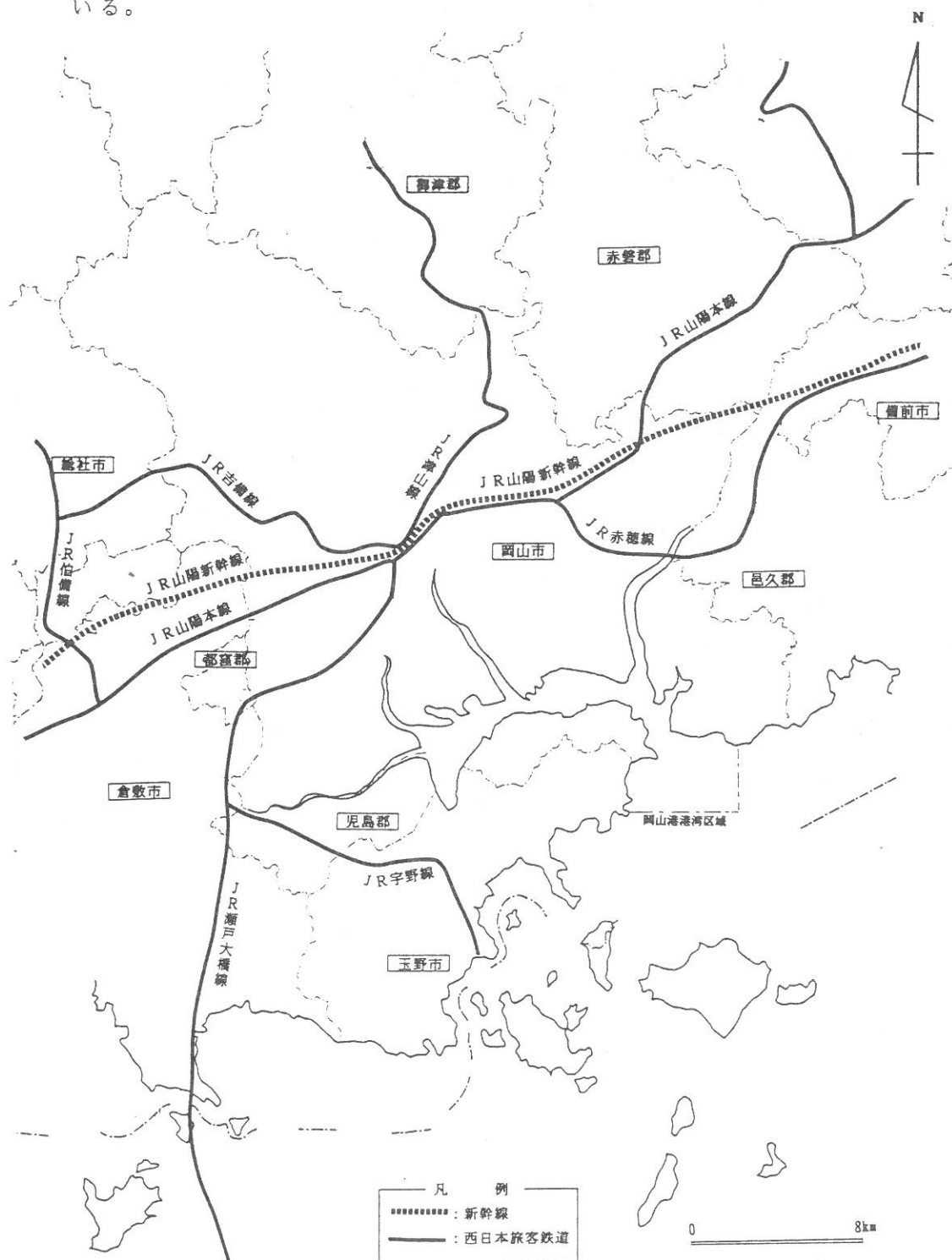


図3-4-4 鉄道網図

② 道 路

本港背後地域の道路網は、図3-4-5に示すように国道2号が岡山市を東西に走り、その他にも主要な国道として、国道30号、53号、180号が、それぞれ玉野市、津山市、新見市に向かって走っている。

高速自動車道については、瀬戸中央自動車道及びこれと接続する山陽自動車道の早島インターチェンジ以西が昭和63年に開通したのに続き、平成5年には山陽自動車道が県内全区間開通した。なお、中国横断自動車道も平成8～9年度内の県内区間の開通をめざして、整備が進められている。

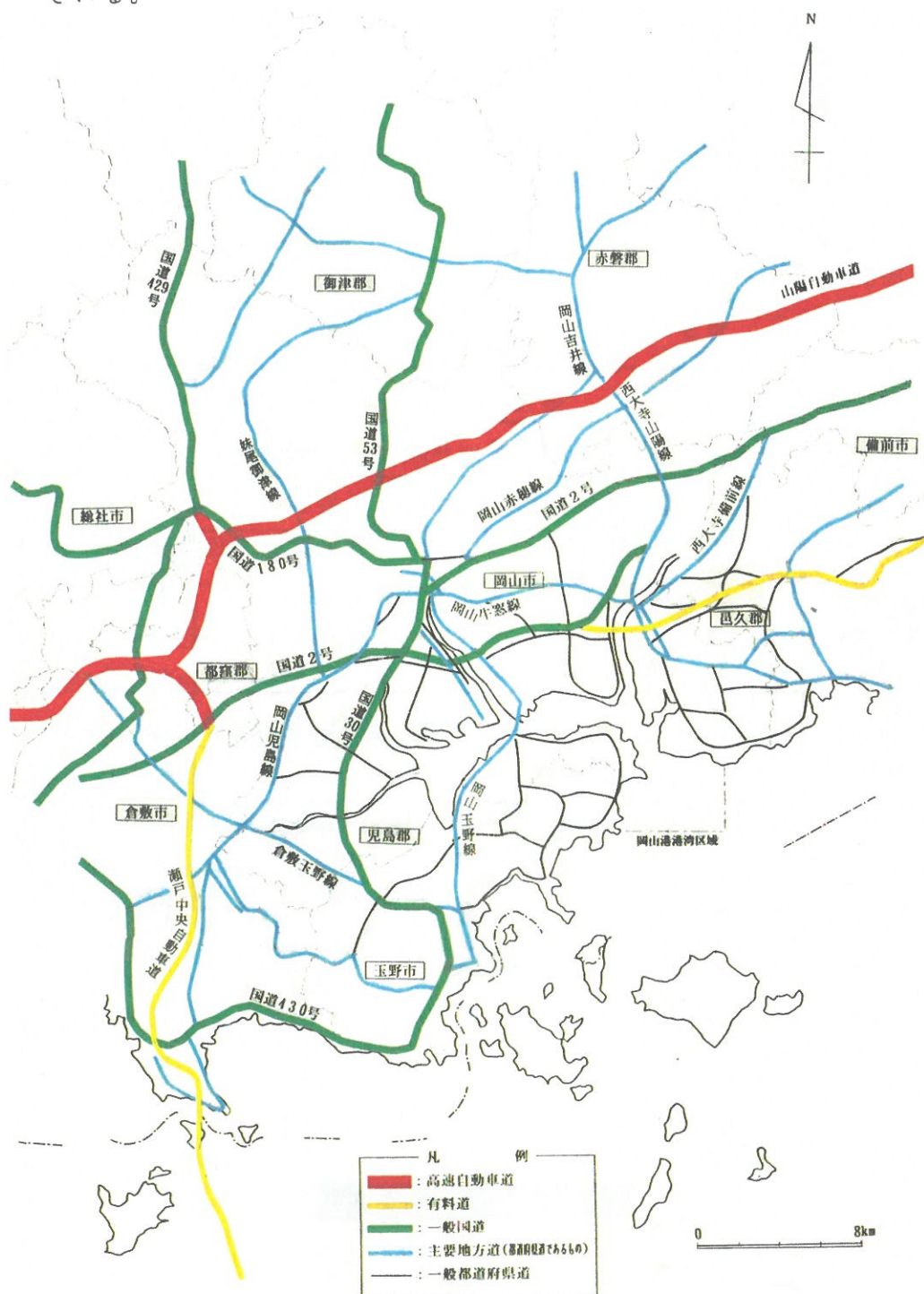


図 3-4-5 道路網図

(6) 地域指定の状況

岡山市の都市計画区域は、表3-4-5に示すとおりで平成7年4月現在で51,326haであり、表3-4-6に示すような用途指定が行なわれている。

表3-4-5 都市計画区域及び用途地域面積

名 称	面 積 (ha)
行 政 区 域	51,326
都 市 計 画 区 域	51,326
市 街 化 区 域	9,739
市 街 化 調 整 区 域	41,587
都 市 計 画 区 域 外	0

(平成7年4月現在)

表3-4-6 用途地域面積

名 称	面 積 (ha)
第1種住居専用地域	1,500
第2種住居専用地域	1,696
住 居 地 域	3,360
近 隣 商 業 地 域	529
商 業 地 域	567
準 工 業 地 域	1,605
工 業 地 域	364
工 業 専 用 地 域	141
合 計	9,762

(平成7年4月現在)

4. 計画目標決定の資料

4-1 港湾計画の基本方針

岡山港は、瀬戸内海地域の中央部、児島半島北側の児島湾に位置し、古くから岡山城下の海運の要所として活況を呈してきた。その後、近海航路の発着地として、また山陰・四国方面に至る海運、陸運の交通の要衝として発展し、昭和39年に重要港湾に指定された。

現在では、岡山市を背後に控え、小豆島への交通拠点として、また、石油類、砂・砂利、その他鉱産品等の内貿貨物の流通拠点としての機能を有し、宇野港の外貿商港としての機能と相互に補完しつつ発展し、平成5年の港湾取扱貨物量は、内貿 507万トン（うちフェリー 216万トン）に達している。

本港の背後圏では、その中心都市岡山市を巡る広域交通体系が、昭和63年の瀬戸大橋の開通や岡山空港の開港等により目覚ましく向上してきた。さらに現在整備中の中国横断自動車道等により、既に供用されている中国縦貫自動車道、山陽自動車道と併せ、山陽・山陰・四国を結ぶ交通の要衝として交通結節拠点性が一層高まるため、岡山県域は、これまでの集積を生かしつつ、広域的な交通体系の変革をもたらす環境の変化に積極的に対応しながら中四国はもとより、広く日本の経済、文化の新たな発展の一翼を担っていくことが期待されている。

既に、岡山市の外縁部となる県南東部においては、立地条件の向上による工業団地の立地が進み、貨物輸送の一層の効率化が要請されている。

また、本港の位置する児島湾は、静穏な海域としてプレジャーボート等の海洋性レクリエーションに対する要請も高まっている。この様に本港は、県内最大の都市圏を間近に控える港湾として、生活・産業に加え観光等の多様な側面で拠点的な役割を果たすことが期待されている。

このため、本港においては岡山県の内貿流通拠点としてのより一層の充実、物流形態の変化に伴う内貿コンテナ貨物等ユニット貨物への対応、フェリー・旅客船のターミナル機能の充実、海に親しむための賑わいのある空間の形成等多様な要請が寄せられている。

このような情勢に対処するために、以下の方針のもとに、おおむね平成17年を目標年次として港湾計画を改訂するものである。

- 1) 岡山県東部を背後圏とする内貿流通拠点として、物流需要の増大やモーダルシフトの進展に対応するため、周辺港湾との機能分担に配慮しつつ、内貿物流機能の強化・拡充を図る。特に正儀地区において、船舶の大型化や高速化などの輸送技術革新や貨物のユニット化の進展にも対応可能な近代的なふ頭を整備する。

- 2) 自然環境と共生した使いやすく美しい港づくりを行うため、港内に存在する砂浜、藻場、干潟などを適切に保全しつつ、生態系や景観などに配慮した施設を整備し、親水機能の向上及び地域住民等の交流に配慮した緑地を整備する。特に高島地区において、地域環境の改善に配慮しつつ、フェリー及び旅客船ふ頭を中心とする県都岡山市の海の玄関にふさわしい交流・水辺空間を整備する。
- 3) ヨットなど海洋性レクリエーションの普及振興に寄与する豊かで安全な海洋空間の形成を図るため、官・民が連携しつつ、プレジャーボート等のための収容施設を整備し、港内に散在する放置艇を適正に収容する。
- 4) 大規模地震災害に対処するため、緊急避難及び緊急物資輸送のための耐震性の高い港湾施設を整備する。
- 5) 港湾と背後地域及び港湾内の円滑な交通を確保するための臨港交通体系の充実及び漁船、遊漁船等の適正な収容を図るための小型船だまりの整備を図る。
- 6) 効率性、安全性、快適性の高い空間を形成するため、陸域300haと水域2,900haからなる港湾空間を以下のように利用する。
- ① ^{ふくしま}福島地区、^{たかしま}高島地区東部、^{さいだいじ}西大寺地区及び^{まさぎ}正義地区は、物流関連ゾーンとする。
 - ② ^{たかしま}高島地区西部は、人流関連ゾーンとする。
 - ③ ^{ふくしま}福島地区、^{こうじま}幸島地区及び^{すいもんわん}水門湾地区南部は、生産ゾーンとする。
 - ④ ^{ますだ}升田地区、^{くぼん}九幡地区及び^{こぐし}小串地区から^{はこたて}鉾立地区にかけては、船だまり関連ゾーンとする。
 - ⑤ ^{すいもんわん}水門湾地区北部、^{おおび}相引地区及び^{はこたて}鉾立地区は、自然環境保全・活用ゾーンとする。

4-2 港湾取扱貨物量の推計

(1) 貨物量推計の基本方針

① 目標年次

貨物量推計の目標年次は、平成17年とする。

② 基準年次

貨物量推計の基準年次は、平成3年とする。

③ 主要経済指標

貨物量の推計にあたっての前提条件となる経済・社会フレームは表4-2-1に示すとおりである。

表4-2-1 主要経済指標

地域	項目	現況	推計値	年平均伸び率
		平成2年	平成17年	(%)
岡山県	人口(千人)	1,926	2,044	0.4
	総生産額(億円)	64,049	116,687	4.1
	県民所得(億円)	49,960	92,872	4.2

注) ○平成17年推計値は、第4次岡山県総合福祉計画を基に推計した。

○総生産額、県民所得は昭和63年度価格である。

(2) 港湾取扱貨物量の推計

平成17年における港湾取扱貨物量は、図4-2-1に示すフローにより推計した。また、推計値及び推計方法を表4-2-2に示す。

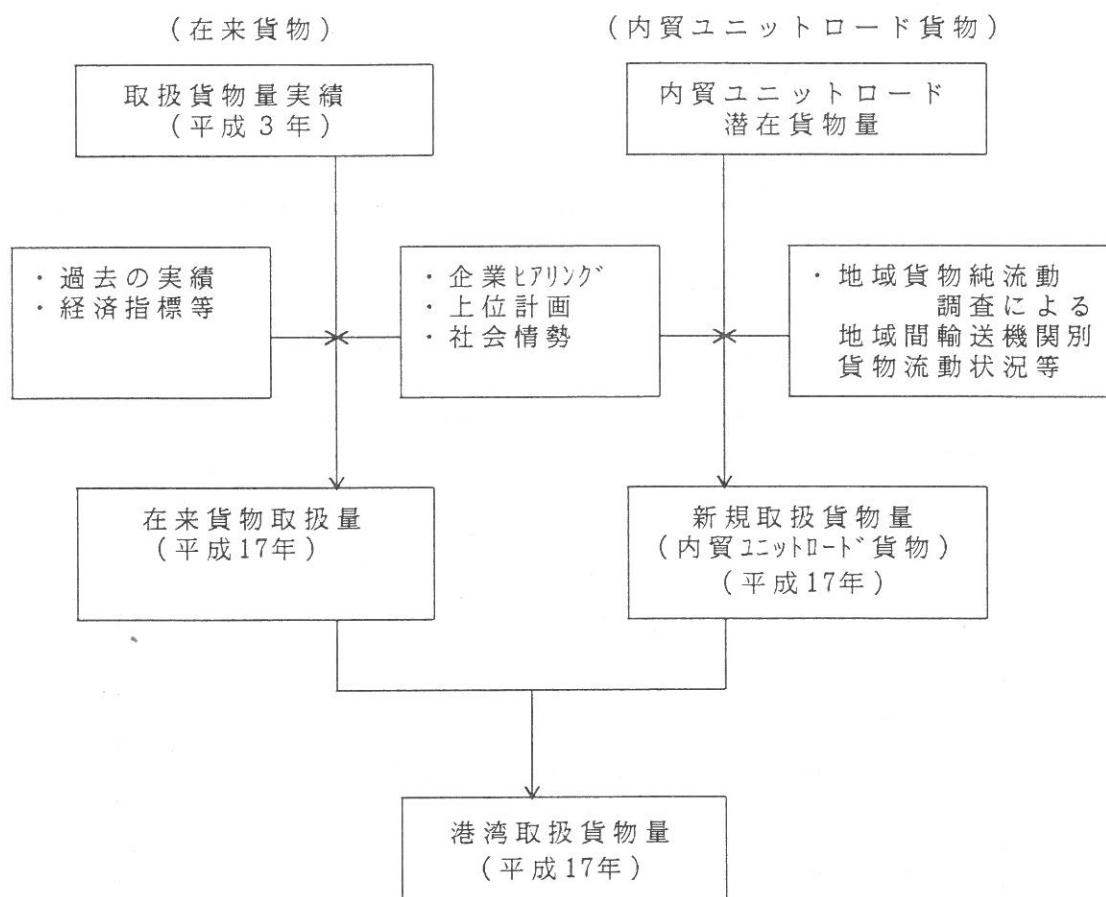


図4-2-1 港湾取扱貨物量の推計フロー図

表 4 - 2 - 2 (1) 品目別港湾取扱貨物量の推計

品 目		内 出 別	公 専 別	取 扱 貨 物 量 (千 ト ン)	算 定 根 拠
農 水 産 品	米 穀 類	出	公	6	企業ヒアリングにより推計
			専		
		入	公	100	企業ヒアリングにより推計
			専		
	そ の 他 農 水 産 品	出	公	4	トラック輸送からの海運シフト潜在貨物量により推計
			専		
		入	公	2	トラック輸送からの海運シフト潜在貨物量により推計
			専		
林 産 品	出	公	22	企業ヒアリングにより推計	
		専			
	入	公	40	企業ヒアリングにより推計	
		専			
鉱 産 品	石 炭	出	公		
			専		
		入	公	8	企業ヒアリングにより推計
			専	26	企業ヒアリングにより推計
	砂 ・ 砂 利	出	公	9	実績程度（過去3ヵ年の平均）
			専	1	実績程度（過去3ヵ年の平均）
		入	公	910	岡山県の公共事業費との相関により推計
			専		
	そ の 他	出	公	3	実績程度（過去3ヵ年の平均）
			専	267	企業ヒアリングにより推計
		入	公	68	企業ヒアリングにより推計
			専	371	企業ヒアリングにより推計
金 属 機 械	金 属 類	出	公	24	実績（過去3ヵ年の平均） トラック輸送からの海運シフト潜在貨物量により推計
			専		
		入	公	341	企業ヒアリング及び トラック輸送からの海運シフト潜在貨物量により推計
			専	30	実績程度（過去3ヵ年の平均）
	そ の 他	出	公	41	企業ヒアリング、 トラック輸送からの海運シフト潜在貨物量及び 在来貨物のコンテナ化潜在貨物量により推計
			専		
		入	公	25	企業ヒアリング及び トラック輸送からの海運シフト潜在貨物量により推計
			専		

表 4 - 2 - 2 (2) 品目別港湾取扱貨物量の推計

品 目		内 出 別	公 専 別	取 扱 貨 物 量 (千 ト ン)	算 定 根 拠
化 学 工 業 品	石 油 類	出	公		
			専	2	実績程度（過去 3 ヶ年の平均）
		入	公		
			専	1,050	企業ヒアリングにより推計
	セメント	出	公		
			専	4	実績程度（過去 3 ヶ年の平均）
		入	公		
			専	218	企業ヒアリングにより推計
	そ の 他	出	公	120	実績（過去 3 ヶ年の平均）、 トラック輸送からの海運シフト潜在貨物量及び 企業ヒアリングによるコンテナ化貨物により推計
			専	207	企業ヒアリングにより推計
		入	公	36	実績（過去 3 ヶ年の平均）及び トラック輸送からの海運シフト潜在貨物量により推計
			専	464	企業ヒアリングにより推計
軽工業品	出	公	107	企業ヒアリング、 トラック輸送からの海運シフト潜在貨物量により推計	
		専			
	入	公	236	企業ヒアリング、 トラック輸送からの海運シフト潜在貨物量及び 在来貨物のコンテナ化潜在貨物量により推計	
		専			
雑工業品	出	公	2	トラック輸送からの海運シフト潜在貨物量により推計	
		専			
	入	公	1	トラック輸送からの海運シフト潜在貨物量により推計	
		専			
特 殊 品	出	公	7	実績程度（過去 3 ヶ年の平均）及び トラック輸送からの海運シフト潜在貨物量により推計	
		専	3	実績程度（過去 3 ヶ年の平均）	
	入	公			
		専			
フェリー	出	公	1,346	トラック輸送の伸びにより推計	
		専			
	入	公	1,348	トラック輸送の伸びにより推計	
		専			
合 計 (フェリーを除く)	出	公	345		
		専	484		
	入	公	1,767		
		専	2,159		
	合 計		4,755		

(3) 港湾取扱貨物量の計画目標

平成17年の港湾取扱貨物量の目標は、表4-2-3に示すとおりである。

表4-2-3 港湾取扱貨物量の目標値

(単位:千トン)

品 類		公 専	平 成 3 年			平 成 17 年						
			合計	内 貨		合計	内 貨					
				出	入		一般貨物			ユニットロード貨物		
							計	出	入	計	出	入
合 計		計	5,791	1,774	4,017	7,449	7,603	1,920	5,143	386	255	131
		公	3,510	1,242	2,268	4,806	4,420	1,436	2,984	386	255	131
		専	2,281	532	1,749	2,643	2,643	484	2,159			
農 水 産 品	米 穀 類	公	59	1	58	106	106	6	100			
		専										
	水 産 品	公										
		専										
	そ の 他	公				6				6	4	2
		専										
林 産 品		公	34	18	16	62	62	22	40			
		専										
鉱 産 品	石 炭	公	7		7	8	8		8			
		専	16		16	26	26		26			
	砂・砂利	公	655		655	919	919	9	910			
		専	3	3		1	1	1				
	原 油	公										
		専										
	そ の 他	公	19	3	16	71	35	3	32	36		36
		専	617	310	306	638	638	267	371			
金工 属業 機品 械	金 属 類	公	206	0	205	365	329	3	326	36	21	15
		専	27		27	30	30		30			
	そ の 他	公	15	15	0	66	38	24	14	28	17	11
		専										
化 学 工 業 品	石 油 類	公										
		専	814		814	1,052	1,052	2	1,050			
	セメント	公										
		専	249	12	238	222	222	4	218			
	そ の 他	公	20	2	18	156	26	4	22	130	116	14
		専	555	207	348	671	671	207	464			
軽 工 業 品		公	120	16	104	343	197	13	184	146	94	52
		専										
雑 工 業 品		公				3				3	2	1
		専										
特 殊 品		公				7	6	6		1	1	
		専				3	3	3				
分 類 不 能		公										
		専										
フ ェ リ ー		公	2,376	1,187	1,189	3,497	2,694	1,346	1,348			
		専										

4-3 入港船舶隻数の推計

平成17年における入港船舶隻数の推計は、図4-3-1に示すフロー図によって行った。推計結果は表4-3-1に示すとおりである。

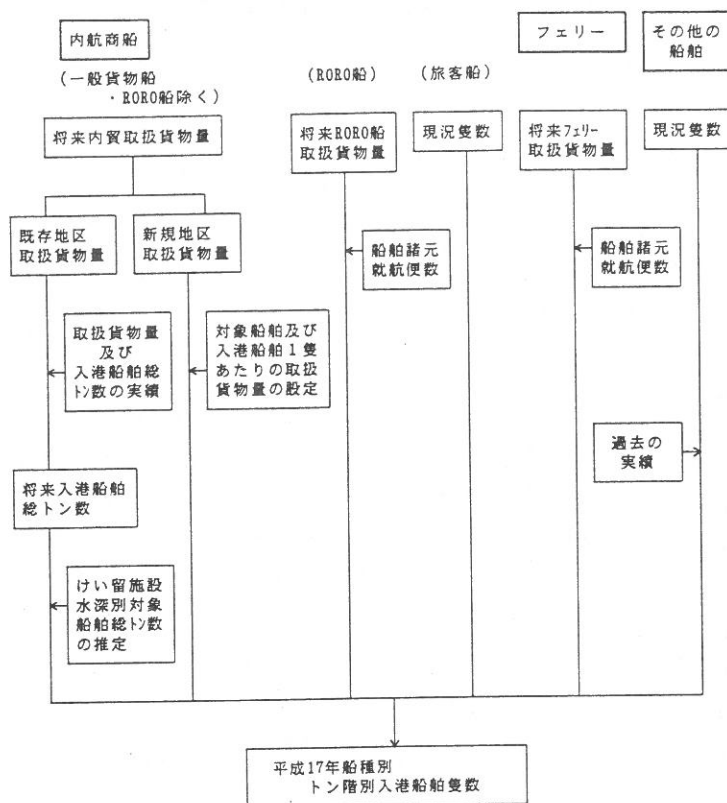


図4-3-1 入港船舶隻数の推計フロー図

表4-3-1 船種別船型別入港船舶隻数

(単位：隻)

年次	船種	合計	6,000G/T以上～ 10,000G/T未満	3,000G/T以上～ 6,000G/T未満	1,000G/T以上～ 3,000G/T未満	500G/T以上～ 1,000G/T未満	100G/T以上～ 500G/T未満	5G/T以上～ 100G/T未満
平成3年	合計	15,175		1	58	5,633	7,019	2,464
	内航商船	9,669		1	58	166	6,980	2,464
	一般貨物船	7,363		1	58	166	6,748	390
	旅客船	2,306					232	2,074
	フェリー	5,467				5,467		
	その他	39					39	
平成17年	合計	16,690	11	261	147	5,983	7,704	2,584
	内航商船	11,157	11	261	147	516	7,670	2,552
	一般貨物船	8,568	11	11	147	516	7,422	461
	RORO船	250		250				
	旅客船	2,339					248	2,091
	フェリー	5,467				5,467		
	その他	66					34	32

4-4 港湾利用者数の推計

平成17年における港湾利用者数は、以下のとおり推計した。

(1) フェリー、旅客船施設利用者

フェリー、旅客船施設利用者は、過去の実績及び今後の旅客の動向等により推計した。その推計結果は表4-4-1に示すとおりである。

表4-4-1 船舶乗降客数 (単位：万人)

区 分	フェリー	旅 客 船	合 計
平成17年推計	40	10	50

(2) 緑地利用者数

緑地利用者数は、類似施設の利用状況等を参考に、表4-4-2のように推計した。

表4-4-2 緑地利用者数
(単位：万人)

区 分	緑 地
平成17年推計	90

5. 港湾区域及び臨港地区の 範囲の検討

5-1 港湾区域

現在指定されている港湾区域の範囲は、図5-1-1に示すとおりで、昭和39年3月31日に大臣認可されたものである。

岡山港港湾区域の範囲

「鉾島東端から90°に引いた線、飯盛岩南端から180°に引いた線および陸岸によって囲まれた海面、並びに吉井川の永安橋、および旭川の京橋、中橋および小橋各下流の河川水面。ただし漁港法により指定された郡漁港、北浦漁港および阿津漁港の区域を除く。」

5-2 臨港地区（昭和63年2月16日県告示第121号）

現在の臨港地区は、表5-2-1に示すとおり指定されている。

表5-2-1 臨港地区

地区名	分 区	面 積 (ha)
福 島 地 区	商港区	18.9
	工業港区	76.8
	保安港区	6.7
高 島 地 区	商港区	35.5
	修景厚生港区	3.9
計	商港区	54.4
	工業港区	76.8
	保安港区	6.7
	修景厚生港区	3.9
	計	141.8

今後、港湾計画の遂行に伴い、必要と考えられる臨港地区（港湾管理者の案）は、図5-2-1に示すとおりである。

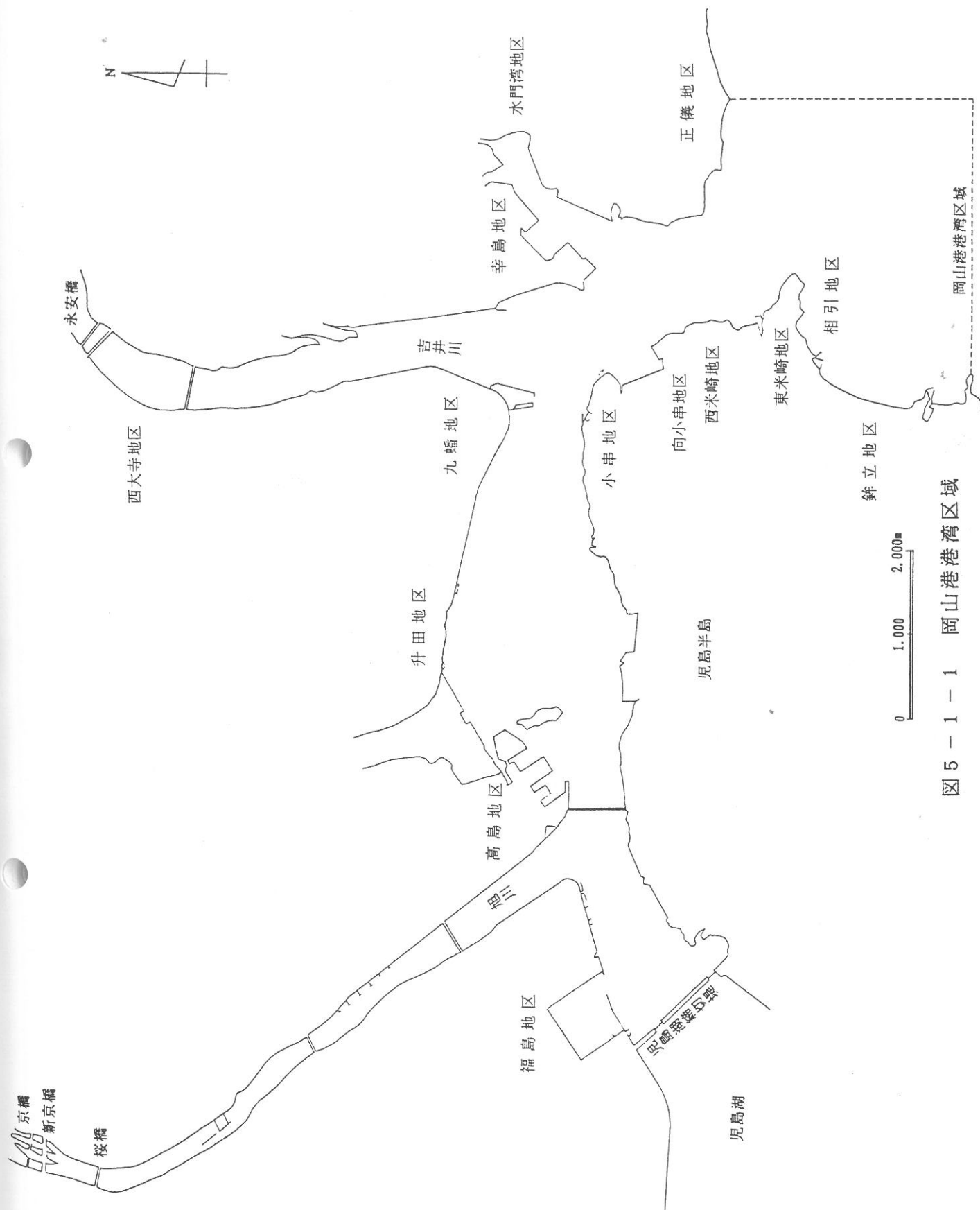
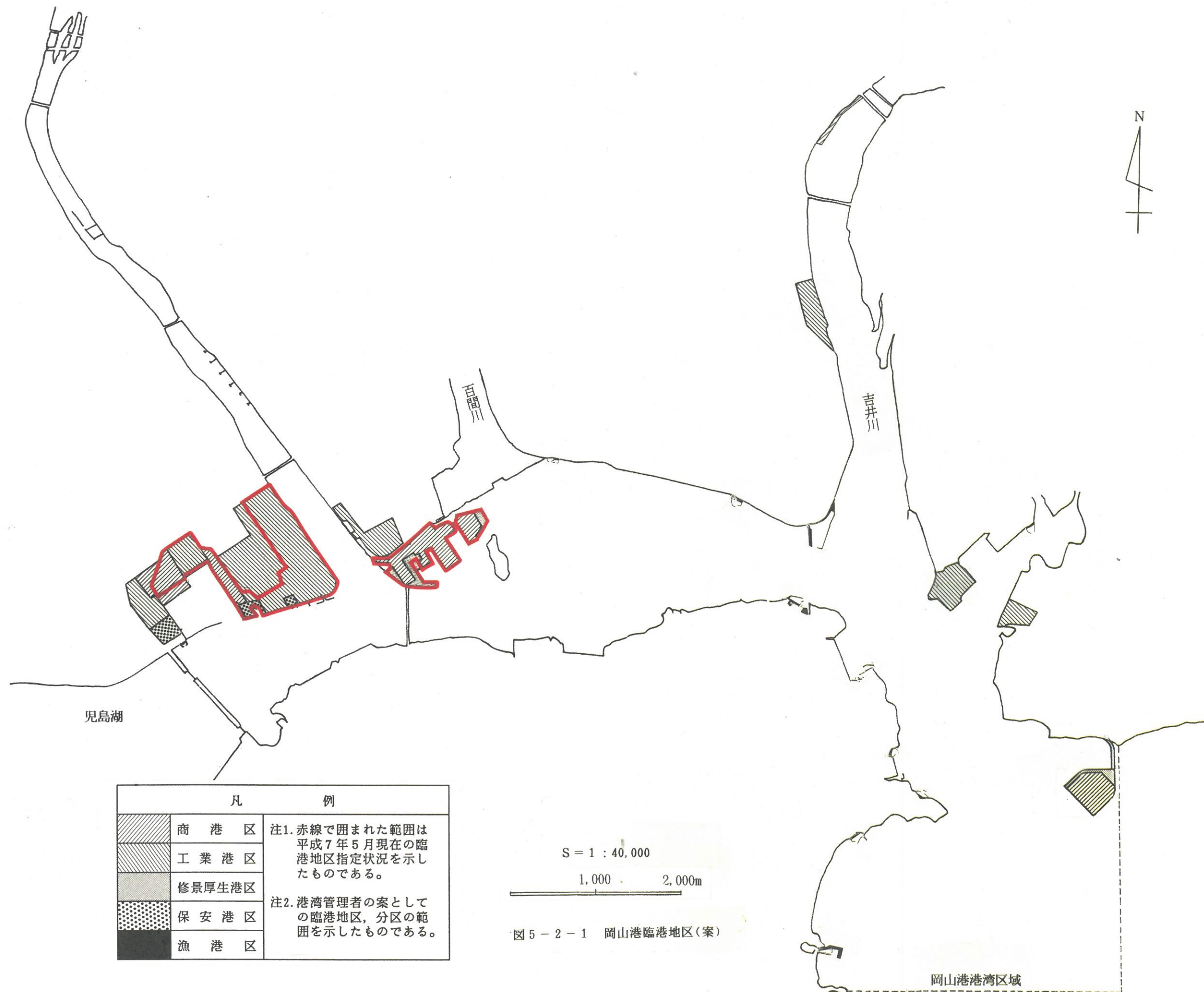


図 5 - 1 - 1 岡山港湾区域



凡 例		
	商 港 区	注1. 赤線で囲まれた範囲は平成7年5月現在の臨港地区指定状況を示したものである。
	工 業 港 区	
	修景厚生港区	注2. 港湾管理者の案としての臨港地区、分区の範囲を示したものである。
	保 安 港 区	
	漁 港 区	

図 5 - 2 - 1 岡山港臨港地区(案)

6. 施設計画に関する資料

6-1 公共ふ頭計画

(1) 概要

平成17年の公共取扱貨物量に対応して、表6-1-1のとおり公共ふ頭を計画する。

表6-1-1 公共ふ頭総括表

種別	地区別	公共ふ頭			取扱貨物量 (千トン)	備考
		水深 (m)	ハース数	延長 (m)		
既設 (工事中)	福島	-4.0	—	260	362	(-4.0)100m を(-5.5)に 改良
		-5.5	2	190		
		-6.0	1	105		
	高島	-7.5	2	260	227	
		-5.5	5	470	319	
		-1.8	—	40	4	
	西大寺	-2	—	712	178	
	計		10	2,037	1,090	
計画	福島	-5.5	3	300	214	
	正儀	-10.0	2	340	386	
		-7.5	1	130	422	
	計		6	770	1,022	
合計			16	2,807	2,112	

(2) けい留施設利用計画

平成17年における地区別の公共ふ頭利用計画を表6-1-2に、また、けい留施設別利用計画を図6-1-1に示す。

表6-1-2 公共ふ頭利用計画(平成17年)

(単位:千トン)

品 目		合 計		福 島 地 区						高 島 地 区								西大寺地区		正 儀 地 区					
				福島 -4,-5.5, -6m岸壁 (-4)260m (-5.5)190m (-6)105m		福島北 -5.5m岸壁 (-5.5)300m		地区計		江並1号 係船岸 (-1.8)40m		-5.5岸壁 (-7.5)470m		-7.5岸壁 (-7.5)260m		地区計		西大寺-2m 係船岸 (-2)712m		正儀 -7.5m岸壁 (-7.5)130m		正儀 -10.0m岸壁 (-10)340m		地区計	
				出	入	出	入	出	入	出	入	出	入	出	入	出	入	出	入	出	入	出	入	出	入
農水産品	米 穀 類	6	100					0	0			6	100			6	100							0	0
	水 産 品	0	0					0	0							0	0							0	0
	その他農水産品	4	2					0	0							0	0					4	2	4	2
林 産 品		22	40					0	0		4	22	36			22	40							0	0
鉱 産 品	石 炭	0	8		8			0	8							0	0							0	0
	砂 ・ 砂 利	9	910		319			0	319							0	0		178	9	413			9	413
	原 油	0	0					0	0							0	0							0	0
	その他鉱産品	3	68	3	32			3	32							0	0						36	0	36
金属機械	金 属 類	24	341					0	0			3	116		210	3	326					21	15	21	15
	そ の 他 金属機械工業品	41	25					0	0			14	7	10	7	24	14					17	11	17	11
化学工業品	石 油 類	0	0					0	0							0	0							0	0
	セ メ ン ト	0	0					0	0							0	0							0	0
	その他化学工業品	120	36				17	0	17			4	5			4	5					116	14	116	14
軽 工 業 品		107	236			13	184	13	184							0	0					94	52	94	52
雑 工 業 品		2	1					0	0							0	0					2	1	2	1
特 殊 品		7	0					0	0			6				6	0					1		1	0
分 類 不 能		0	0					0	0							0	0							0	0
合 計		345	1767	3	359	13	201	16	560	0	4	55	264	10	217	65	485	0	178	9	413	255	131	264	544

は新規計画

N

(単位:千トン)

倉敷レーヨンけい船岸	
水深(m)	延長(m)
-2.2	200
品目	内 入
石油類	74
その他化学工業品	2
合 計	76

(単位:千トン)

福島(-4) (-5.5) (-6) 岸壁	
水深(m)	延長(m)
-4.5.5.-6	260.190.105
品目	内 入
石油類	8
砂利	319
その他化学工業品	35
合 計	362

(単位:千トン)

三井製糖棧橋	
水深(m)	延長(m)
-3.5	30.0
品目	内 入
石油類	14
合 計	14

(単位:千トン)

福島北(-5.5)岸壁	
水深(m)	延長(m)
-5.5	300
品目	内 入
軽工業品	197
その他化学工業品	17
合 計	214

(単位:千トン)

岡山港けい船岸	
水深(m)	延長(m)
-1.8	83
品目	内 入
石油類	85
合 計	85

(単位:千トン)

同和製薬棧橋	
水深(m)	延長(m)
-6.5	75
品目	内 入
その他化学工業品	385
その他化学工業品	143
合 計	528

(単位:千トン)

岡山ガスけい船岸	
水深(m)	延長(m)
-	-
品目	内 入
石油類	43
合 計	43

(単位:千トン)

四日市油揚げ船岸	
水深(m)	延長(m)
-1.8	39.0
品目	内 入
石油類	55
合 計	55

(単位:千トン)

ゼネラル石油けい船岸	
水深(m)	延長(m)
-6.0	-
品目	内 入
石油類	313
合 計	313

(単位:千トン)

丸石石油けい船岸	
水深(m)	延長(m)
-4	23
品目	内 入
石油類	32
合 計	32

(単位:千トン)

日本石油けい船岸	
水深(m)	延長(m)
-5.5	90
品目	内 入
石油類	311
合 計	311

凡 例

公共	専用
----	----

0 500m

図 6-1-1 (1) けい留施設別利用計画図 (平成17年)

(単位:キトン)

中国製油機			
水深(m)	延長(m)	内 買	
品 目	合計	出	入
石油	14	-	14
合 計	14	-	14

(単位:キトン)

江 越 1 号 け い 船 岸			
水深(m)	延長(m)	内 買	
品 目	合計	出	入
林 産 品	4	-	4
合 計	4	-	4

(単位:キトン)

日本セメントドムフイン			
水深(m)	延長(m)	内 買	
品 目	合計	出	入
セメント	150	4	146
合 計	150	4	146

(単位:キトン)

高島フェリー機			
水深(m)	延長(m)	内 買	
品 目	合計	出	入
フェリー	2,694	1,346	1,348
合 計	2,694	1,346	1,348

(単位:キトン)

長尾ソーダ機			
水深(m)	延長(m)	内 買	
品 目	合計	出	入
その他化学工業品	131	3	131
特 殊 品	3	3	-
合 計	134	3	131

(単位:キトン)

3 次 高 島 (-5.5) 岸壁			
水深(m)	延長(m)	内 買	
品 目	合計	出	入
米 穀 品	106	6	100
林 産 品	58	22	36
金 属 品	119	3	116
その他金属機械	21	14	7
その他化学工業品	9	4	5
特 殊 品	6	6	-
合 計	319	55	264

(単位:キトン)

新日鉄化学機			
水深(m)	延長(m)	内 買	
品 目	合計	出	入
セメント	72	-	72
合 計	72	-	72

(単位:キトン)

高島 (-7.5) 岸壁			
水深(m)	延長(m)	内 買	
品 目	合計	出	入
金 属 品	210	-	210
その他金属機械	17	10	7
合 計	227	10	217

凡 例

公共	専用
----	----

図 6-1-1 (2) けい留施設別利用計画図 (平成17年)

500 m

水門湾地区

(単位:千トン)

帝國化工 5 号 残 留			
水深 (m)	-1.5	延長 (m)	35.0
品 目	内 容		
	合 計	出	入
その他鉱産品	69	69	-
石油	38	-	38
合 計	107	69	38

(単位:千トン)

帝國化工 - 4 m 岸 壁			
水深 (m)	-4.0	延長 (m)	224.0(54-4)
品 目	内 容		
	合 計	出	入
石 炭	26	-	26
砂 ・ 砂 利	1	1	-
その他鉱産品	184	55	129
その他化学工業品	137	27	110
合 計	348	83	265

(単位:千トン)

木津川製錬残 留			
水深 (m)	-4.0	延長 (m)	13.0
品 目	内 容		
	合 計	出	入
金 銅 類	30	-	30
合 計	30	-	30

凡 例	公 共	用

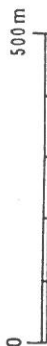


図 6-1-1-1 (3) けい留施設別利用計画図 (平成17年)

西大寺地区

(単位：千トン)

西大寺(ー2)けい船岸				
水深(m)	-2	延長(m)	内 買	
品 目		合 計	出	入
砂・砂利		178	-	178
合 計		178	-	178



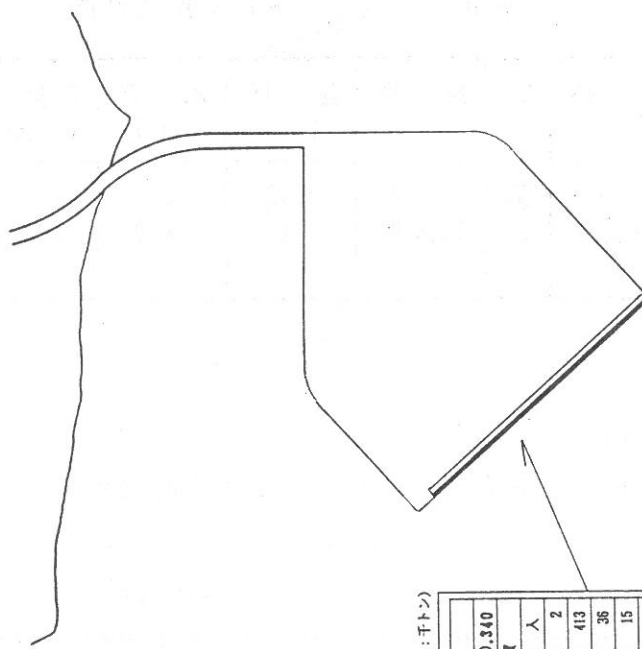
凡 例	
	公 共
	専 用

0 500 m

(単位：千トン)

エクスランけい船岸				
水深(m)	-3.5	延長(m)	内 買	
品 目		合 計	出	入
石 油 類		74	-	74
その他化学工業品		73	3	70
合 計		147	3	144

図 6-1-1 (4) けい留施設別利用計画図 (平成17年)



(単位：千トン)

正儀(-7.5) (-10)貯蔵		延長(m)		130,340	
水深(m)	-7.5.-10	品目	合計	出入	
			内	入	
			出		
		その他農水産品	6	4	2
		砂・砂利	422	9	413
		その他鉱産品	36	-	36
		金属類	36	21	15
		その他金属機械類	28	17	11
		その他化学工業品	130	116	14
		農工業品	146	94	52
		雑工業品	3	2	1
		特殊品	1	1	
		合計	808	264	544

凡例	公共	専用



図6-1-1(5) けい留施設別利用計画図(平成17年)

6-2 フェリー及び旅客船ふ頭計画

(1) 概 要

高島地区では、現在、小豆島を結ぶフェリーと旅客船が就航しており、また、不定期の旅客船の基地となっている。

しかしながら、不定期の旅客船ふ頭がなく、フェリーの待機バースも不足している。そこで、既設の公共ふ頭を利用して、フェリー及び旅客船ふ頭を計画する。

(2) けい留施設計画

① フェリーふ頭

けい留施設計画を表6-2-1のとおり計画する。

表6-2-1 けい留施設計画

対象船型	航 路	No	施 設	延 長 (m)	水 深 (m)	取扱貨物量 (平成17年)	摘 要
700G/T	小豆島	① ②	栈 橋 物揚場	1 基 155	-4.0 -4.0	2,694千トン	移 設 既 設 (休憩用)

② 旅客船ふ頭

けい留施設計画を表6-2-2のとおり計画する。

表6-2-2 けい留施設計画

対象船型	No	航 路	施 設	延 長 (m)	水 深 (m)	摘 要
500G/T	③	小豆島	栈 橋	1 基	-3.5	新 規
500G/T	④	瀬戸内海クルーズ	物揚場	145	-4.0	既 設 (休憩用)

(3) 土地利用計画

けい留施設計画に対応して、ふ頭用地2.2haを計画する。

表 6 - 2 - 3 土地利用計画

施 設 名	面積 (ha)	摘 要
エ プ ロ ン	0.6	
ターミナル用地	0.4	
駐 車 場	0.7	
そ の 他	0.5	通路等
計	2.2	

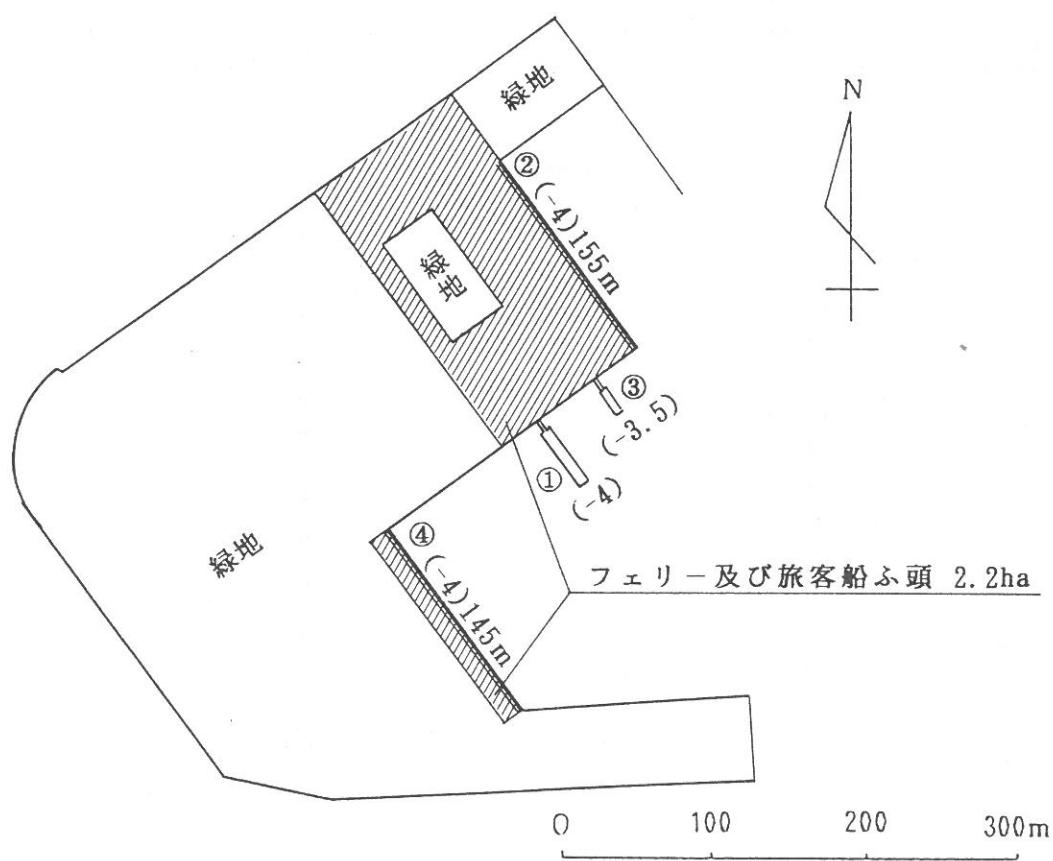


図 6 - 2 - 1 高島地区土地利用計画図

6-3 危険物取扱施設計画

(1) 概要

福島地区では、企業の運営形態の変化や臨港交通施設計画に伴い、既存の石油類を取り扱う栈橋を移設する。また、工場の建設に伴い新規に石油類を取り扱う栈橋を計画する。

(2) けい留施設計画

けい留施設を、表6-3-1及び図6-3-1のとおり計画する。

表6-3-1 危険物取扱施設計画

番号	対象船型	施設	内容	水深	備考
①	2,000D/W	栈橋	1基	-6.0m	改良（セネラル石油）
②	1,000D/W	栈橋	1基	-5.5m	新規（岡山ガス）
③	1,000D/W	栈橋	1基	-5.5m	改良（日本石油）
④	400D/W	栈橋	1基	-3.5m	移設（三井製糖）

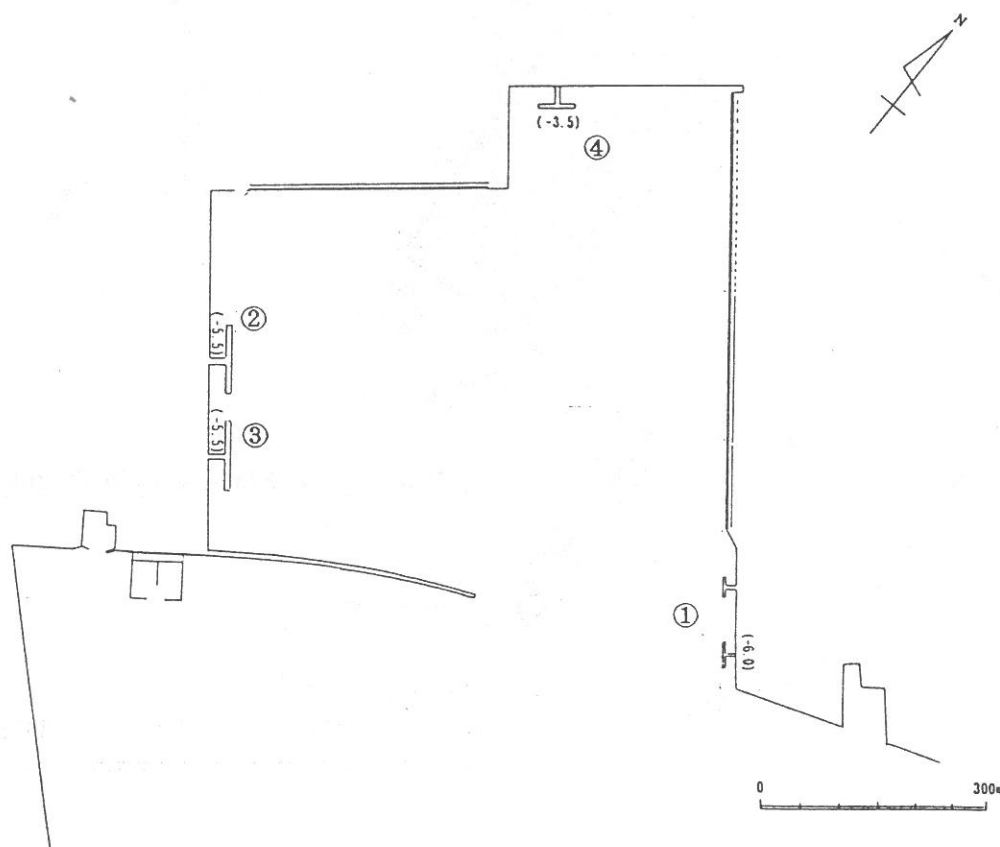


図6-3-1 危険物取扱施設計画位置図

6-4 水域施設計画

(1) 航路計画

けい留施設の計画に対応して、航路を表6-4-1のとおり計画する。

表6-4-1 航路計画

施設名	対象船型	水深(m)	幅員(m)
福島航路	3,000D/W	-5.5~-6.0	120~220
岡山航路	5,000D/W	-7.5	170
正儀航路	10,000D/W	-7.5~-10	170~210

(2) 泊地計画

けい留施設の計画に対応して、泊地を表6-4-2及び図6-4-1~2のとおり計画する。また、けい留施設における操船例図を図6-4-3~5に示す。

表6-4-2 泊地計画

地区名	番号	対象船型	水深(m)	面積(ha)	摘要
福島	①	2,000D/W	-5.5	7.0	既定計画
	②	3,000G/T	-6.0	0.4	既定計画
	③	2,000D/W	-5.5	11.8	新規
	④	2,000D/W	-5.5	3.1	新規
	⑤	3,000D/W	-6.0	2.5	新規
	⑥	3,000D/W	-6.0	0.8	新規
	計			25.6	
正儀	⑦	10,000D/W級	-10.0	27.3	新規
	⑧	5,000D/W	-7.5	6.0	新規
	計			33.3	
合計				58.9	

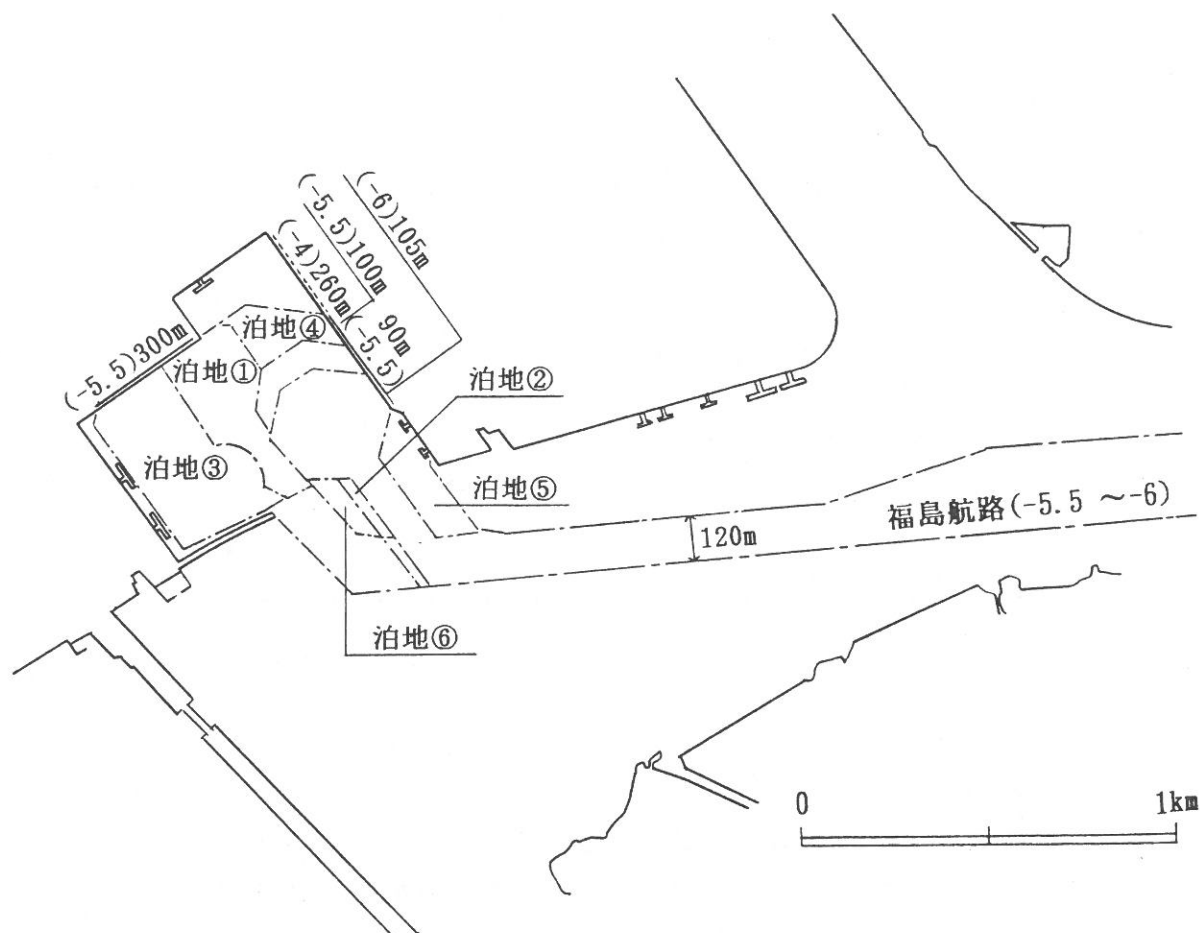


図 6 - 4 - 1 福島地区水域施設計画図

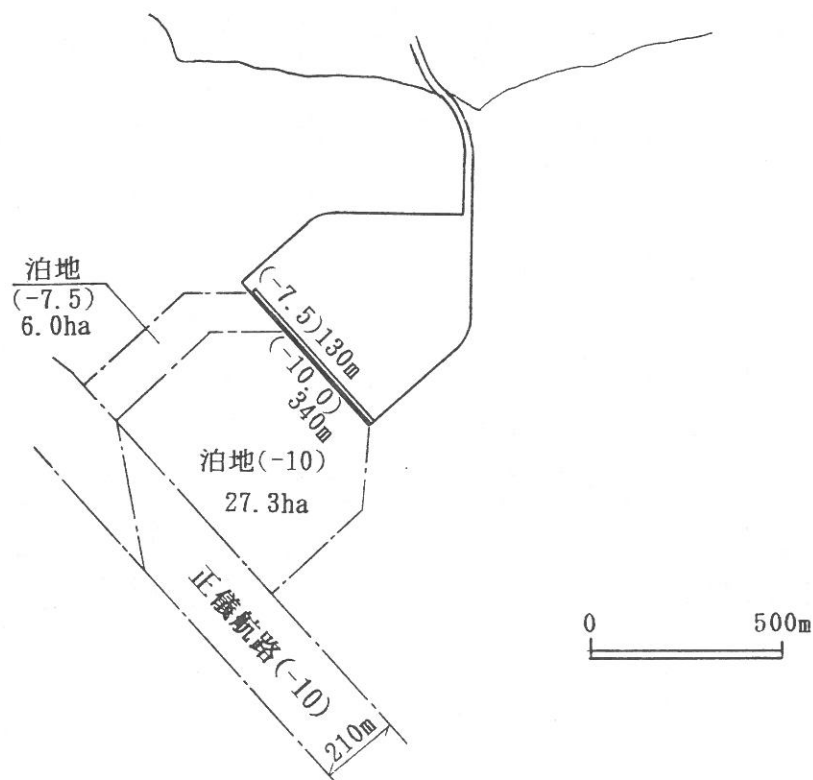
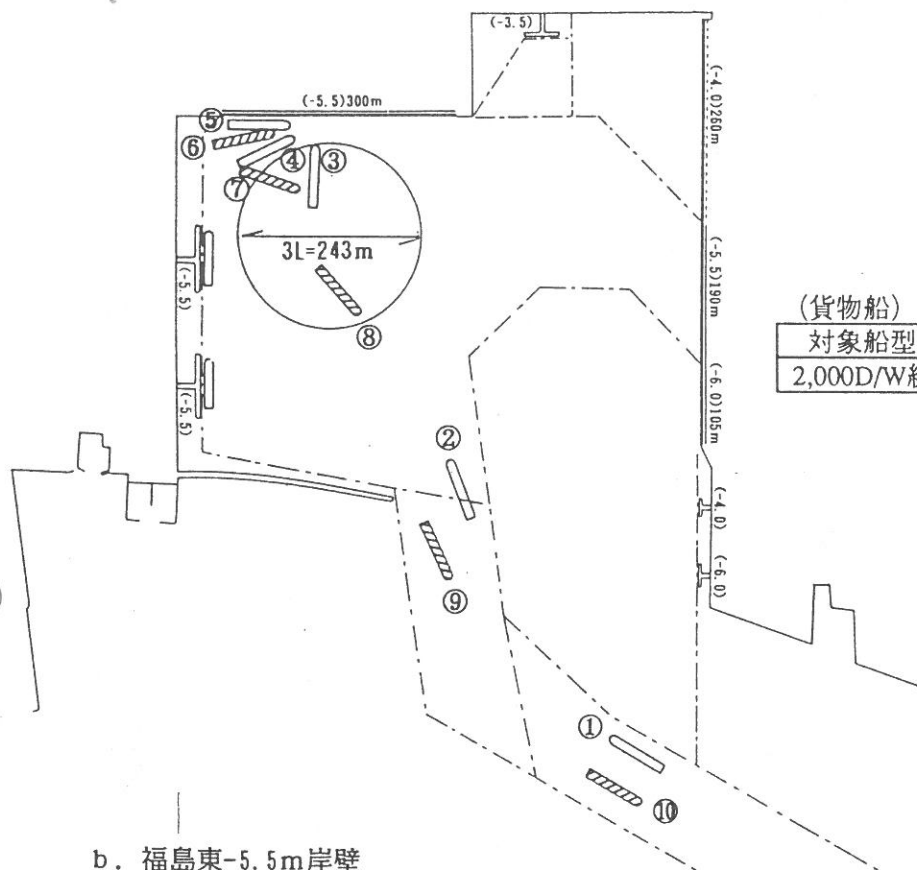


図 6 - 4 - 2 正儀地区水域施設計画図

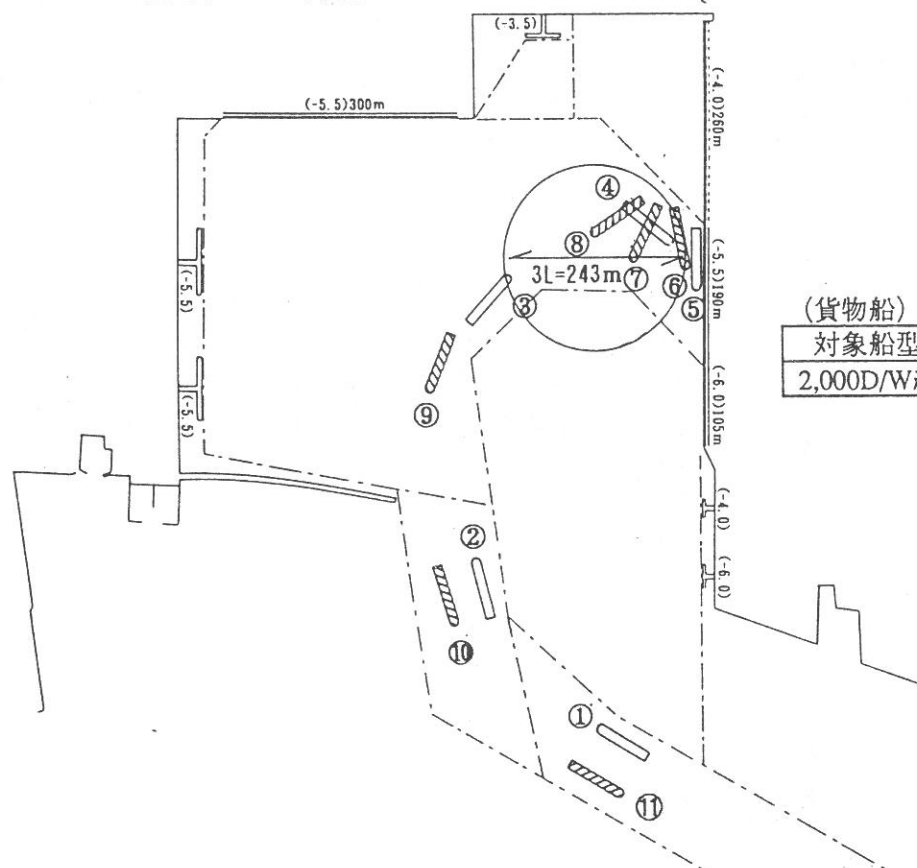
a. 福島北-5.5m岸壁



(貨物船)

対象船型	船長	船幅	吃水
2,000D/W級	81m	12.7m	4.9m

b. 福島東-5.5m岸壁



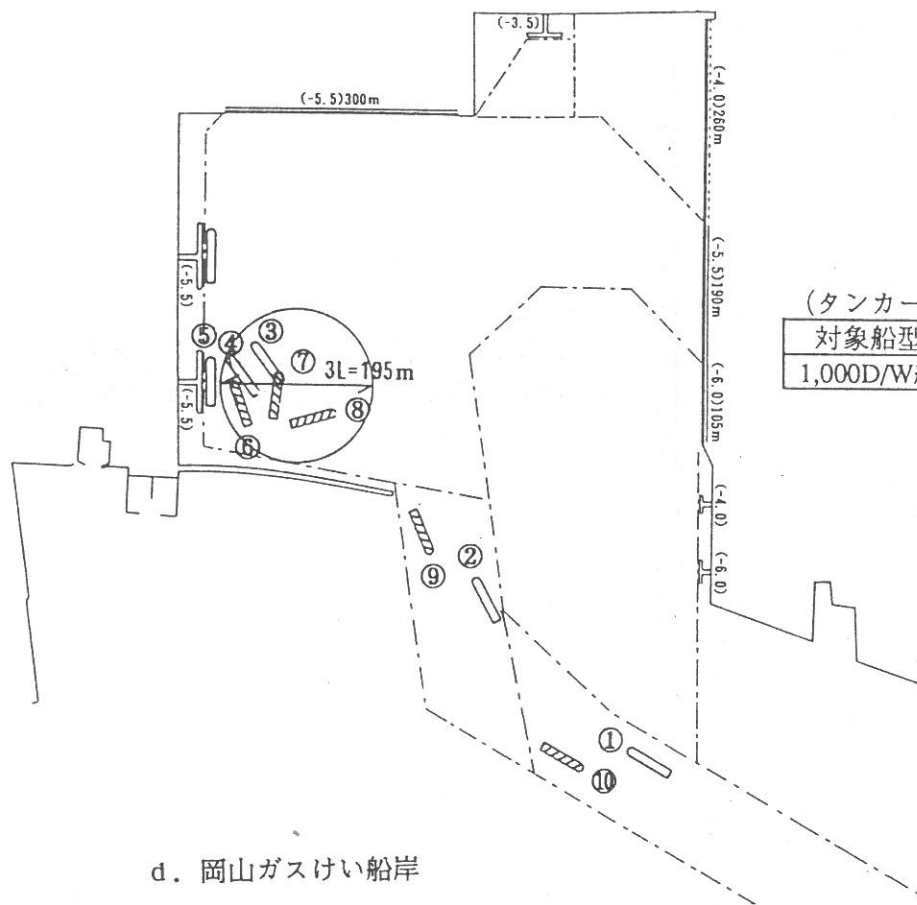
(貨物船)

対象船型	船長	船幅	吃水
2,000D/W級	81m	12.7m	4.9m

S = 1 : 10,000

図 6 - 4 - 3 (1) 福島地区操船例図

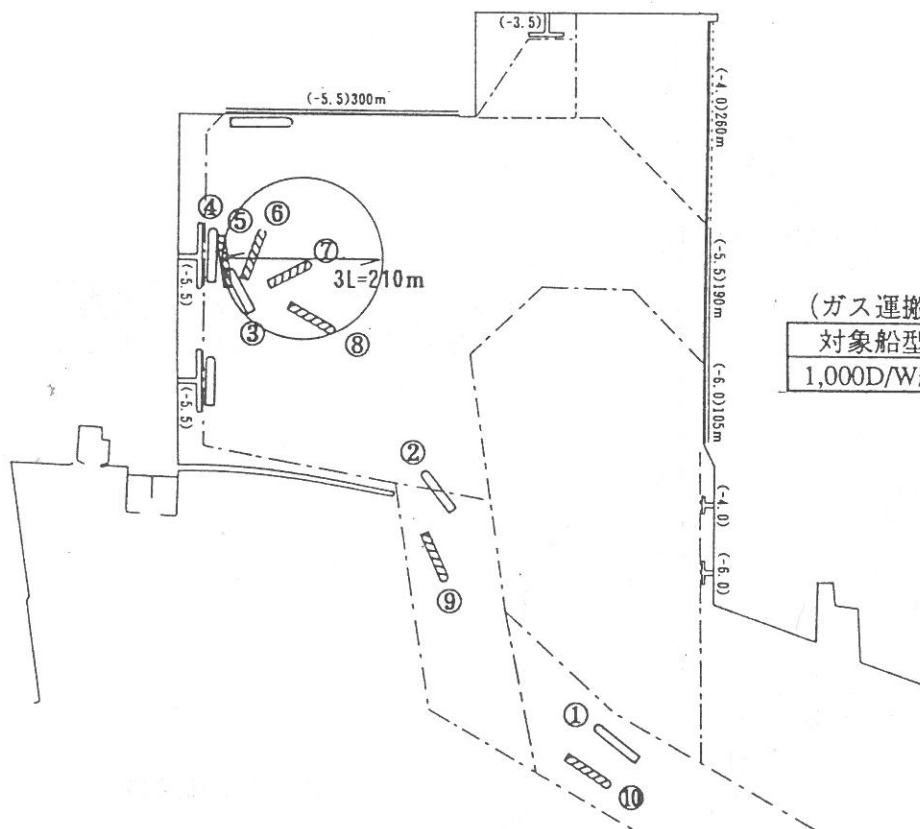
c. 日本石油けい船岸



(タンカー)

対象船型	船長	船幅	吃水
1,000D/W級	65m	10.0m	5.0m

d. 岡山ガスけい船岸



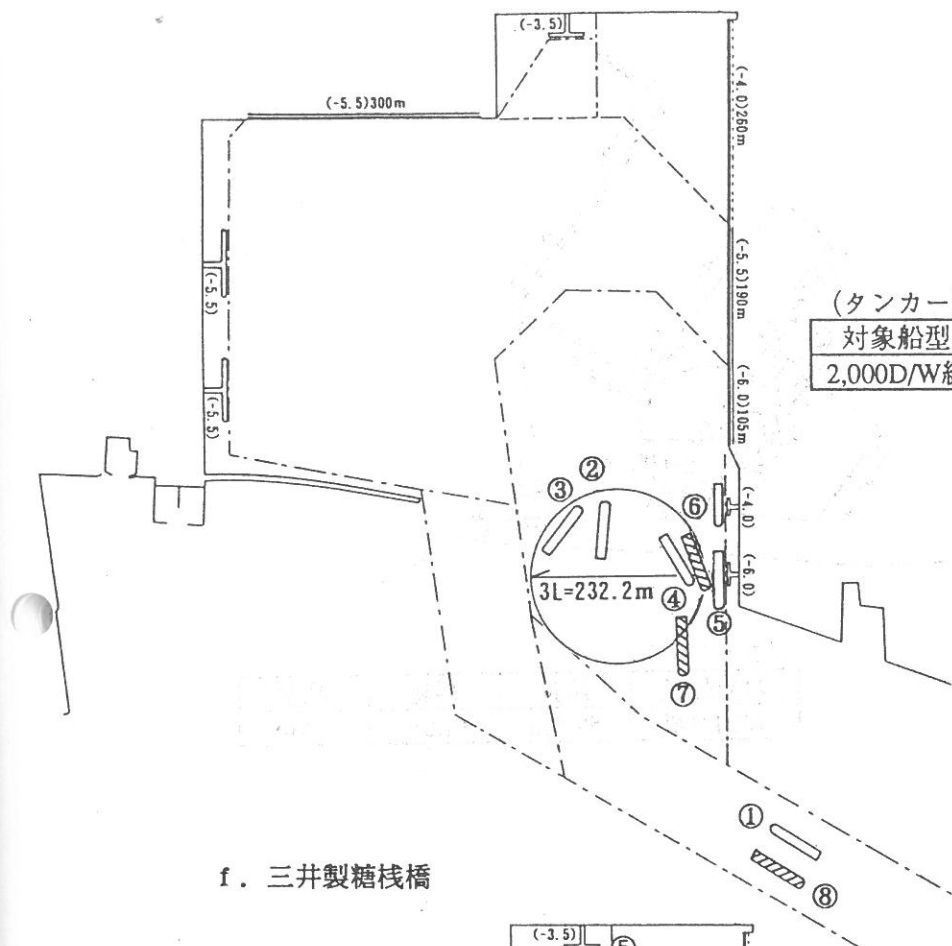
(ガス運搬船)

対象船型	船長	船幅	吃水
1,000D/W級	70m	11.0m	4.3m

図 6 - 4 - 3 (2) 福島地区操船例図

S = 1 : 10,000

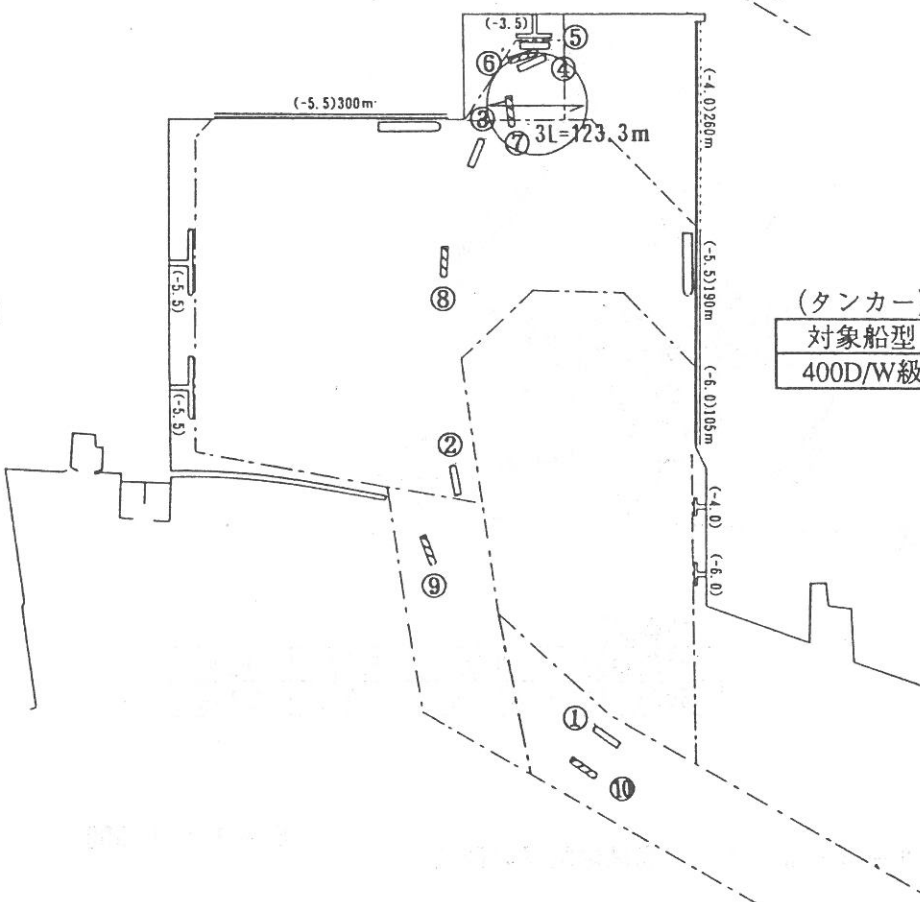
e. ゼネラル石油けい船岸



(タンカー)

対象船型	船長	船幅	吃水
2,000D/W級	77.4m	13.0m	5.3m

f. 三井製糖栈橋



(タンカー)

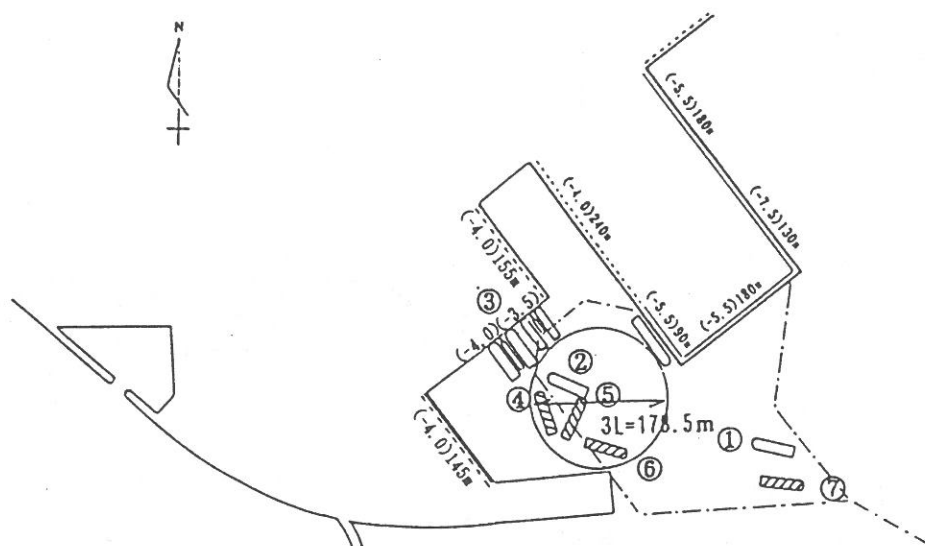
対象船型	船長	船幅	吃水
400D/W級	41.1m	7.8m	3.1m

S = 1 : 10,000

S = 1 : 10,000

図 6 - 4 - 3 (3) 福島地区操船例図

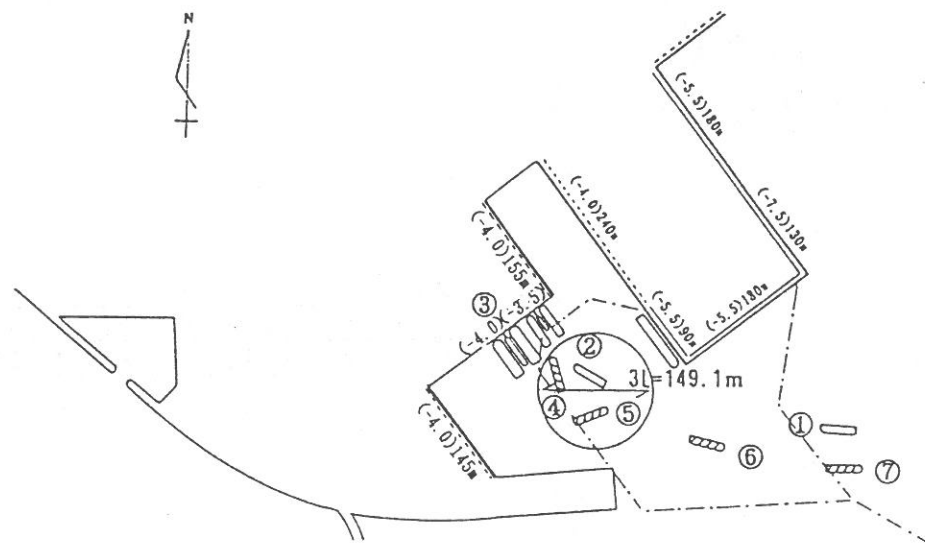
a. フェリー棧橋



(フェリー)

対象船型	船長	船幅	吃水
700G/T級	59.5m	14.0m	3.5m

b. 旅客船棧橋



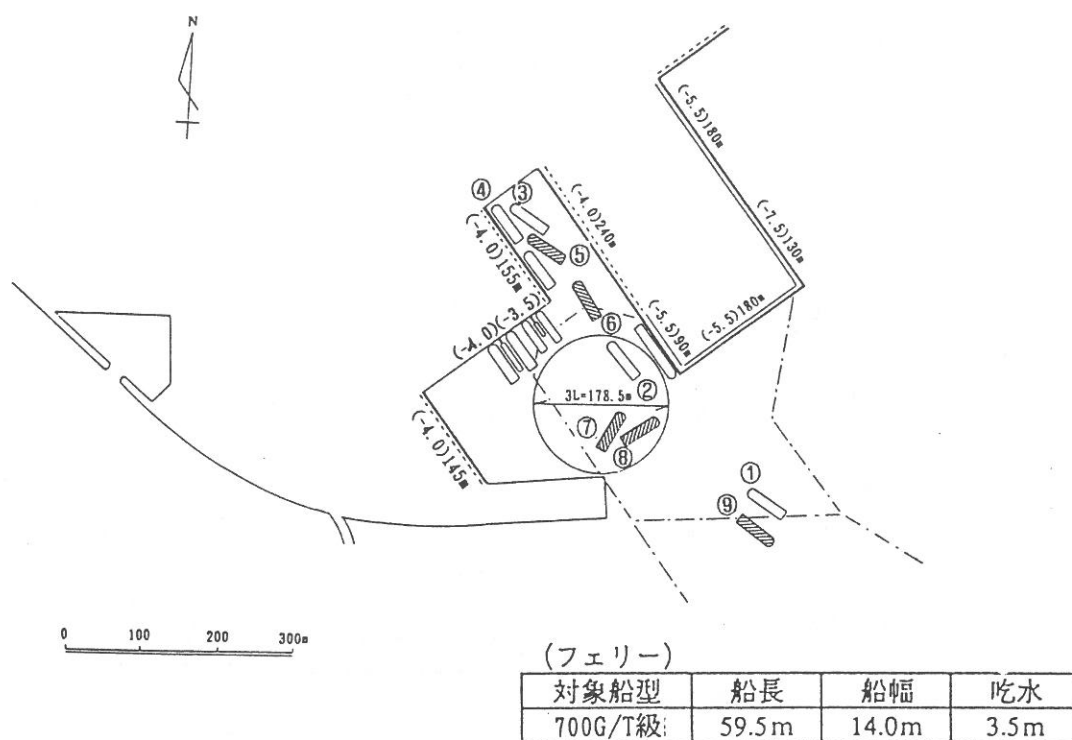
(旅客船)

対象船型	船長	船幅	吃水
500G/T級	49.7m	10.2m	2.39m

図6-4-5(1) 高島地区操船例図

S = 1 : 10,000

c. フェリー休憩用岸壁



d. 旅客船休憩用岸壁

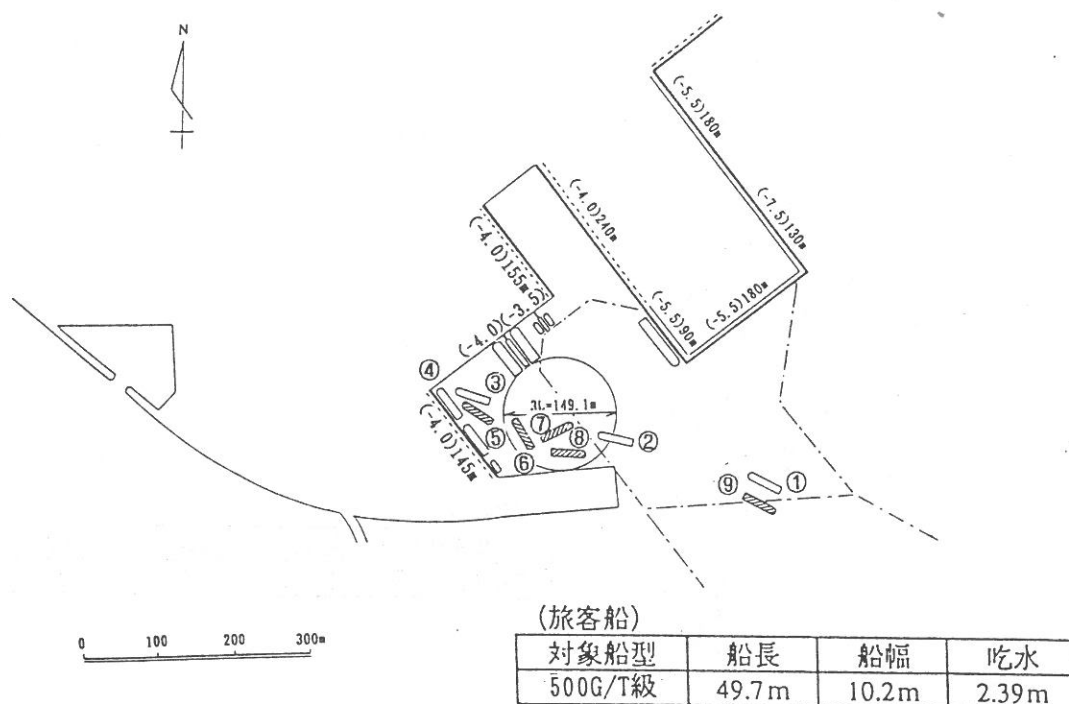
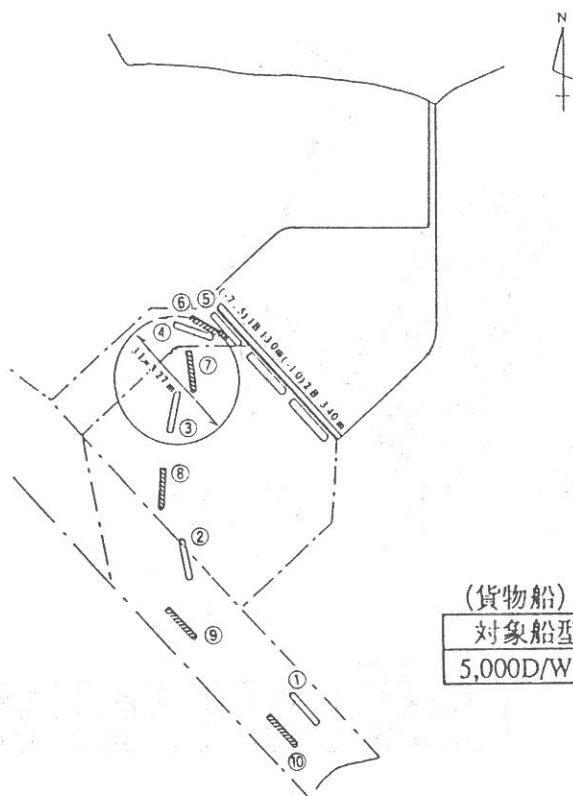


図 6 - 4 - 5 (2) 高島地区操船例図

S = 1 : 10,000

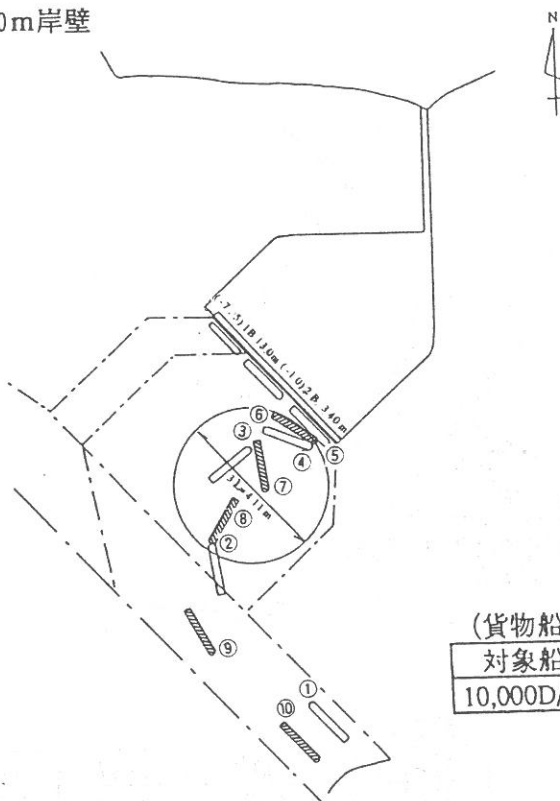
a. -7.5m岸壁



(貨物船)

対象船型	船長	船幅	吃水
5,000D/W級	109m	16.4m	6.8m

b. -10m岸壁



(貨物船)

対象船型	船長	船幅	吃水
10,000D/W級	137m	19.9m	8.5m

S = 1 : 20,000

図 6 - 4 - 6 正儀地区操船例図

6-5 小型船だまり計画

(1) 概要

本港においては、高島の第四突堤と桑野海岸の間の水域に小型船が多数けい留されており、船舶の航行等に支障をきたしていることや、九蟠地区、鉾立地区では、漁船のけい留施設、ふ頭用地不足等の問題が生じている。このため、小型船の適性な収容を行い、港湾活動の円滑化を図るため、高島地区、九蟠地区、鉾立地区に、表6-5-1に示すとおり小型船だまりを計画する。

表 6-5-1 小型船だまり計画

番号	地区名	名称	施設種類	内容	対象船	備考
①	高 島	高島 小型船だまり	係留施設	物揚場(-1)280m	遊漁船 70隻	新規
②	九 蟠	九蟠 小型船だまり	係留施設	物揚場 (-1.5)60m	漁船 18隻	新規
			外郭施設	防波堤 140m		
			水域施設	航路(-1.5) 幅員20m		
				泊地 0.4ha		
			ふ頭用地	0.2ha		
③	鉾 立	鉾立 小型船だまり	係留施設	物揚場 (-1.5)100m	漁船 26隻	新規
			水域施設	航路(-1.5) 幅員20m		
				泊地 0.6ha		
			ふ頭用地	0.9ha		

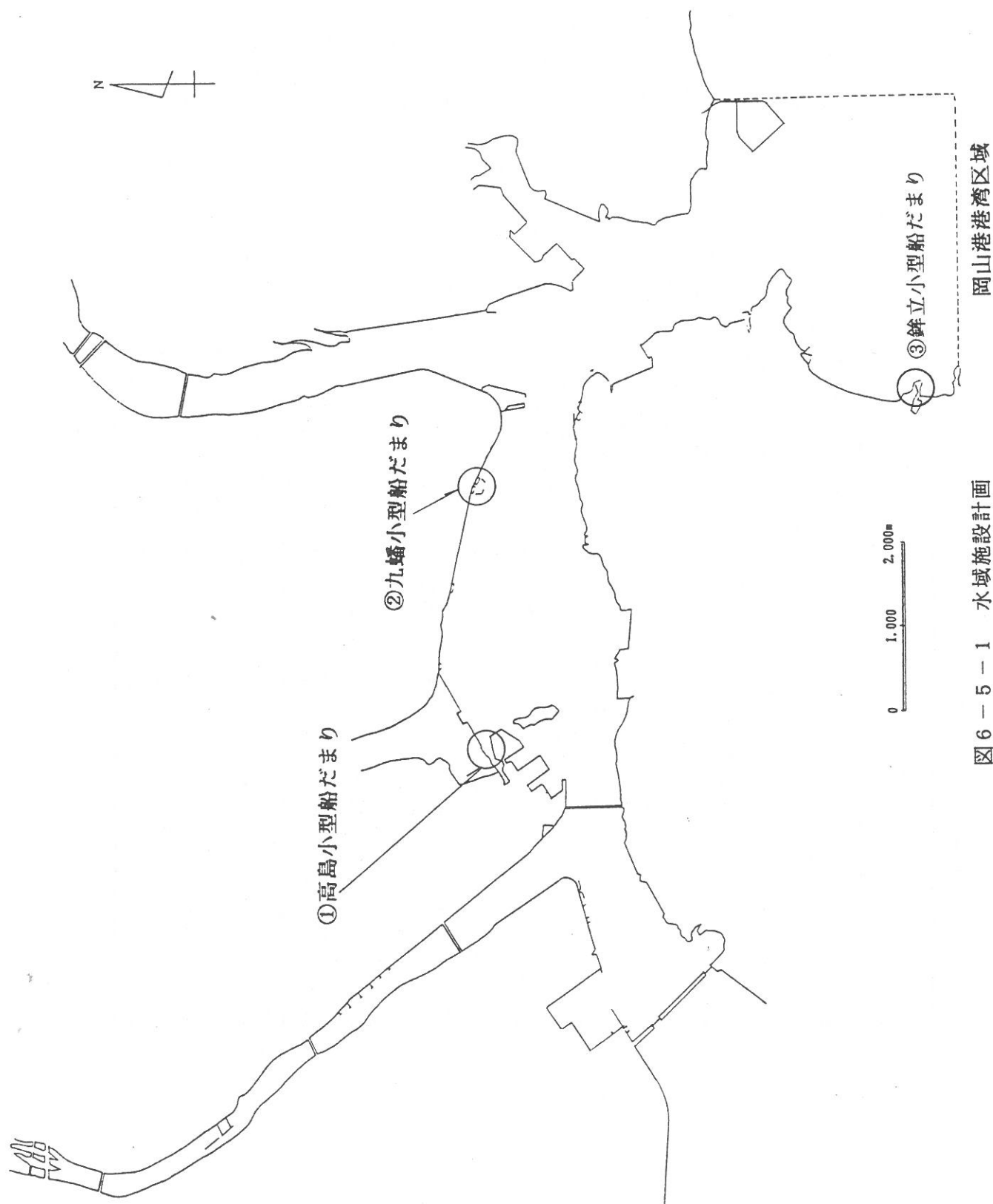


図 6 - 5 - 1 水域施設計画

岡山港港湾区域

(2) 施設計画

① 高島小型船だまり

表 6 - 5 - 2 高島小型船だまり施設計画

施設名	数量	摘要
物揚場(-1)	280m	プレジャーボート 70隻

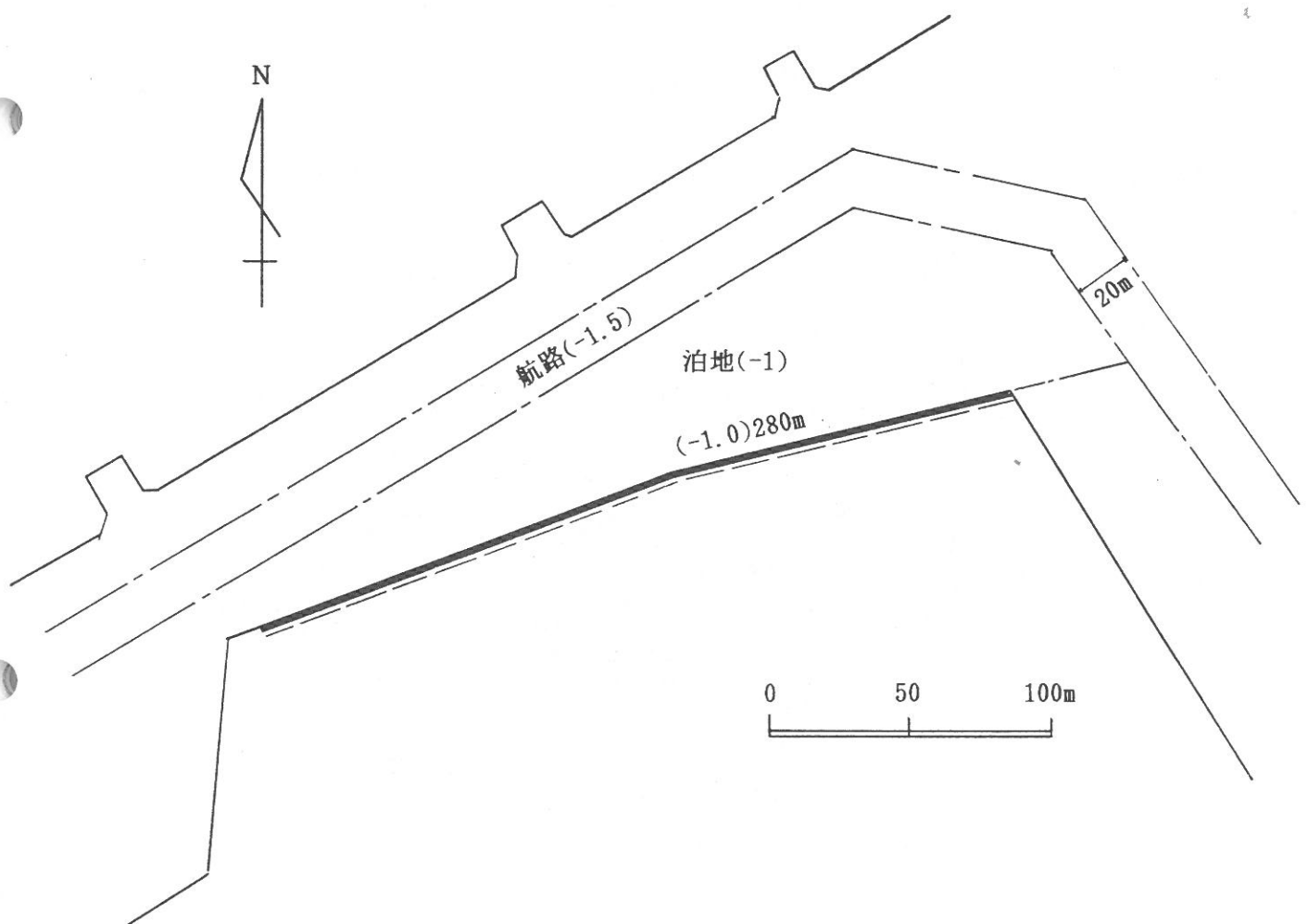


図 6 - 5 - 2 高島小型船だまり計画図

② 九幡小型船だまり

表 6 - 5 - 3 九幡小型船だまり施設計画

施設名	数量	摘要
物揚揚 (-1.5)	60m	漁船 3G/T未満 18隻 (休憩用)
防波堤	140m	
航路 (-1.5)	20m	幅員
泊地 (-1.5)	0.4ha	
ふ頭用地	0.2ha	エプロン, 駐車場, 緑地, 通路等

なお、これに伴い既設防波堤30mを撤去する。

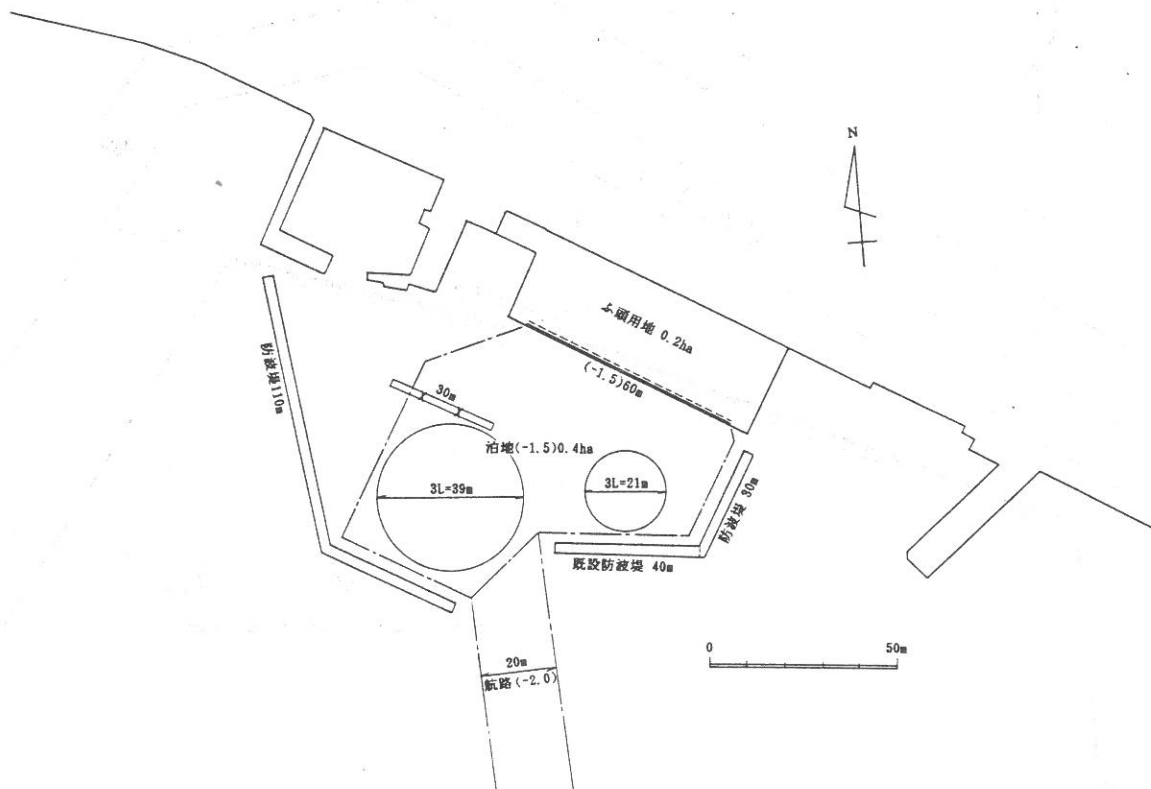


図 6 - 5 - 3 九幡小型船だまり計画図

③ 鉾立小型船だまり

表 6 - 5 - 4 鉾立小型船だまり施設計画

施設名	数量	摘要
物揚揚 (-1.5)	100m	漁船 3G/T未満 26隻 (休憩用)
航路 (-1.5)	20m	幅員
泊地 (-1.5)	0.6ha	
ふ頭用地	0.9ha	エプロン, 荷捌地, 駐車場, 緑地, 通路等

なお、これに伴い既設防波堤100mを撤去する。

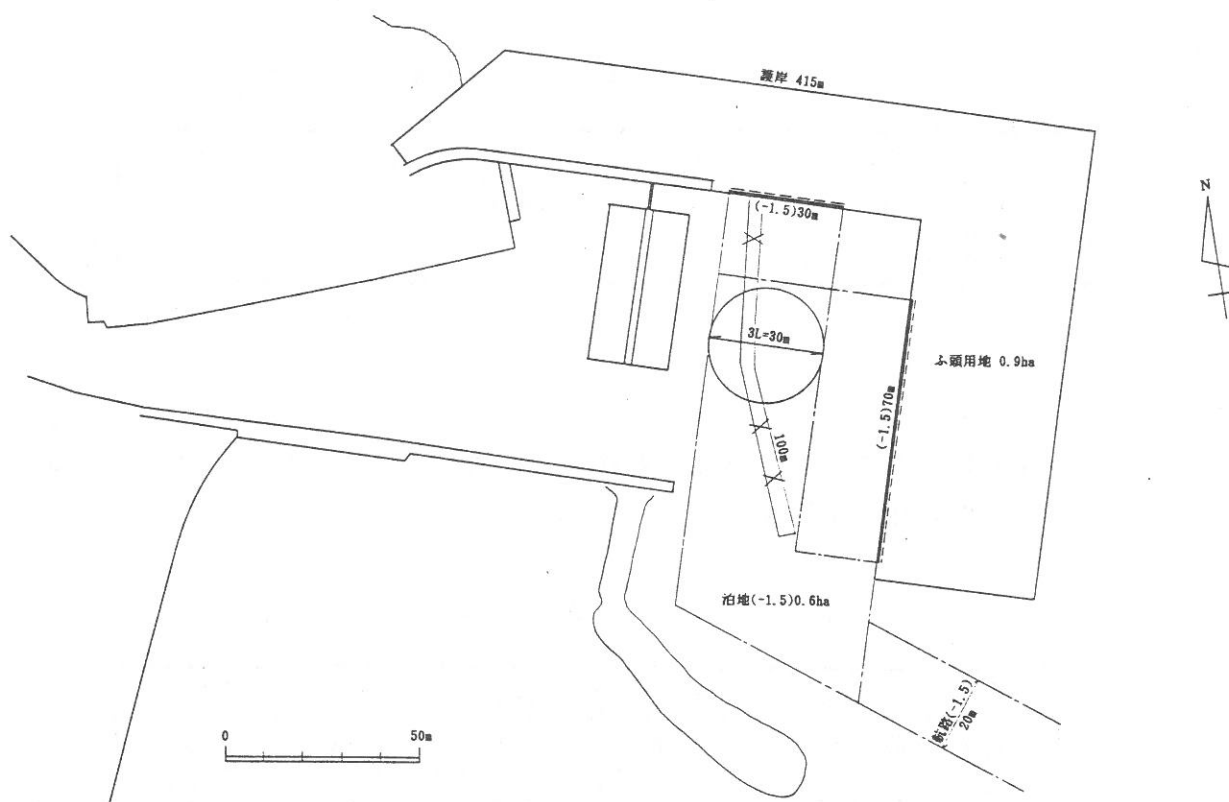


図 6 - 5 - 4 鉾立小型船だまり施設計画図

(3) 静穏度の目標

通常時、異常時における静穏度の目標は、表 6-5-5 に示すとおりである。

表 6-5-5 静穏度の目標

区 分	けい留施設前面波高	稼働率
通常時	0.3m 以下	97.5%
異常時	0.5m 以下	—

(4) 静穏度の検討

① 高島小型船だまり

1) 通常時

通常時におけるけい留施設前面での静穏度は、表 6-5-6 に示すとおりとなり、所要の静穏度を満足している。

表 6-5-6 通常時における稼働率（年間）

波高0.3m以上の出現率（単位：％）					稼働率 （％）
N E	E N E	E	E S E	計	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2) 異常時

異常時における推算点での静穏度は、表 6-5-7 に示すとおりとなり所要の静穏度を満足している。

表 6-5-7 異常時における波高

波 向	N E	E N E	E	E S E
入射波高 (m)	0.37	0.48	0.49	0.32
周 期 (s)	1.87	2.13	2.13	1.72

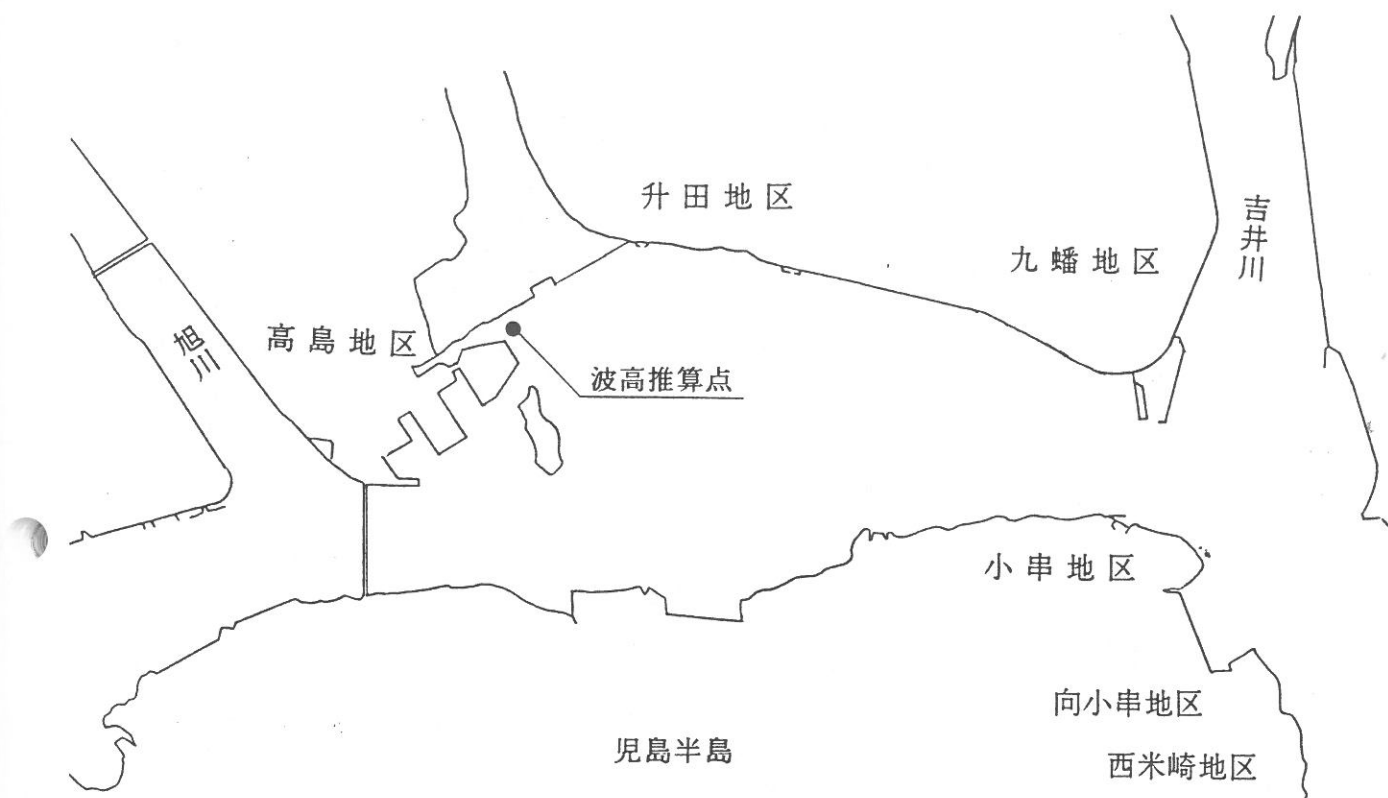


図 6 - 5 - 5 波高推算点 (高島小型船だまり)

② 九幡小型船だまり

1) 通常時

通常時におけるけい留施設前面での静穏度は、表 6-5-8 に示すとおりとなり、所要の静穏度を満足している。

表 6-5-8 通常時における稼働率（年間）

波向 位置	波高0.3m以上の出現率（単位：%）						稼働率 （%）
	S S E	S	S S W	S W	W S W	計	
A	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
B	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
C	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100

2) 異常時

異常時におけるけい留施設前面波高は、図 6-5-6 に示す等波高比線図より波高を求めると、表 6-5-9 に示すとおりとなり、所要の静穏度を満足している。

表 6-5-9 異常時における波高

波 向		S W
入射波高（m）		0.73
周 期（S）		2.45
A	波 高 比	0.51
	波 高（m）	0.37
B	波 高 比	0.62
	波 高（m）	0.45
C	波 高 比	0.25
	波 高（m）	0.18

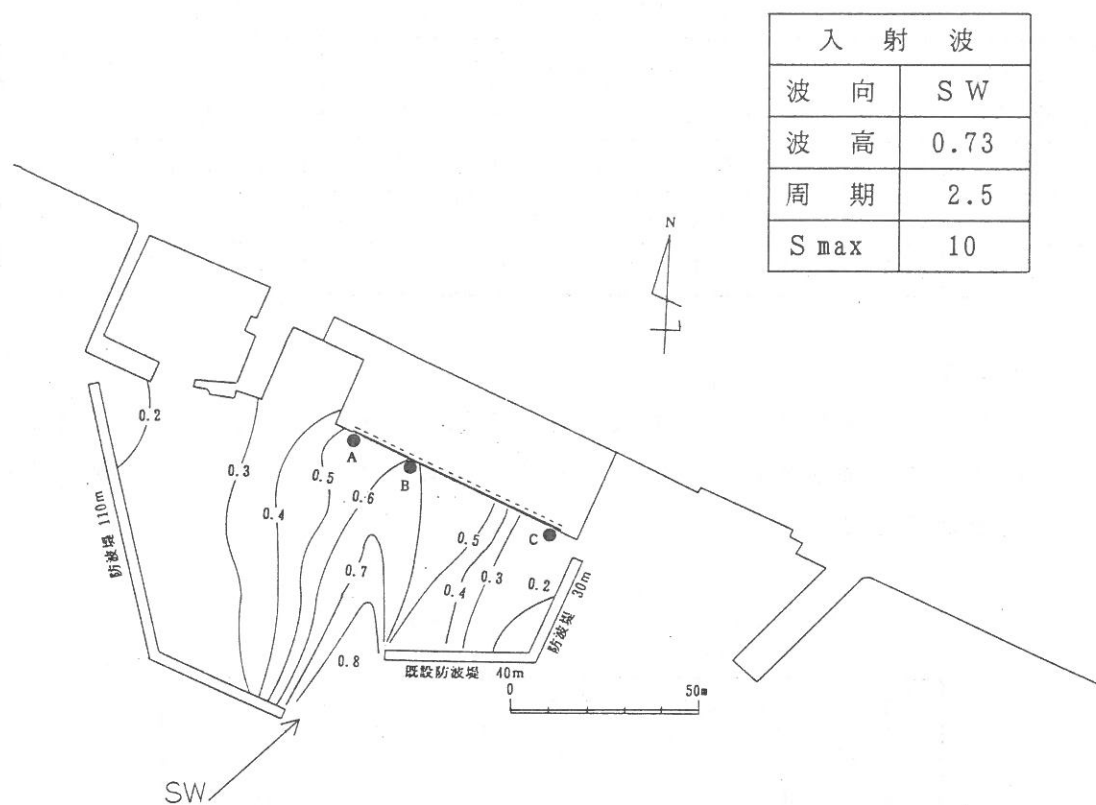


図 6 - 5 - 6 等波高比線図 (九幡小型船だまり)

③ 鉾立小型船だまり

1) 通常時

通常時におけるけい留施設前面での静穏度は、表 6-5-10 に示すとおりとなり、所要の静穏度を満足している。

表 6-5-10 通常時における稼働率（年間）

波向 位置	波高0.3m以上の出現率（単位：％）								稼働率 （％）
	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	計	
A	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	99.9
B	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	99.9
C	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	99.9

2) 異常時

異常時におけるけい留施設前面波高は、図 6-5-7 に示す等波高比線図より波高を求めると、表 6-5-11 に示すとおりとなり所要の静穏度を満足している。

表 6-5-11 異常時における波高

波 向		S E	E S E	E
入射波高 (m)		0.75	1.03	1.44
周 期 (S)		3.3	3.9	4.6
A	波 高 比	0.63	0.43	0.28
	波 高 (m)	0.47	0.44	0.40
B	波 高 比	0.40	0.28	0.23
	波 高 (m)	0.30	0.29	0.33
C	波 高 比	0.58	0.40	0.28
	波 高 (m)	0.44	0.41	0.40
D	波 高 比	0.50	0.40	0.32
	波 高 (m)	0.38	0.41	0.46

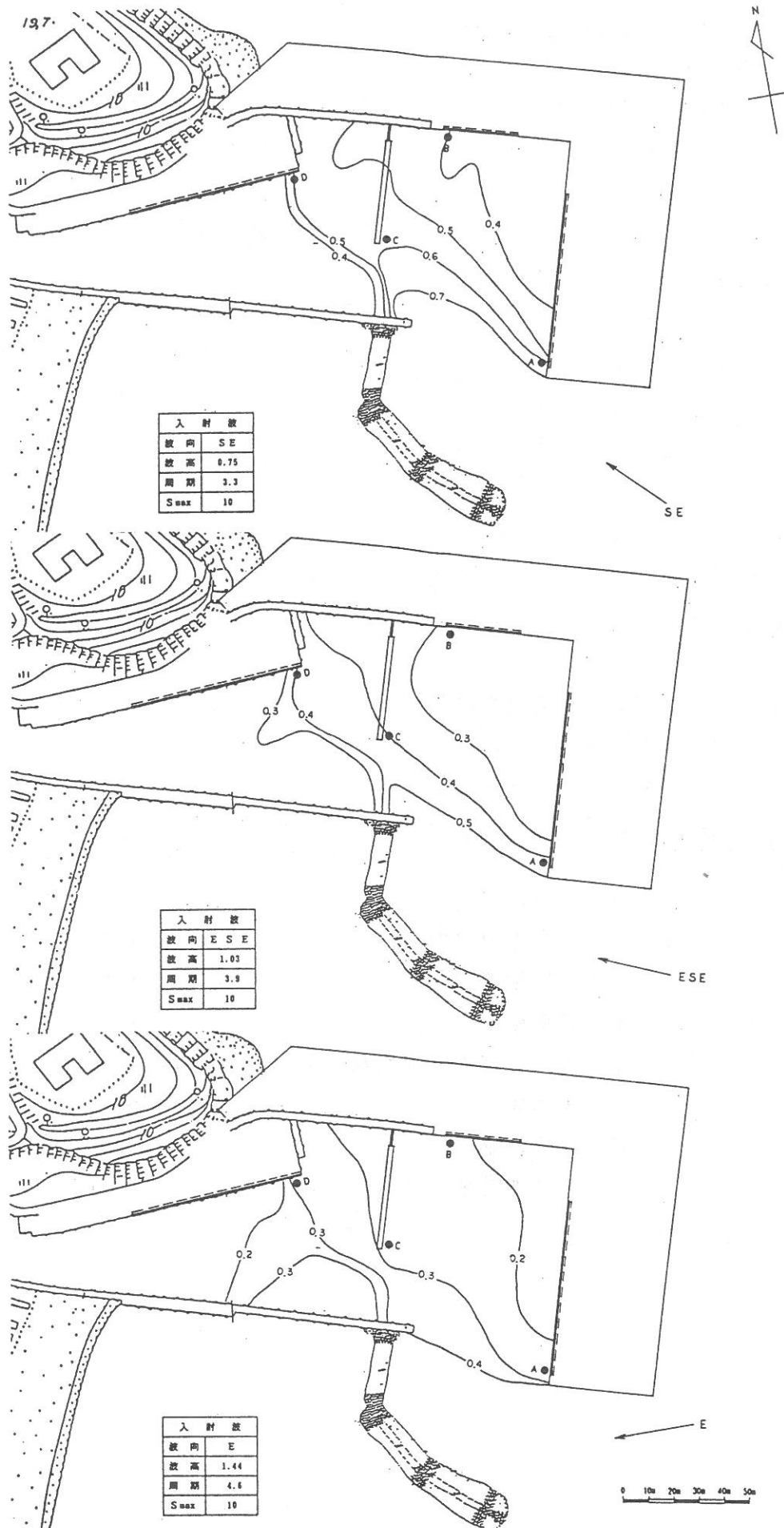


図 6 - 5 - 7 等波高比線図 (鉾立小型船だまり)

6-6 臨港交通施設計画

(1) 概 要

本港の港湾活動に対応して、港湾関連交通を円滑に背後地へ流動させるため、臨港交通施設を表6-6-1のとおり計画する。

表6-6-1 臨港交通施設計画

地区名	臨港道路名	起 点	終 点	車線数	備 考
福 島	臨港道路 福島西1号線	臨港道路 福島幹線	市道 洲崎築港 栄町線	2	新 規
正 儀	臨港道路 正 儀 線	市道 正儀線	正儀地区 公共ふ頭	2	新 規

(2) 発生集中交通量

計画臨港道路の発生集中交通量は、港湾貨物関連交通量、その他臨海部発生交通量に分けて行なった。

① 港湾貨物関連交通量の推計

次式により算定する。

時間発生集中交通量 (台/h)

$$= \text{年間取扱貨物量 (トン/年)} \times \frac{\alpha}{\omega} \times \frac{\beta}{12} \times \frac{\gamma}{30} \times \frac{1 + \delta}{\varepsilon} \times \sigma$$

……… (式6-6-1)

ここに	α : 自動車分担率	1.0
	β : 月変動率	1.2
	γ : 日変動率	1.5
	ω : トラック実車積載量 (トン/台)	3.0~12.0
	ε : 実車率	0.5
	δ : 関連車率	0.5
	σ : 時間変動率	0.11

② その他臨海部発生交通量の推計

その他臨海部発生交通量は、物流関連用地等から発生する交通量を原単位を用いて推計した。

表 6 - 6 - 2 発生集中交通量推計結果

(単位：台/h)

道 路 名	物流関連用地
臨港道路福島西1号線	114
臨港道路正儀線	220

(3) 車線数及び幅員構成

推計した発生集中交通量を方面別に配分した結果、各臨港道路の車線数及び幅員構成は、表 6 - 6 - 3 に基づき、表 6 - 6 - 4 及び図 6 - 6 - 1 のとおり計画する。

表 6 - 6 - 3 設計基準交通量

区 分	道 路 の 種 類	設計基準交通量 (台/時間)
2 車線	港湾と国道等を連絡する道路	650
	その他の道路	500

表 6 - 6 - 4 設計時間交通量と車線数及び幅員

地区名	道 路 名	設計交通量 (台/h)	幅 員 (m)	車線数
福 島	臨港道路福島西1号線	114	18.5	2
正 儀	臨港道路正儀線	220	18.5	2

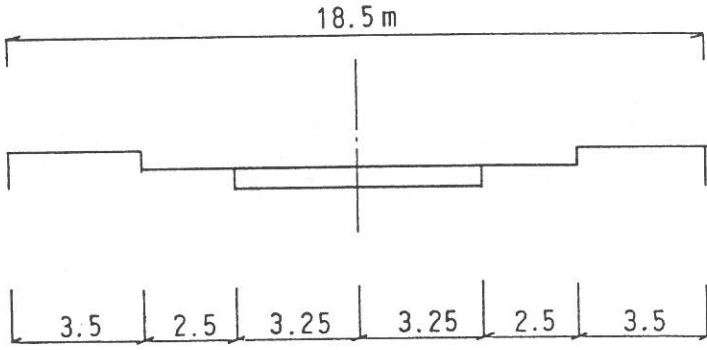
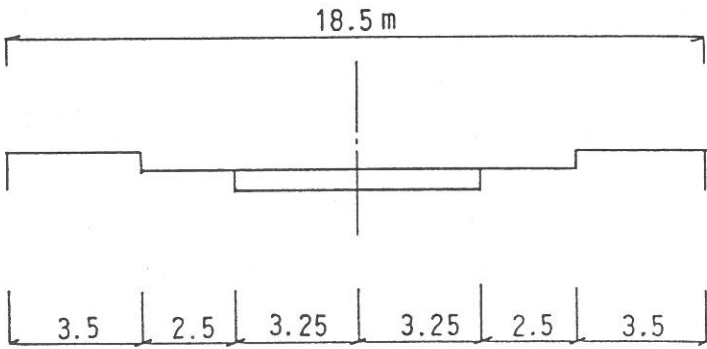
道路名	幅員構成
臨港道路 福島西1号線	
臨港道路 正儀線	

図 6 - 6 - 1 幅員構成

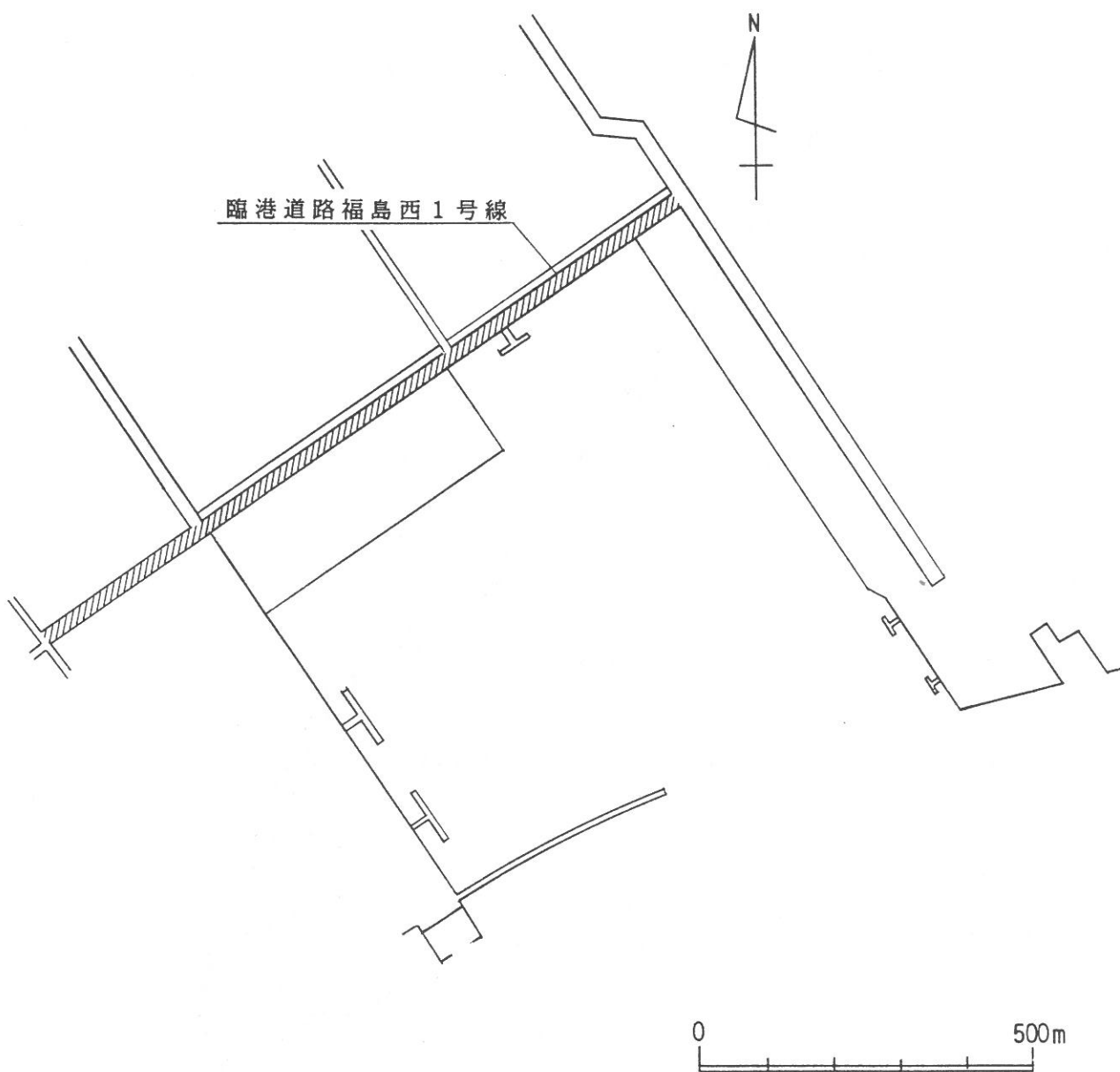


図 6 - 6 - 2 (1) 臨港道路計画図 (福島地区)



図 6 - 6 - 2 (2) 臨港道路計画図 (正儀地区)

6-7 港湾環境整備施設計画

(1) 概 要

アメニティ豊かな快適な環境を維持・創出し、親水機能の向上及び地域住民等の交流に配慮した緑地を整備するため、各種機能と調和のとれた緑地整備を図る。

本港の緑地については次の方針に従い計画する。

- 1) 地域環境の改善に配慮しつつ、フェリー及び旅客船ふ頭を中心とする県都岡山市の海の玄関にふさわしい交流・水辺空間を整備する。
- 2) 港湾に風致美観をそえ、さらに埋立地が与える心理的威圧感を緩和し、空間に暖か味となじみやすさを与えるための緑地を整備する。
- 3) 道路と沿道との景観的調和を図るための緑地を整備する。

表 6-7-1 緑地計画

No	地区名	面積(ha)	性格(施設)	摘要
①	福島	0.8ha	緩衝緑地(樹木等)	新規
②	高島	4.4ha	シンボル緑地 (広場・遊歩道交流施設用地)	新規
		0.8ha	休息緑地(ハ・コ・ラ・花壇等)	新規
③	正儀	3.1ha	休息・修景緑地 (ス・ク・ワ広場・樹木・ベンチ等)	新規
合 計		9.1ha		

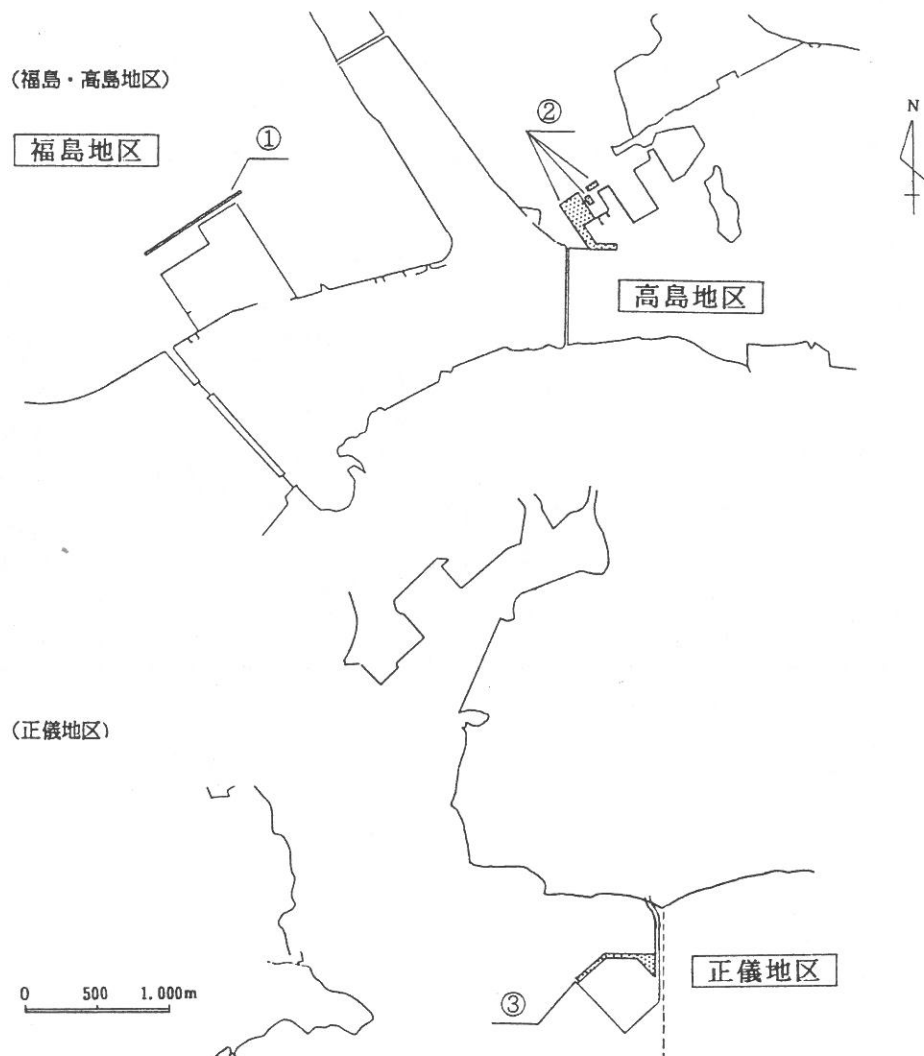
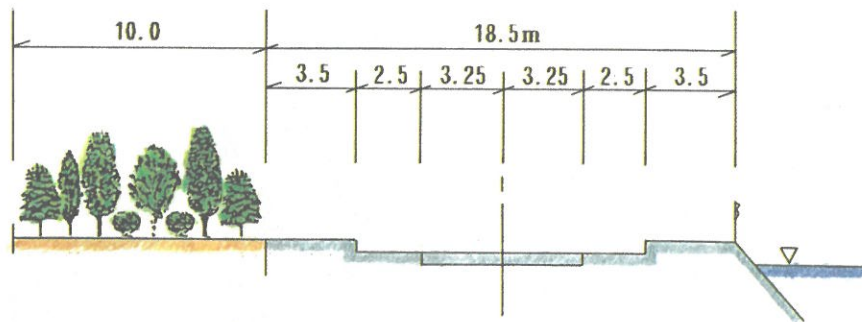


図 6 - 7 - 1 緑地計画位置図

① 福島地区



② 高島地区

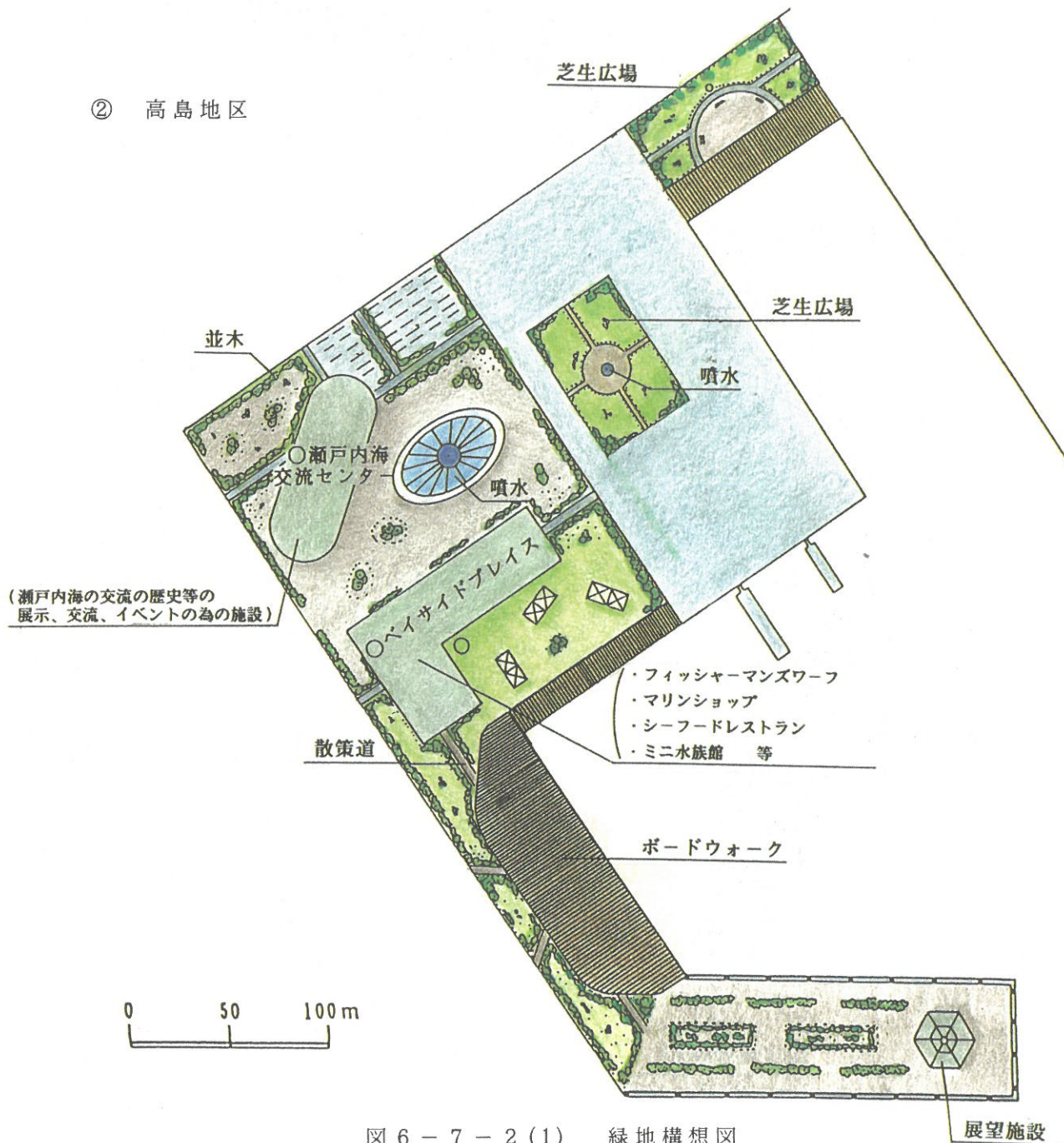


図 6 - 7 - 2 (1) 緑地構想図

③ 正義地区

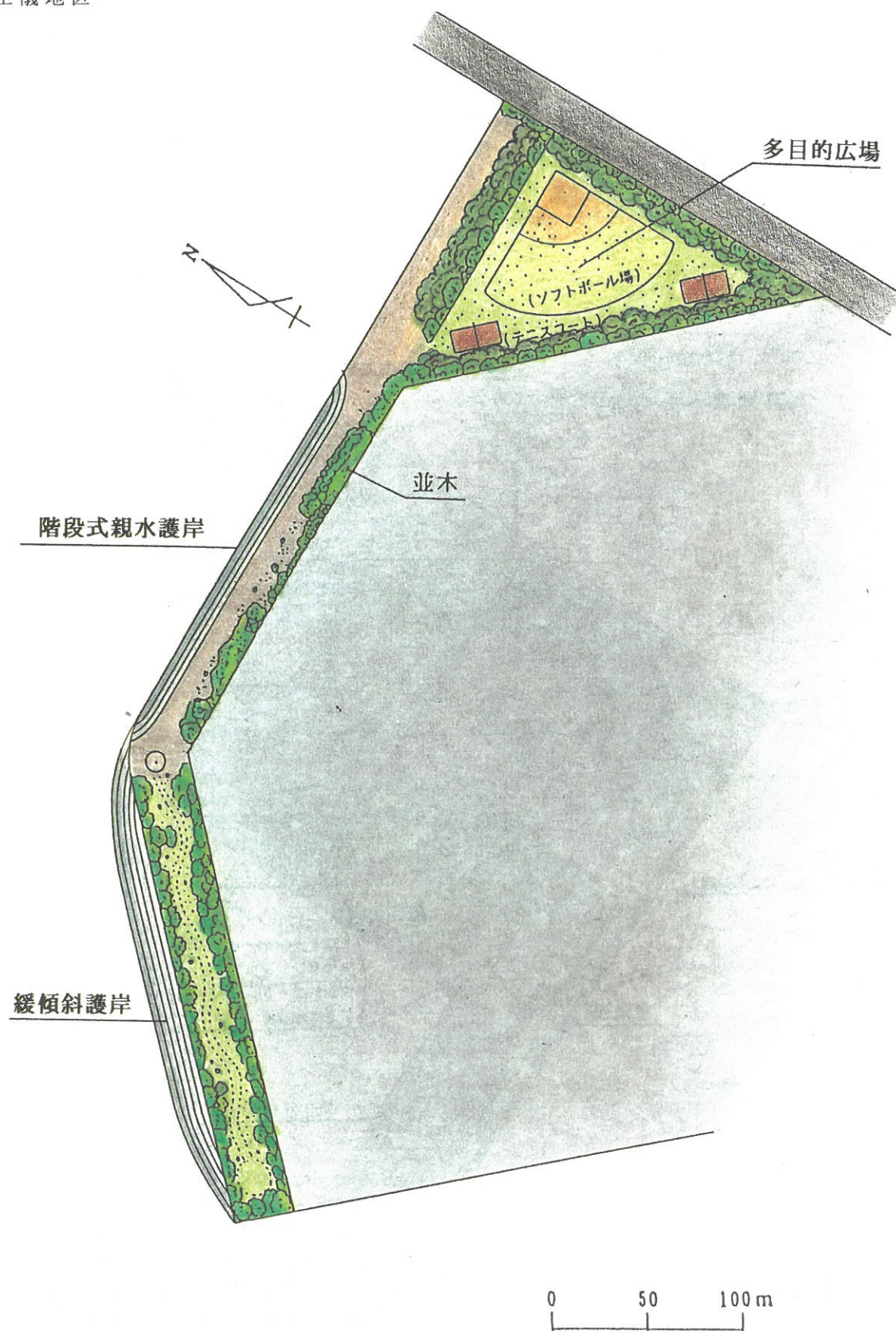


図 6 - 7 - 2 (2) 緑地構想図

6-8 廃棄物処理・活用計画

港湾整備事業に伴う発生土砂や、維持浚渫土を処理するため廃棄物処理・活用施設用地21.9haを計画する。

表 6-8-1 廃棄物処理・活用施設計画

地 区	面積 (ha)	土砂処分量 (万 m ³)	摘 要
正 儀	21.9	280	(土地利用) 公共ふ頭用地 港湾関連用地 緑地 等



図 6-8-1 廃棄物処理・活用施設位置図

6-9 土地造成及び土地利用計画

(1) 概 要

港湾施設の計画に対応し、あわせて効率性、安全性、快適性の高い港湾空間の形成を図るため、土地造成及び土地利用計画を次のとおり計画する。

表 6-9-1 土地造成及び土地利用計画

(単位: ha)

用途 地区名	ふ頭用地	港湾関連 用地	工業用地	緑 地	交通機 能用地	合 計
福島地区	(4.9) 9.8	16.8	146.7	0.8	(1.3) 3.3	(6.2) 177.4
高島地区	14.2	10.9	17.4	(1.4) 10.8	3.1	(1.4) 56.4
升田地区	0.1					0.1
九蟠地区	(0.2) 1.1					(0.2) 1.1
西大寺地区	1.1		14.3			15.4
幸島地区	0.2		17.4			17.6
水門湾地区			9.4			9.4
正儀地区	(11.3) 11.3	(5.4) 5.4		(3.1) 3.1	(2.1) 4.2	(21.9) 24.0
小串地区	(0.7) 0.7					(0.7) 0.7
向小串地区	0.1					0.1
西米崎地区	(0.2) 0.2					(0.2) 0.2
東米崎地区	(0.1) 0.1					(0.1) 0.1
相引地区	0.2					0.2
鉾立地区	(0.9) 1.1					(0.9) 1.1
合 計	(18.3) 40.2	(5.4) 33.1	205.2	(4.5) 14.7	(3.4) 10.6	(31.6) 303.8

注) () は、土地造成を伴う土地利用計画で内数である。

(2) 地区別土地利用計画

① 福島地区

公共ふ頭計画に対応し、土地利用を表6-9-2のとおり計画する。

表6-9-2 福島地区土地利用計画

用 途	面積 (ha)	施 設 概 要	摘 要
ふ頭用地	9.8	17' 0", 荷捌・保管施設用地等	今回計画 4.9ha
港湾関連用地	16.8	卸売市場等	
工業用地	146.7		
緑 地	0.8		今回計画 0.8ha
交通機能用地	3.3	道路	今回計画 2.2ha
計	177.4		

凡 例	
	ふ 頭 用 地
	港 湾 関 連 用 地
	緑 地
	交 通 機 能 用 地
	既 設

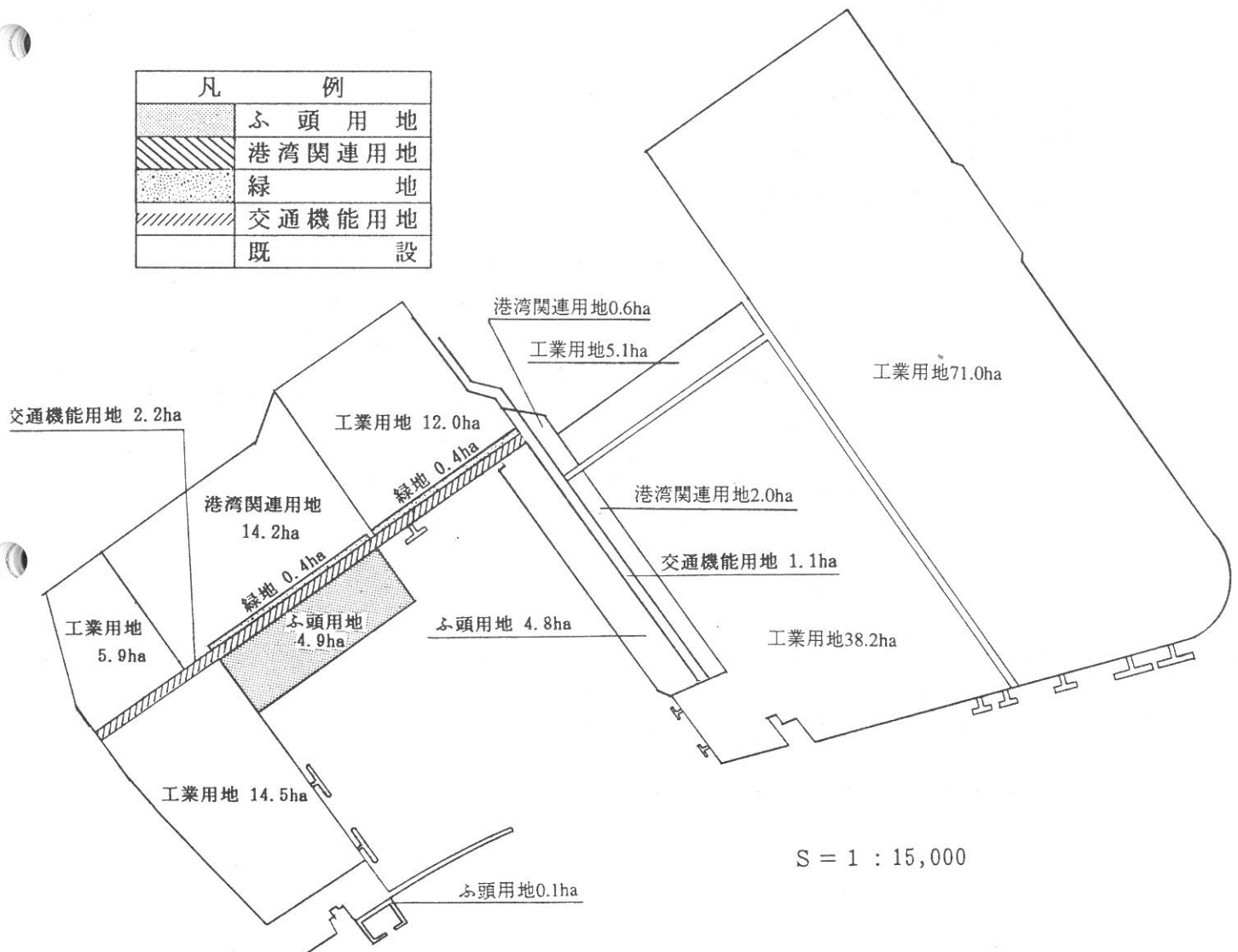


図6-9-1 福島地区土地利用計画図

② 高島地区

人流関連ゾーンの展開に対応し、土地利用を表6-9-3のとおり計画する。

表6-9-3 高島地区土地利用計画

用 途	面積 (ha)	施 設 概 要	摘 要
ふ頭用地	14.2	荷捌・保管施設用地、 旅客ターミナル等	今回計画 2.2ha
港湾関連用地	10.9	福利厚生施設、事務所等	
工業用地	17.4		
緑 地	10.8	文化施設等	今回計画 5.2ha
交通機能用地	3.1	道路	
計	56.4		

凡 例	
	ふ 頭 用 地
	港 湾 関 連 用 地
	緑 地
	交 通 機 能 用 地
	既 設

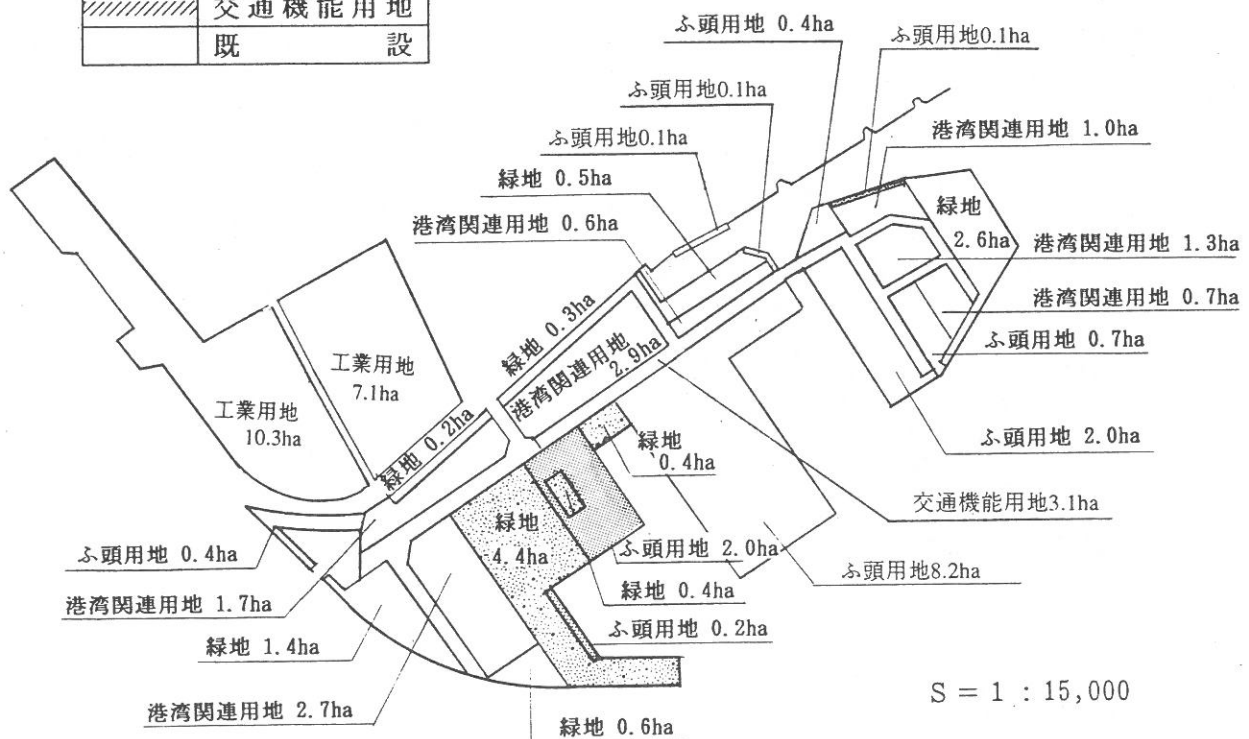


図6-9-2 高島地区土地利用計画図

③ 正儀地区

公共ふ頭計画等に対応し、土地利用を表6-9-4のとおり計画する。

表6-9-4 正儀地区土地利用計画

用 途	面積 (ha)	施 設 概 要	摘 要
ふ頭用地	11.3	内貿ユニットロード・ターミナル、荷捌地等	今回計画
港湾関連用地	5.4	事務所、空コン置場等	今回計画
緑 地	3.1		今回計画
交通機能用地	4.2	道路	今回計画
計	24.0		

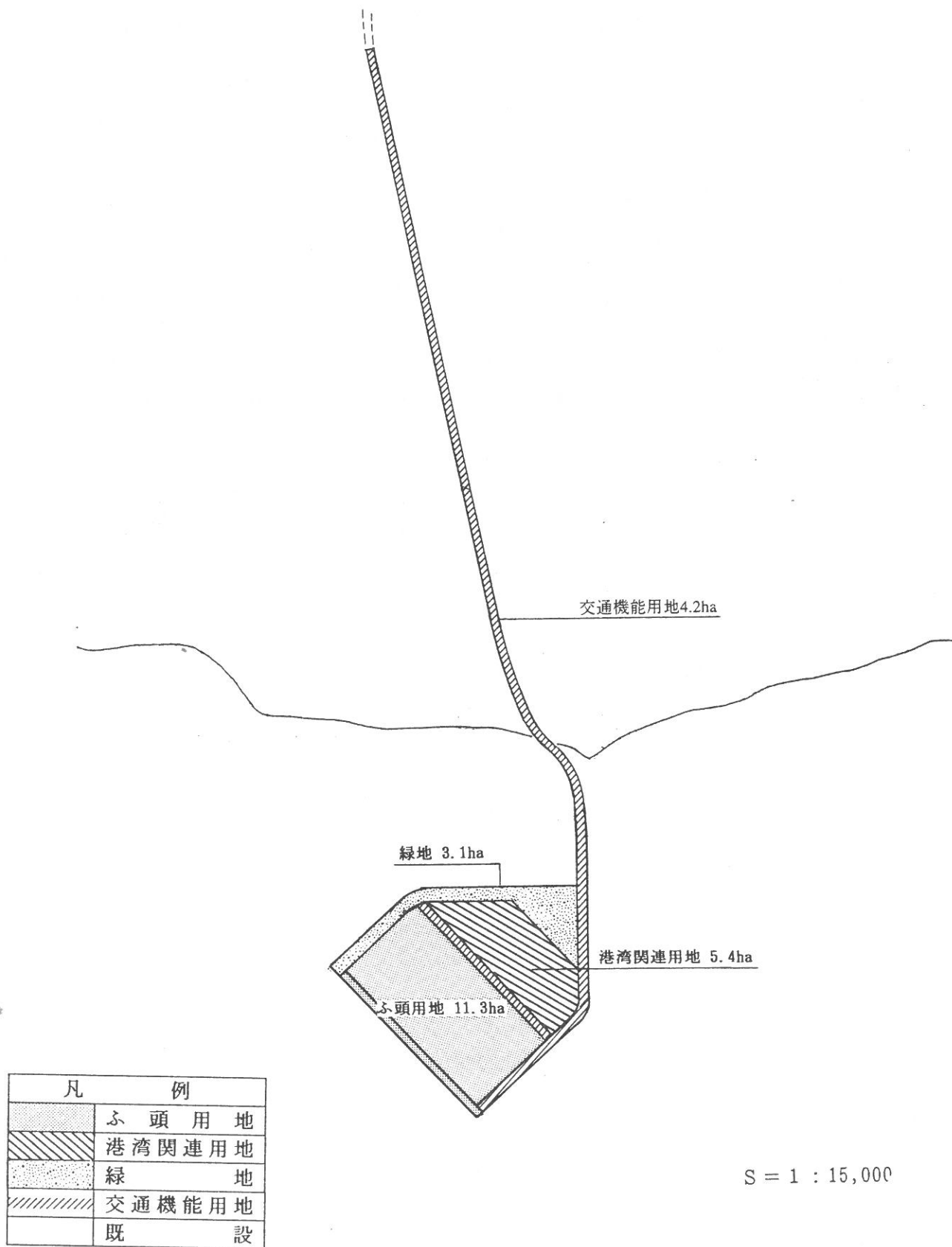


図 6 - 9 - 3 正儀地区土地利用計画図

④ 九幡地区

6-5 小型船だまり計画を参照。

⑤ 鉾立地区

6-5 小型船だまり計画を参照。

7. その他の計画

7-1 プレジャーボート収容計画

(1) 岡山県のプレジャーボート対策の進め方

プレジャーボート活動の健全な発展を図り、豊かで秩序ある海洋性レクリエーションの場を創出するため、岡山県では平成3年12月に「プレジャーボート対策要綱」を施行し、次の3つの柱によりプレジャーボート対策を進めている。

① プレジャーボートの届出制度の実施

プレジャーボートの利用状況の把握のため届出を実施し、届出済証を交付する。

② 係留保管施設の整備

水域利用の適正化を図り、秩序だった係留保管をするために簡易な係留保管施設を整備する。

③ 係留保管重点禁止区域の指定

係留保管重点禁止区域を指定し、この区域内の係留保管を禁止する。

(2)岡山県内のプレジャーボート隻数の将来予測と収容計画

岡山県内の平成17年におけるプレジャーボート隻数及び収容計画を表7-1-1、地区の区分を図7-1-1に示す。

表7-1-1 プレジャーボート隻数の将来予測と収容計画

(単位:隻)

		昭和63年				平成12年				平成17年			
		東 部	中 部	西 部	計	東 部	中 部	西 部	計	東 部	中 部	西 部	計
プレジャーボート隻数		2,005	3,325	3,562	8,892	3,000	5,200	4,700	12,900	3,700	6,600	5,600	15,900
係留・保管場所	マリーナ (既設, 計画, 構想)	250	798	329	1,377	1,000	3,280	1,520	5,800	1,000	3,280	1,520	5,800
	船だまり(既存)	1,755	2,527	3,233	7,515	700	620	1,180	2,500	700	620	1,180	2,500
	漁港(既存, 計画)					200	200	300	700	400	400	600	1,400
	簡易けい留施設					1,100	1,100	1,700	3,900	1,600	2,300	2,300	6,200
	その他					0	0	0	0	0	0	0	0

(*昭和63年値は岡山県調べ)

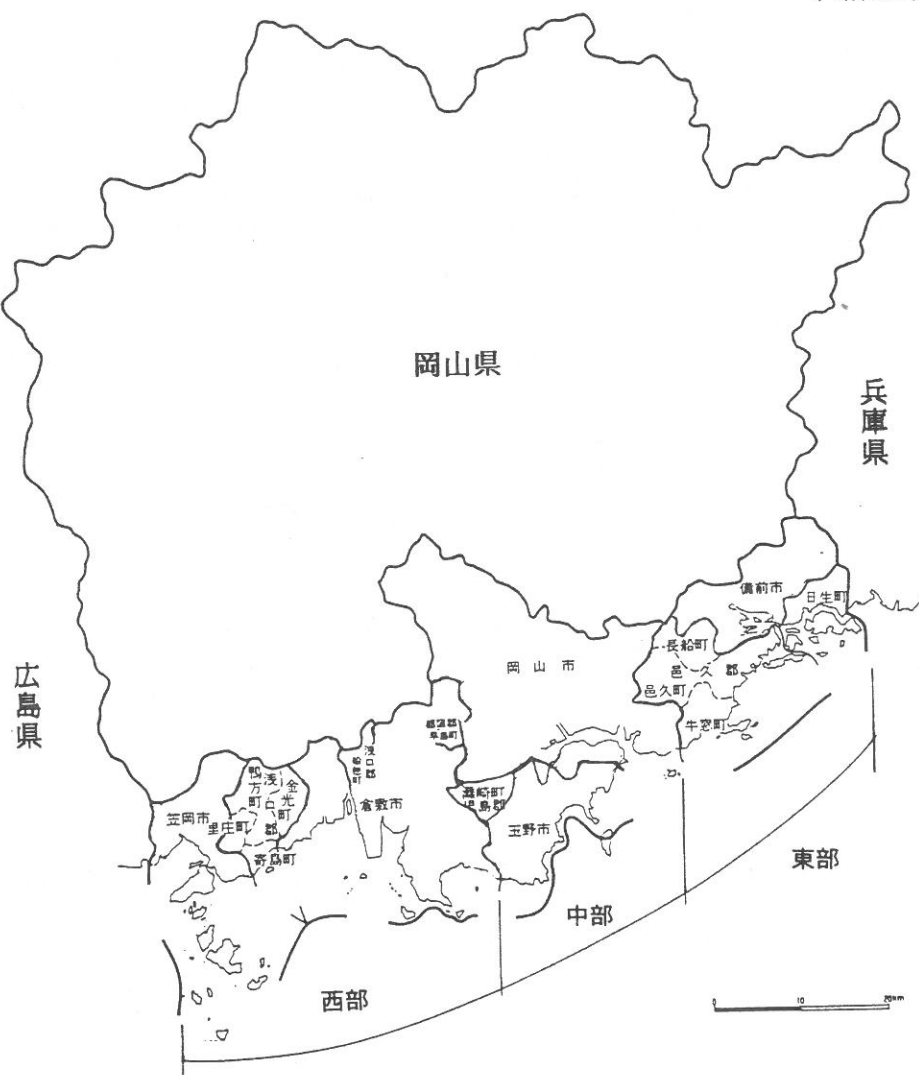


図7-1-1 地区区分

(3)岡山港のプレジャーボート収容計画

①収容計画の基本方針

プレジャーボート全てをマリーナ、P B S等の施設へ収容することを目標とし、既設マリーナへの収容及び新規の民間マリーナ・P B Sを計画整備して対応することとする。

②プレジャーボート隻数の将来予測と収容計画

岡山港のプレジャーボート収容計画を表7-1-2、図7-1-2に示す。

表7-1-2 岡山港のプレジャーボートの収容計画

(単位:隻)

	合 計	マリーナ	漁 港	P B S	その他
昭和63年	1,967 (3,325)	689 (798)	99 (170)	0 (0)	1,179 (2,357)
平成4年	1,956 (3,747)	797 (873)	121 (174)	26 (26)	1,012 (2,674)
平成17年	1,956 (6,600)	1,332 (3,280)	121 (400)	166 (2,300)	337 (620)

() は岡山県中部地域

表7-1-3 岡山県中部地域の港別プレジャーボート収容隻数

参考

(単位:隻)

	合計	久々井 漁港等	岡山港	山田港	玉野市 管理港湾	宇野港	その他
昭和63年調査	3,325	71	1,967	90	164	821	212
平成4年調査	3,747	53	1,956	245	223	1,018	252
平成17年計画	6,600 (4,095)	279 (0)	1,956 (270)	1,639 (1,530)	500 (500)	1,626 (1,195)	600 (600)

() は新規マリーナ, P B S による収容隻数

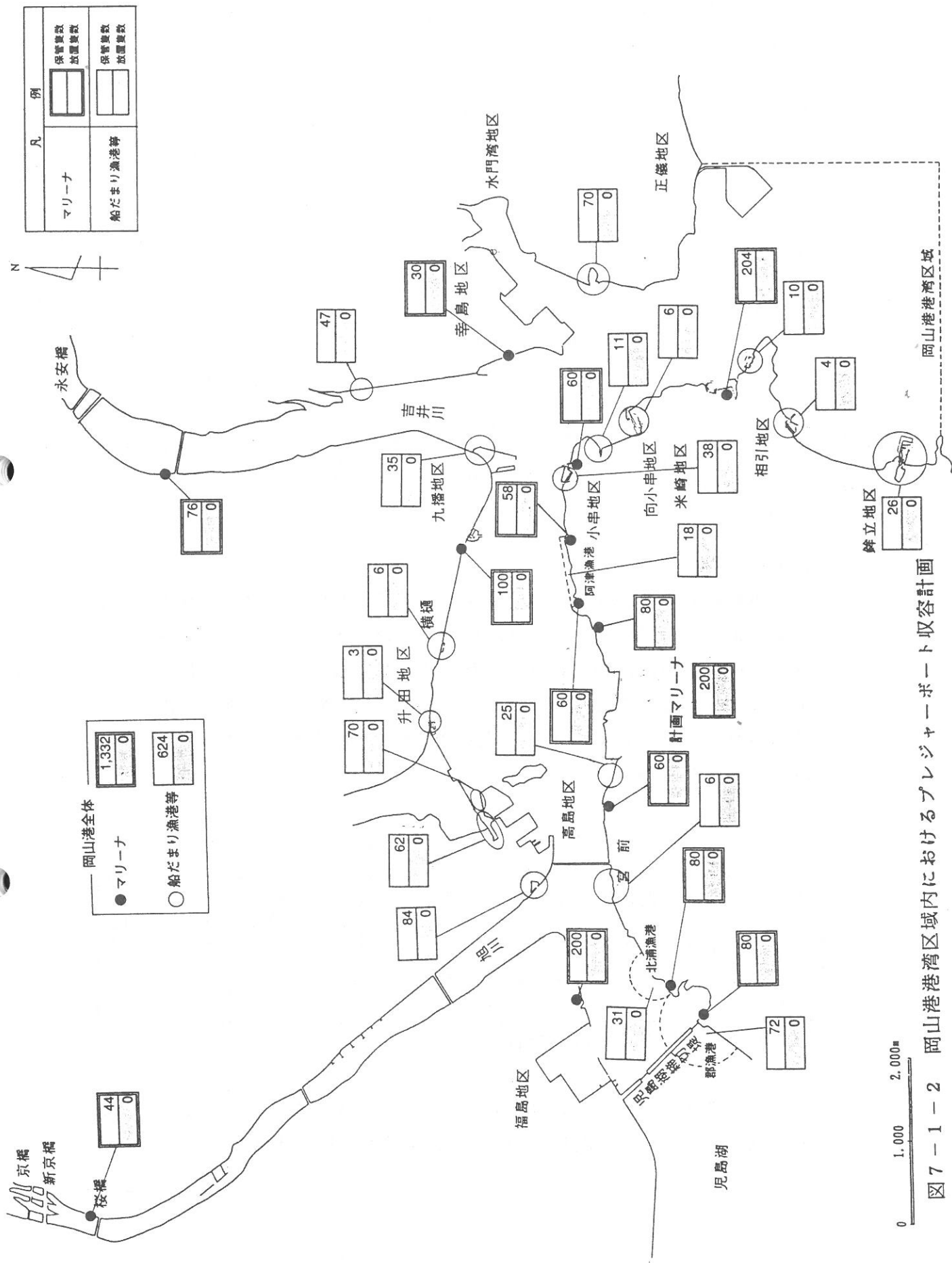


図 7-1-2 岡山港港湾区域内におけるプレジャーボート収容計画

7-2 大規模地震対策施設計画

(1) 概 要

岡山県に影響のあった大規模地震は、表7-2-1に示すとおりである。

大規模な地震が発生した場合に全国からの救援人員、救援物資、被災地からの住民、観光客等の緊急輸送のため、岡山港を岡山県の拠点港湾である宇野港の補完港として位置づけ、耐震岸壁を整備して緊急時に対応するものである。

表7-2-1 過去の地震

地震名	地震の規模 (マグニチュード)	震源地	備考 (発生日月年)
鳥取地震	7.2	鳥取県東部	昭和18年9月10日
南海道地震	8.0	紀伊半島沖	昭和21年12月21日
兵庫県南部地震	7.2	淡路島付近	平成7年1月17日

(2) 耐震岸壁の計画

災害時における被災者の避難及び応急対策に必要な要員・物資等の迅速確実な輸送を確保するため、陸路による交通が途絶した場合における海上輸送の確保が要請されている。そこで、当岡山港を宇野港の補完港として位置づけ、緊急輸送時における分担区域を、道路、地形等を考慮して、岡山市を中心とする市町とし、緊急輸送量を算定すると、表7-2-2に示すおりとなる。

表7-2-2 緊急輸送量（発生後7日間の1日当たりの輸送量）

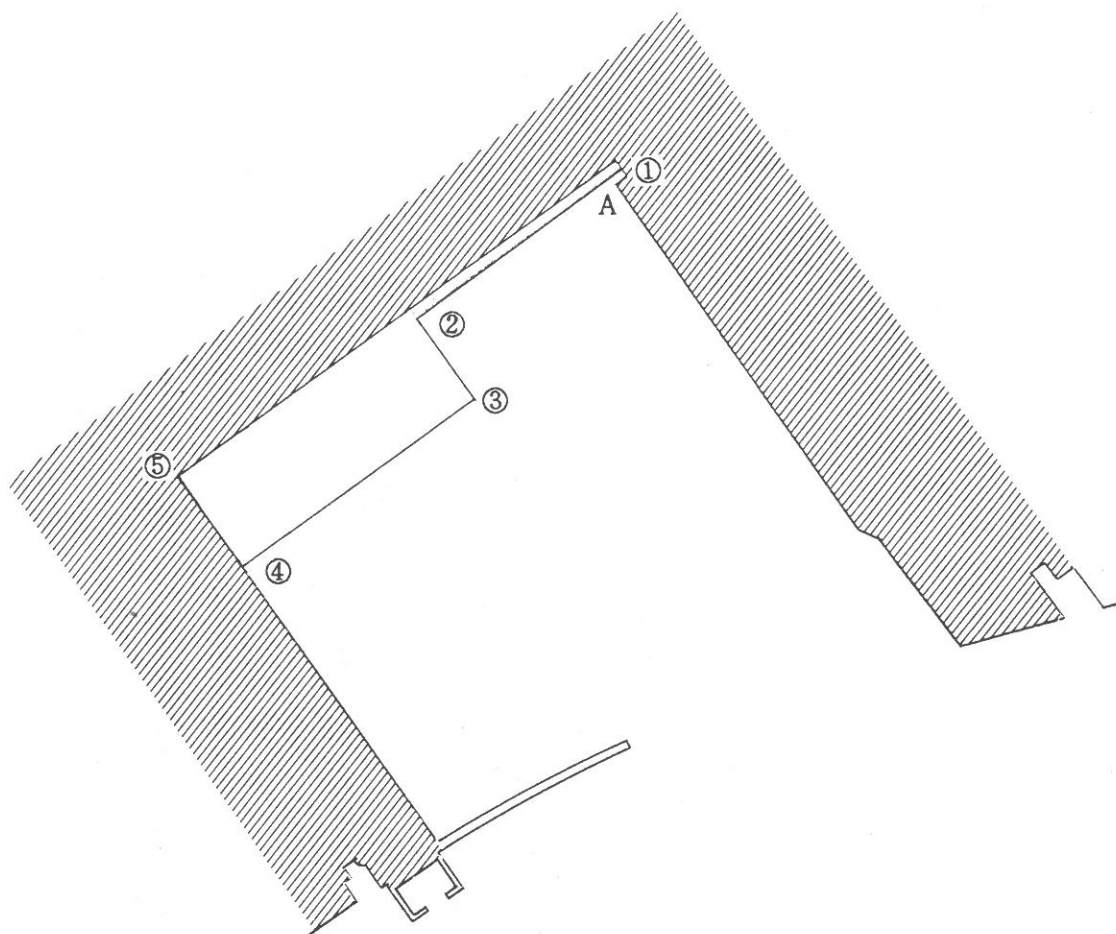
想定被災人口 (人)	緊急物資輸送量(ト) (注)					1日当たり 緊急物資輸 送量(ト)	1日当たり 緊急人員 輸送量(人)
	衣類 等	食料 品	日用 品	仮設住 宅資材	合 計		
934	29	19	2	30	80	23	2,356

(注) 想定被災人口×緊急物資物別原単位

緊急輸送に利用する岸壁は、背後の道路網を勘案し、図7-2-1に示す岸壁とし、-5.5m岸壁1バースを耐震岸壁として整備する。

8. 法 線 計 画

8 - 1 福島地区



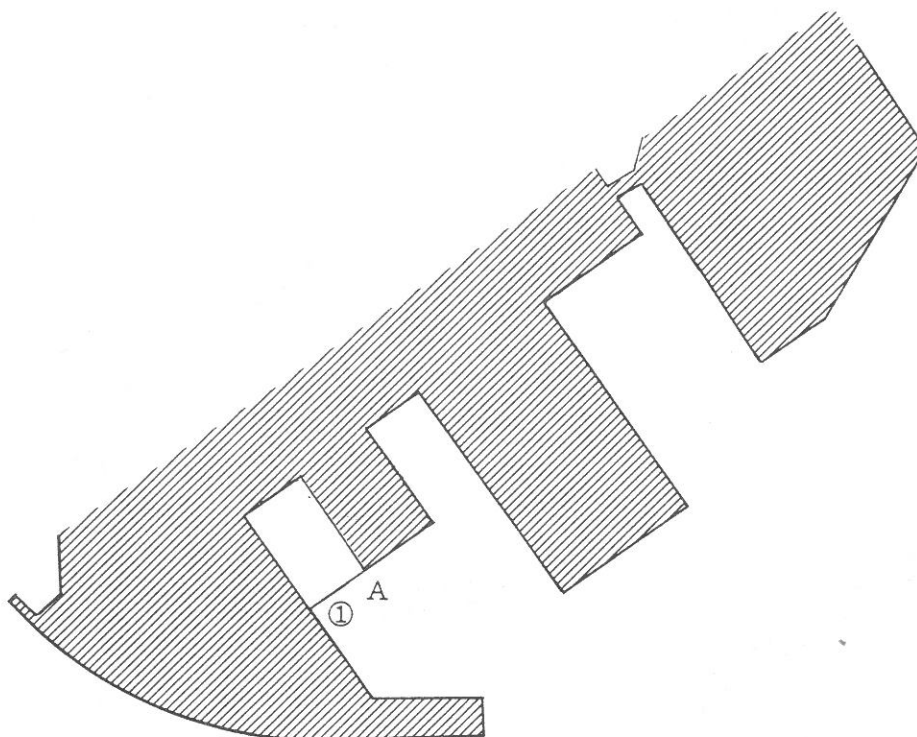
S = 1 : 10,000

(岸壁・護岸法線)

-4m 物揚場北端を基点 A とし、計画法線を① - ② - ③ - ④ - ⑤とする。

基点 A : -4m 物揚場北端

①	-	A 点より	38° 30'	3m の地点
②	-	① 点より	236° 50'	335m の地点
③	-	② 点より	146° 50'	130m の地点
④	-	③ 点より	236° 50'	380m の地点
⑤	-	④ 点より	326° 50'	148m の地点



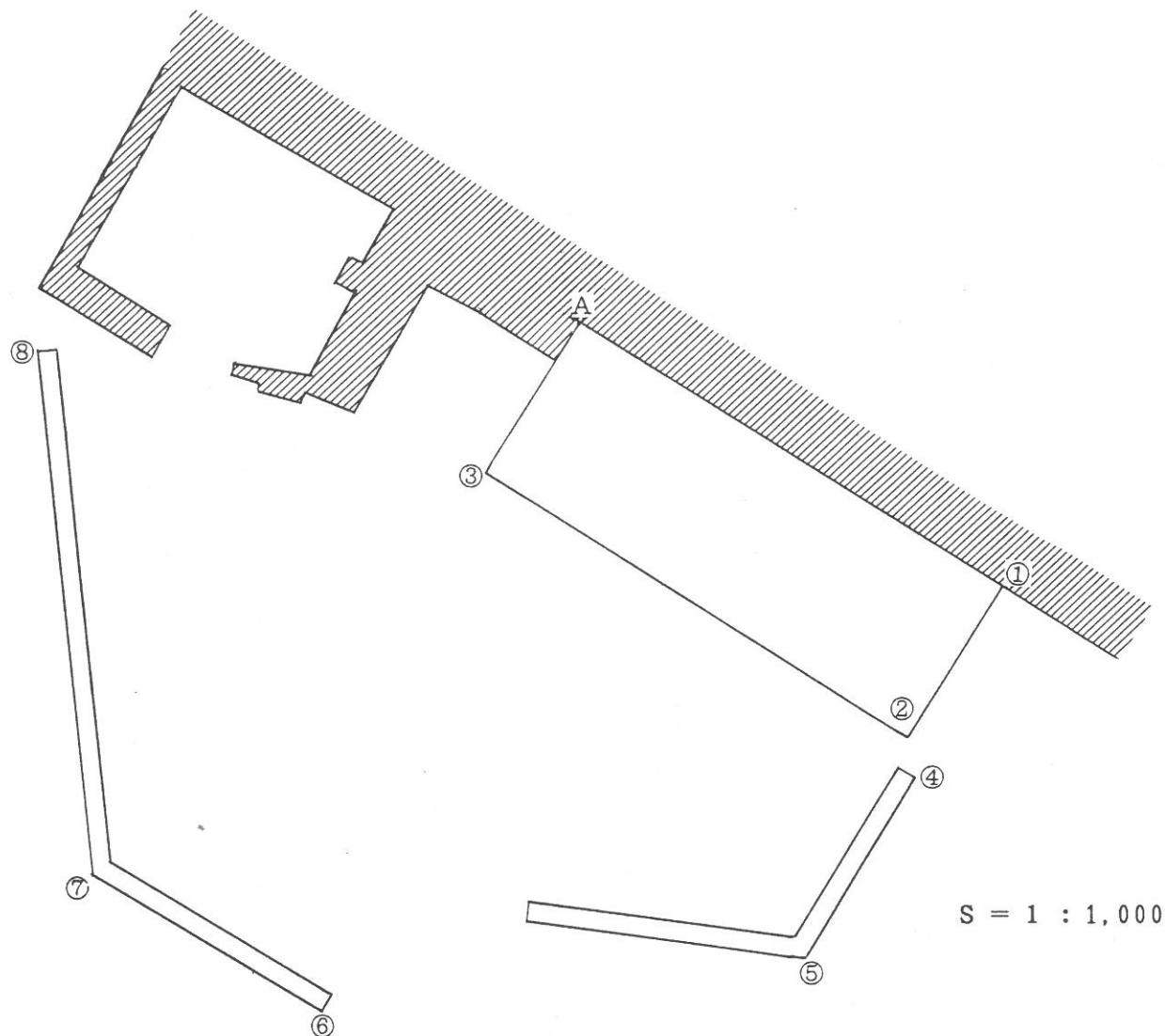
S = 1 : 10,000

(岸壁・護岸法線)

-5.5m岸壁西端を基点 A とし、計画法線を A - ① とする。

基点 A : -5.5m岸壁西端

① - A 点より 234° 40' 90m の地点



(物揚場・護岸法線)

既設護岸隅角部を基点 A とし、計画法線を A - ① - ② - ③ とする。

基点 A : 既設護岸隅角部

①	-	A 点より	120° 40'	70m の地点
②	-	① 点より	210° 40'	25m の地点
③	-	② 点より	300° 40'	70m の地点

(防波堤法線)

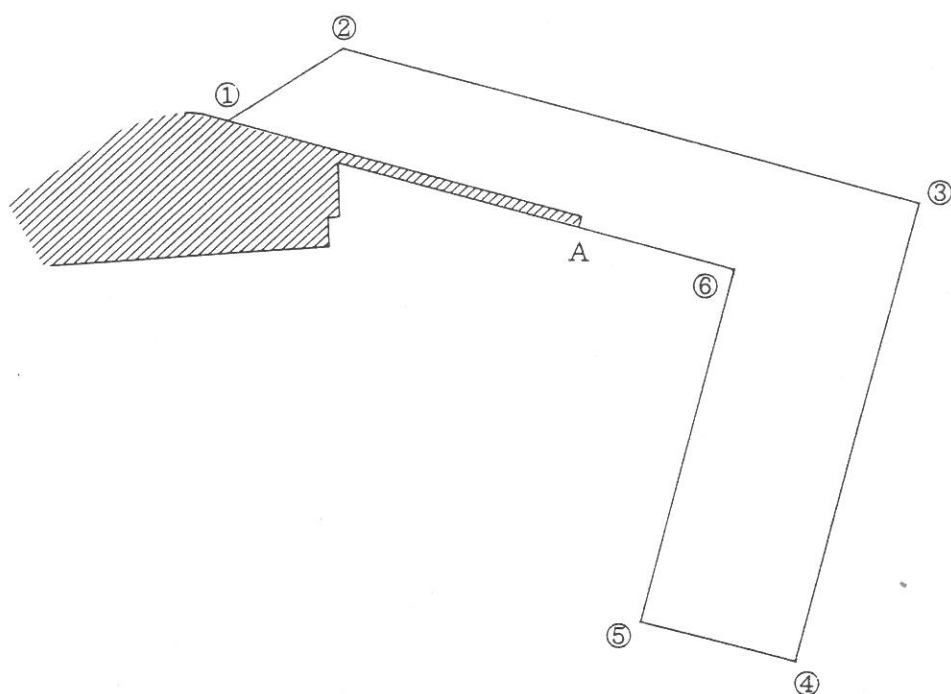
計画法線を ④ - ⑤ とする。

④	-	② 点より	170° 30'	6m の地点
⑤	-	④ 点より	210° 30'	30m の地点

計画法線を ⑥ - ⑦ - ⑧ とする。

⑥	-	⑤ 点より	263° 30'	68m の地点
⑦	-	⑥ 点より	300° 00'	37m の地点
⑧	-	⑦ 点より	353° 30'	73m の地点

8 - 4 鉾立地区



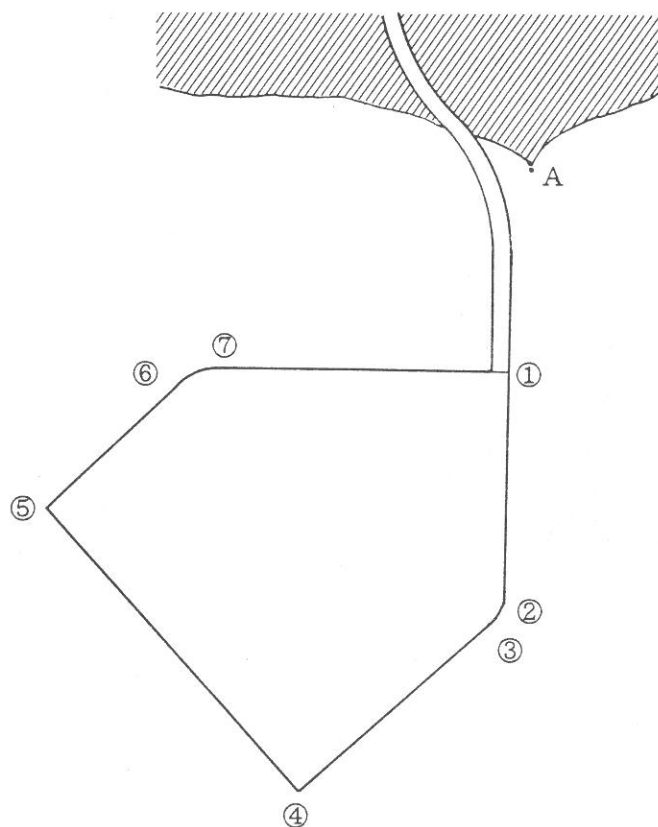
S = 1 : 2,000

(物揚場・護岸法線)

鉾立2号防波堤隅角部を基点Aとし、計画法線をA-①-②-③-④-⑤-⑥-⑦とする。

基点A：鉾立2号防波堤隅角部

①	-	A点より	13° 20'	3mの地点
②	-	①点より	285° 30'	93mの地点
③	-	②点より	58° 40'	38mの地点
④	-	③点より	106° 00'	158mの地点
⑤	-	④点より	196° 00'	125mの地点
⑥	-	⑤点より	286° 00'	43mの地点
⑦	-	⑥点より	16° 00'	95mの地点



S = 1 : 10,000

(岸壁・護岸法線)

正儀地区飯盛岩南端を基点 A とし、計画法線を① - ② - ③ - ④ - ⑤ - ⑥ - ⑦とする。

基点 A : 正儀地区飯盛岩南端

①	-	A 点より	185° 30'	260m の地点
②	-	① 点より	180° 00'	285m の地点
③	-	② 点より	199° 00'	50m の地点
④	-	③ 点より	227° 30'	340m の地点
⑤	-	④ 点より	317° 30'	500m の地点
⑥	-	⑤ 点より	47° 30'	240m の地点
⑦	-	⑥ 点より	70° 00'	65m の地点

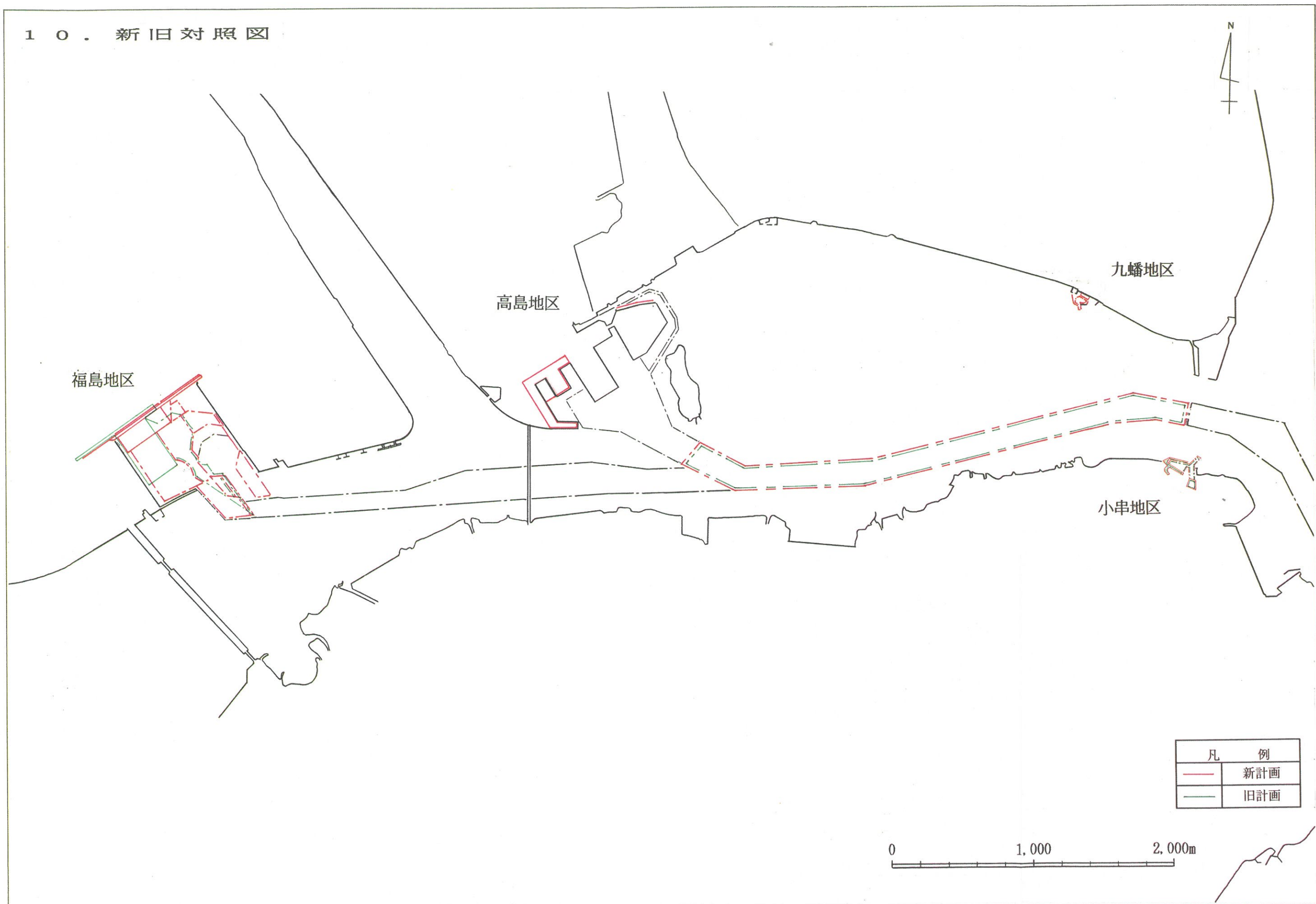
9. 資金計画

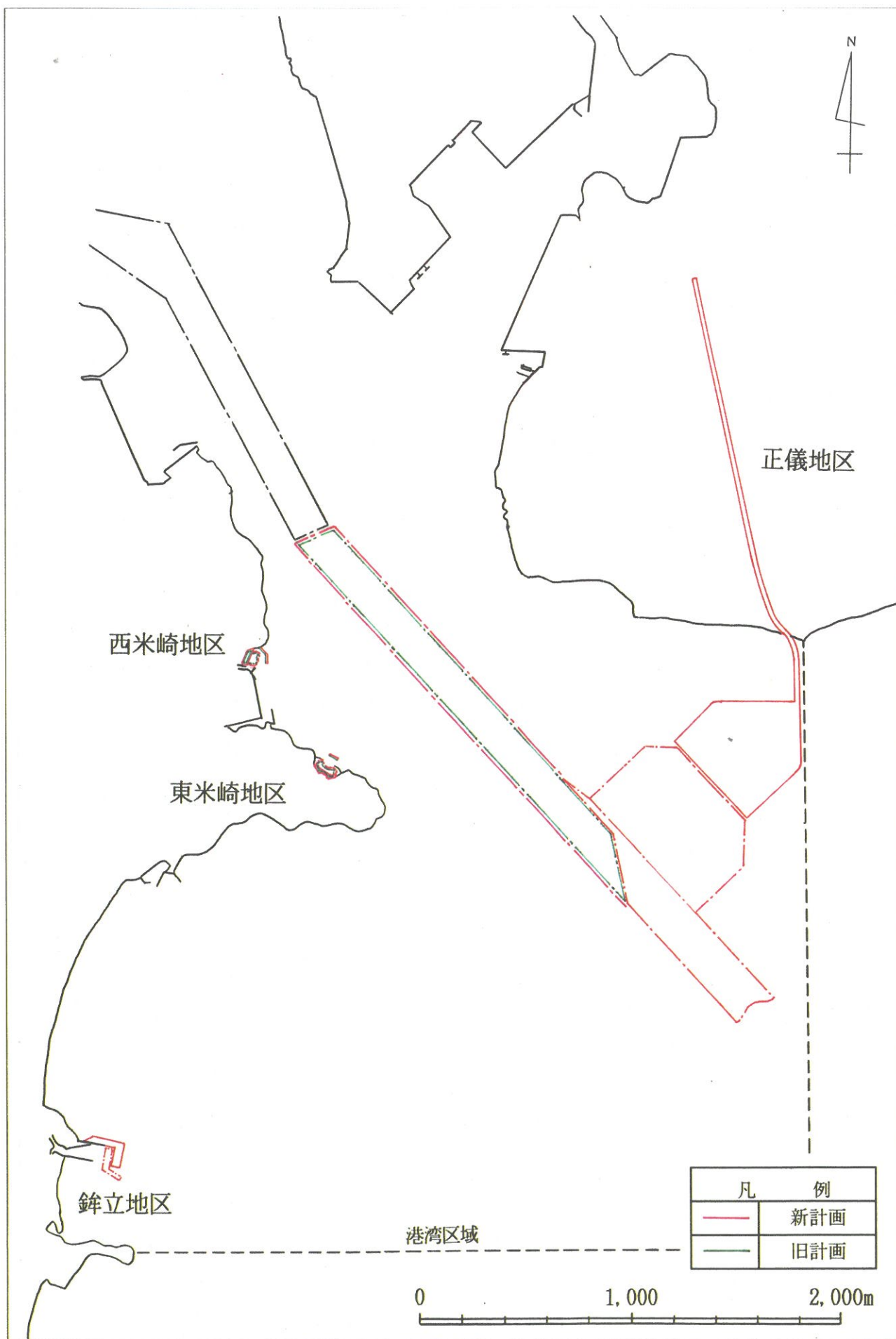
地区	種 別	施 設 区 分	施 設 名	単 位	数 量	事業費 (百万円)
福島	公共事業	けい留施設	岸 壁(-5.5m)	m	300	1,800
			岸 壁(-5.5m) (耐震バース)	m	100	800
		水域施設	航 路(-6.0m)	千㎡	10	15
			航 路(-5.5m)	千㎡	84	126
			泊 地(-6.0m)	千㎡	75	113
			泊 地(-5.5m)	千㎡	175	263
		臨港交通施設	道 路	㎡	21,000	420
		港湾環境 整備施設	緑 地	㎡	8,000	160
		外郭施設	防波堤撤去	m	220	220
		小 計				3,917
	起債事業	用地造成	護 岸	m	540	1,890
			ふ頭用地, 緑地 道路	千㎡	49*	98
		小 計				1,988
	民間事業	けい留施設	棧 橋	基	4	2,400
	合 計					8,305
高島	公共事業	けい留施設	浮棧橋	m	280	112
			浮棧橋	基	2	160
		水域施設	航 路(-7.5m)	千㎡	1,400	2,800
		港湾環境 整備施設	緑 地	㎡	44,000	880
		小 計				3,952
	起債事業	用地造成	護 岸	m	90	315
			緑 地	千㎡	100	150
		小 計				465
	合 計					4,417
	九	公共事業	物揚場(-1.5m)	m	60	90
			航 路(-1.5m)	千㎡	6	12
			泊 地(-1.5m)	千㎡	8	16
			防波堤	m	140	210
			防波堤撤去	m	30	30
		小 計				358
		起債事業	護岸	m	60	60
			ふ頭用地	千㎡	2*	4
		小 計				64
	合 計					422
蟠立	公共事業	けい留施設	物揚場(-1.5m)	m	100	150
		水域施設	航 路(-1.5m)	千㎡	3	6
			泊 地(-1.5m)	千㎡	9	18
		小 計				174
	起債事業	用地造成	護岸	m	415	415
			ふ頭用地	千㎡	9*	18
		小 計				433
	合 計					607

地区	種 別	施 設 区 分	施 設 名	単 位	数 量	事業費 (百万円)
正 儀	公 共 事 業	けい留施設	岸 壁(－10m)	m	340	4,080
			岸 壁(－7.5m)	m	130	1,040
		水域施設	航 路(－10m)	千 m ³	455	683
			泊 地(－10m)	千 m ³	437	656
			泊 地(－7.5m)	千 m ³	62	93
		臨港交通施設	道路	式	1	2,551
			橋梁	式	1	2,775
		港湾環境 施設整備	緑地	m ²	31,000	620
		用地造成	護岸	m	1,880	9,400
		小 計				21,898
	起債事業	用地造成	ふ頭用地,緑地 道路等	千 m ³	210	420
		小 計				420
合 計					22,318	
小 串	公 共 事 業	けい留施設	物揚場(－2.0m)	m	60	108
			物揚場(－1.5m)	m	95	143
			船揚場	m	5	5
		水域施設	航 路(－2.0m)	千 m ³	2	4
			泊 地(－2.0m)	千 m ³	10	15
			泊 地(－1.5m)	千 m ³	3	5
		外郭施設	防波堤	m	140	210
			防波堤撤去	m	55	55
		小 計				545
	起債事業	用地造成	護 岸	m	120	120
			ふ頭用地	千 m ³	7*	14
		小 計				134
	合 計					679
	西 米 崎	公 共 事 業	けい留施設	物揚場(－1.5m)	m	40
船揚場				m	5	5
水域施設			泊 地(－1.5m)	千 m ³	2	3
外郭施設			防波堤	m	90	135
小 計						203
起債事業		用地造成	護 岸	m	30	30
			ふ頭用地	千 m ³	2*	4
		小 計				34
合 計					237	
東 米 崎	公 共 事 業	けい留施設	物揚場(－1.5m)	m	70	105
			船揚場	m	5	5
		水域施設	泊 地(－1.5m)	千 m ³	2	3
		外郭施設	防波堤	m	50	75
		小 計				188
	起債事業	用地造成	護 岸	m	40	40
			ふ頭用地	千 m ³	1*	2
		小 計				42
合 計					230	
公 共 事 業 計					31,235	
起 債 事 業 計					3,580	
民 間 事 業 計					2,400	
総 計					37,215	

*用地造成は浚渫土砂を用いるので、表土(1m)分のみを計上した。

10. 新旧対照図

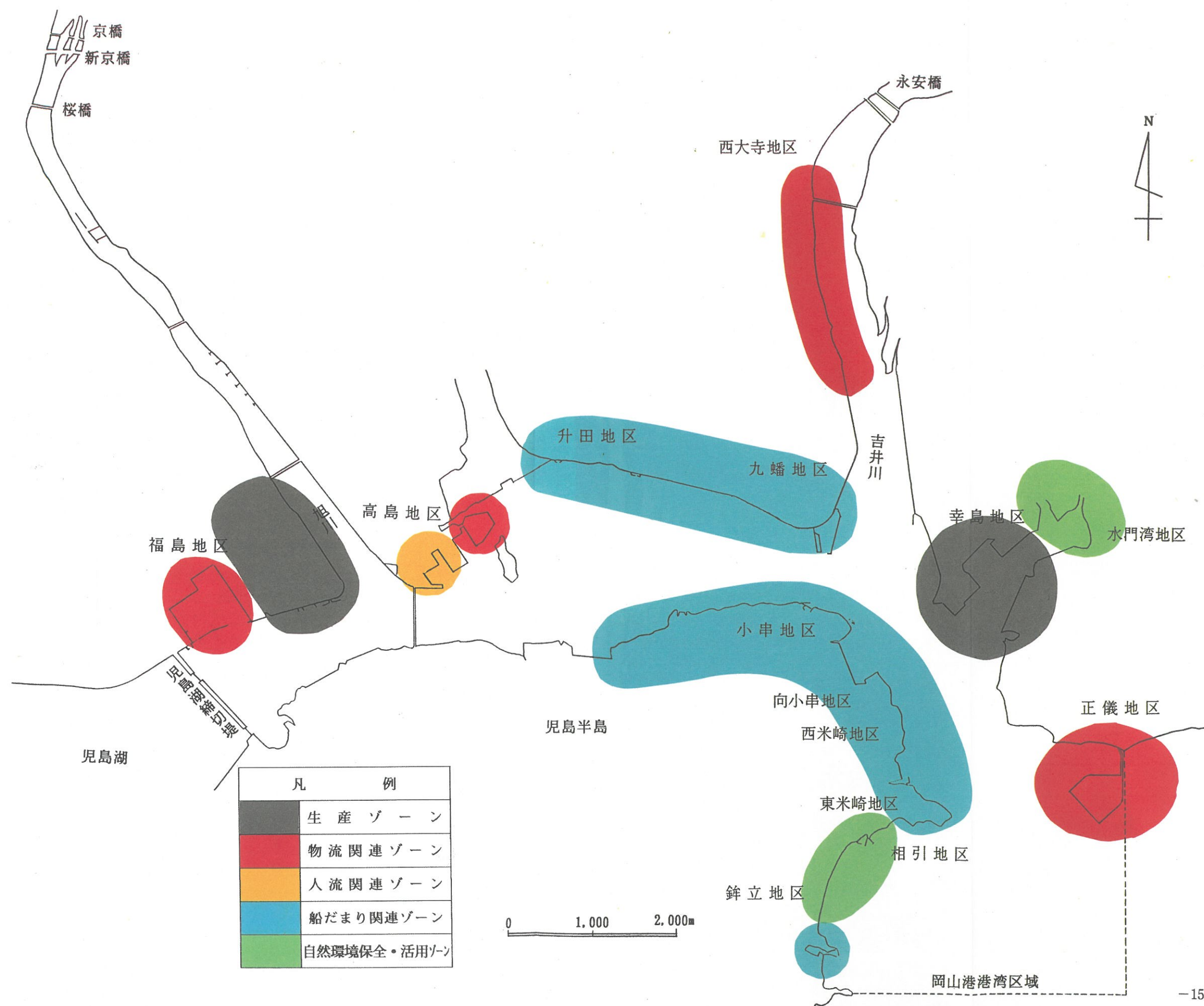








1 2 . 岡山港港湾利用ゾーニング図



1 3 . 関 係 機 関 と の 調 整

別添資料参照

岡山県地方港湾審議会委員名簿

平成7年6月現在
(敬称略、順不同)

1. 学識経験を有する者		
本 田 啓之輔		神戸商船大学名誉教授
伊原木 一 衛		岡山県商工会議所連合会会長
千 葉 喬 三		岡山大学農学部長
山 本 雅 道		岡山大学理学部教授
森 忠 次		福山大学工学部教授
山 下 隆 弘		福山平成大学経営学部教授
2. 港湾関係者		
三 宅 高 志		岡山県トラック協会会長
西 川 太		岡山県漁業協同組合連合会専務理事
山 崎 茂 幸		中国旅客船協会岡山支部長
小 山 昌 三		内海水先人会副会長
今 井 卓 雄		川崎製鉄(株)水島製鉄所長
木 村 浩		中国地方港運協会副会長
加 藤 厚		岡山県倉庫協会会長
岸 徹 夫		岡山県船主協議会理事長
馬 越 洋 造		全日本海員組合尾道支部長
3. 関係市町村を代表する者		
渡 邊 行 雄		倉敷市長
安 宅 敬 祐		岡山市長
山 根 敬 則		玉野市長
4. 県議会の議員		
加 藤 秀 明		岡山県議会議員
天 野 学		岡山県議会議員
古 山 泰 生		岡山県議会議員
5. 関係行政機関の職員		
高須賀 昌 平		宇野税関支署長
倉 本 春 三		水島税関支署長
稲 垣 紘 史		第三港湾建設局長
長 尾 秀 樹		中国運輸局玉野海運支局長
吾 川 浩 史		中国運輸局水島海運支局長
兼 友 祥 郎		玉野海上保安部長
則 包 辰 男		水島海上保安部長
吉 谷 進		中国地方建設局企画部長
6. 県の職員		
山 田 成 一		岡山県企画部長
大 畑 利 幸		岡山県地域振興部長
竹 内 俊 夫		岡山県土木部長